目次

刊行にあたって　174
せん年より御ふれふみ・二巻の内上　4
せん年より御ふれふみ・二巻の内下　1

刊行にあたって

本書は、大阪市立大学学術情報総合センター所蔵の『せん年より御ふれふみ』を翻刻し、紹介しようとするものである。

『せん年より御ふれふみ』は、分厚い横半帳上・下二冊から成っている。同史料は、古書店より購入されたもので、その編者・伝来などは不明であるが、編纂の意図や性格は、上巻冒頭の序文によってうかがうことができる。

それによれば、『せん年より御ふれふみ』は膨大となった町触れの検索の便宜のため、これを分類・編纂しようとしたものである。「御武家方之御作法」については、町人にとっては不要であると述べており、編者は町人身分の者であろうと推測される。この点をより明確に示してくれるのは、本文部分の中の「穢多」の部に、いわゆる河原巻物の一種（「縁太郎王子」の系列）を記入した後に「右河原仁書物一巻、隣町経師細工人之所へ、表紙を致させニ大坂蔵屋敷方ゟ来り有之を、筆まめ成近所之者写取、是を見せ申すニより、無用之者に候得共、爰ニ記置候」と注記してあることである。これにより、大坂のどこかの町の住人であることはより明白と言えよう。さらに本文部分の内容を見ていくと、「切支丹」の部に、寛文五年（一六六五）二月二五日付の町奉行所宛の町中の「吉利支丹」改の一札では「勘四郎町年寄いつミや善兵衛」が差出人のものが収録されている。また「飢人救之事」に収められた町内の飢人数の書上（卯一〇月八日付）も「勘四郎町年寄いつミや

善兵衛、月行司誰々」が差出人のものである。触れの内容に特定の町名が記される例は他にいろいろあるが、このような町の側から書上げ、提出する文書では「勘四郎町」のものしか見られない。このことは編者が勘四郎町に蓄積されてきた文書を身近に見ることのできる存在ではないかということを推測させる。おそらく、編者は勘四郎町の年寄か、少なくとも勘四郎町の町人であることは間違いなかろう（北勘四郎町、もしくは南勘四郎町のいずれに相当していくかは不明）。

次にこの史料の編纂された時期であるが、序文の年紀宝暦三年（一七五三）にほぼ出来上がったと思われる。しかし、目録部分の貼紙に「宝暦十一年巳十二月迄御法度書写申候」とあり、また実際に本文での追記も見られ、宝暦一一年（一七六一）頃まで部分的な追記がなされたと思われる。

内容的には、序文にもある通り、一―「御武家方御定」から、七十七―「町年寄用聞之丁人并町々丁代之事」までに分類・編纂され、基本的には町触が収録されている。但し、武家諸法度や、町からの書上げ、町名・橋名、あるいは河原巻物の写取など町触以外のものもかなり収録されている。冒頭部分に、これらの項目毎の目録が置かれているのも、序文にある通りである。

本書は、『大阪市史』第三巻・第四巻に収録された大坂町触などとつきあわせた検討はいまだ行なっていない。むしろ、内容をまずは紹介して、いろんな人がそうした検討を行なう基礎条件を整えることを目的として刊行するものである。

なお、本書は大阪市立大学大学院文学研究科の21世紀ＣＯＥプログラム「都市文化創造のための人文科学的研究」の一環として推進してきた史料蒐集・公開事業の成果である。

二〇〇四年三月

塚田　孝

せん年より御ふれふみ・二巻の内上

従御公儀様御触之品、餘多有之奉承知候処、年月を経候得は、心得違之事も有之時、其訳御文言奉拝見度折柄、御触状之写帳面出シ尋候得共、帳数も多く、其上数通一品ニ書込有之故、難見分候品も有之ニ付、前々ゟ御触状写シ帳面之内有増撰たし、左之通江符場を記シ、大概似寄候品を一所ニ写シ替置候、且御触文ニ題号せしめ候得とも、写違落等可有之哉にて覚束なき事ニ候得共、先大概左之通奉披見候ハヽ、すこしは心得ニも可成やニ候、可相守候

一、御武家方之御作法之事は、町人存而も無益之事ニ候得共、右写之次手ニ愚筆仕ものなり

一、此書物みたりニ他見不可有候

一、左ニ目録ニ番附有之候、彼番付ニ而其用要を奥ニ而操たし候、併若其所ニ尋候品無之時ハ、外ニ其品ニ似寄リ候所を相考ヱ披見申は可相知候

宝暦三酉三月写之

目録

一、御武家方御定　一丁目
一、御制札一件　二丁目
一、堂上家江諸町人出入申御用達之掟　三丁目

宝暦十一年巳十二月迄御法度書写申候

盗人宿之事
他町ニ有之家之事
浪人宿之事
博奕諸勝負之事
科人之事
盗物之事
自害之人之事
気上リ人を殺候事
町人喧嘩之事
傾城町喧嘩之事
同傾城を切候男之事
傾城町之外ニ女置事
辻切并倒死人之事
御城之堀え身をなけ候者之事
夫他国へ相越便り無之夫之生死不知女房之事
町人五人組をはつし度由申来り候事
久離之事
御城内下御屋敷若火事出来之時之事
町御奉行所組御与力同心衆屋敷若火事之時之事
御代官屋敷出火之時之事　四丁

四丁

町ニ而武家之家来喧嘩之事
火事場并召捕者有之時武家之家来不出掟
地方役人中へ申渡之事
壁書御法度之品々
公事吟味之掟
対　御直参之衆ニ慮外無之様ニ掟
公事日出勤吟味之品々
裏判目安之事
御同心御法度之品々
女手形之事
右小目録之外品々有之候其心得可有之候

御城入由緒町人之事
同　始テ御城入之者親類書之案文
武家之家来之由申或ハ隠目附と偽り町中を徘徊致し候者之事

一、金銀出入之一件
又欠所取上之一件
年賦之事
遠国出入之事

欠落人之事
手形題号之事
手鎖之者之事
倒人封印之事
御裏判之事
年季奉公人之事
公事出入之儀御触書之分
諸商売之事
問屋と商人相論之事
しなひ商人之事
商売ニ付書物取替之事
質物取置候事
跡式之事
家屋敷売買之事
欠落者家屋敷之事
境論之事
喧嘩之事
子供喧嘩之事
被官人喧嘩并盗賊之科之事

五丁

五丁

町之年寄五人組之相談不用者之事
親買掛り銀子買掛り銀之事
父母之制詞町之年寄之異見不用者之事　五丁
父母と子共（ママ）と出入之事
兄弟之出入之事
夫婦之出入之事
町人家人と出入之事
家屋敷を譲り候事
父母同心なき娘を奪取掟之事
後家後夫を求候掟之事
放火人之事
公事人之曖之事
謀書謀判之事　五丁
跡式之一件
公事場へ出候者作法之事
悪心之者有之時早速ニ可訴出之掟　五丁
吉利支丹之事
浪人ニ宿借事御停止
町人火用之事
諸商売事ニ付手形を取替事

家売買境論之事
跡式之事
町中ニ而身体倒之事
跡式書置ふつまりニ無之様可仕事
親子兄弟夫婦親類出入ニ付御下ケ願之事
御奉行所ゟ御預ケ者之事
奉公人引負之事　五丁
町中家質之事
町人名前之事
借屋人名前之事
目安付候者病気断之事
田地質之事
座頭官金之事
捨文之事ニ付公事人溜りニ目安箱出候事
喧嘩口論之事
於町中ニ捕者討者有之時之事
右同事之時武家之家来出合間敷事
人売買停止之事
年季奉公人之事
古来ゟ其領内ニ有来輩

五丁

他国へ行住宅候者呼返之事欠落者ニ付品々　五丁
身体倒之事
被盗物之断之事
捨物之事
公事訴訟ニ付腰を押者之事
諸職人手間取請人之事
売券状年寄五人組判形之事
町年寄会所屋敷家質并売券状之事
住宅之家主幼少ニ付代判事
親類之分分散之時除候事
身体倒之法之事
京都支配町人百性へ大坂支配之町人百性ゟ願等有之時之掟
御目附衆様年々御交代前ニ公事人溜りへ出候目安箱之事　五丁
御預ケ者之事
御追放者之事
公事人病気断見届之事
公用ニ付町之年寄病気之断丁人願之時名代等之儀掟
出入目安ニ年寄家主奥印之事
江戸表御触金銀出入御裁許之事
諸公事出入吟味ニ付奉行所御家来御与力御同心へ手寄有之由を立金銀等偽り取候者之掟　五丁

町方目安御裏判裏印之上訴訟人へ渡シ相手之町へ被遣候事　五丁
公事人公事場へ出候作法之事
御両役所ゟ町家へ御銀御貸被下候事
町人他所他国へ引越之掟
一、欠落人之品・御触書　六丁
一、女手形之事　七丁
一、上々様　八丁
但御恐悦之儀
崩御
薨御
逝去等之御触状写
一、御巡見之一件　九丁
一、宮之事　十丁
一、諸宗之事　十一丁
一、切支丹之事　十二丁目
一、山伏之事　十三
一、朝鮮人之来朝之事　十四
一、浪人并武士宿手形之事　十五
一、往還人等之一件　十六

一、馬方之事　十七
　并仲仕之事
一、朱座之事　十八
一、銀座之事　十九
　并文字銀吹改之事
　潰金銀并道具類金銀札遣候事
一、水銀之事　廿
一、薬種之事　廿一
　并唐物之事
　長崎物之事
一、分銅之事　廿二
一、秤之事　廿三
一、升之事　廿四
一、暦之事　廿五
一、丹之事　廿六
一、銅之事　廿七
　并鉛之事
一、両替屋之事　廿八
一、北浜米市遣操両替株之事　廿九
一、質屋之事　三十

一、着類諸色賃貸之事　卅一丁目
一、盗人を捕候時之事　卅二
一、古金屋仲間之事　卅三
一、古手屋仲間之事　三十四
一、酒株之事　三十五
一、大工之事　三十六
一、諸材木屋竹屋之事　三十七
十人会所支配
一、木挽之事　三十八
一、日用　三十九
左官之事
一、屋根ふき之事　四十
一、瓦屋并瓦葺之事　四十一
一、医者并陸尺之事　四十二
一、諸廻船川船之事　四十三
一、西国年季之仕置　四十四
一、川筋之事　四十五
浜側浜納屋之事
一、家請人之事　四十六
一、床髪結之事　四十七

一、旅籠屋之事　四十八
一、芝居之事　四十九
一、銭湯屋之事　五十
一、町人家作之事　五十一
一、町人作法之事　五十二
一、自身番之事　五十三
一、博奕之事　五十四
一、久離之事　五十五
一、自害
首縊　之事　五十六
行倒人
一、捨子之事　五十七
一、飢人救之事　五十八
一、鉄炮之事　五十九
一、火事場之事　六十
一、花火線香之事　六十一
一、干鰯　菜種問屋
油粕　綿実問屋
下屎
油　六十二

油樽屋　六十三
一、糠商売人之事　六十四
一、箔屋之事　六十五
一、堺たはこ庖丁之事　六十六
一、殺生人之事　六十七
一、職人
一、茶屋
風呂屋　一件　六十八
煮売屋
一、傾城町　一件　六十九
并隠遊女之儀
一、穢多村ゟ町方大道端々小便桶指置候事始り　七十
一、大坂　町名　七十一
天満　橋名
一、摂州河州御朱印寺社　七十二
一、家質利銀元銀ニ不構利銀斗滞出訴之聞書　七十三
一、虚無僧　七十五
一、綿延売場御免　七十六
一、銭小貸会所御免
一、町年寄用聞之丁人　七十七

并町・丁代之事

武家方

武家諸法度

一、文武の道を修め人倫を明かにし、風俗を正しくすへき事
一、国郡家中之政務、各其心力を尽し、士民之怨苦を致すへからさる事
一、軍役の兵馬を整備へ、公役之支科を儲蓄ふへき事
一、参勤の交替其定期を違ふへからす、従者の員数其分限ニ過へからさる事
一、江戸城下召供之者、貴賤大小又各分限を可守事
一、新築之城郭、私ニ経営する事を聴さす、其修築ニ致てハ堀土居石垣等は
上裁を仰くへし、矢倉門屏等は制限ニあらさる事
附、道駅橋渡人馬等ハいふニ及申、私の関所津留等往来の煩をなす事を聴さす、荷船之外五百
石以上之大船を造へからさる事
一、大小之諸役諸番之頭人等、権勢ニ依りて人を凌き、公役を仮りて私を営むへからす、同列相和
きて衆儀を会し、上聞を壅かすして下情を通し、偏頗なく贔屓あらす、各職事ニ練習して公務を
精勤すへき事
一、貨賄を納れて権勢之力を仮り、秘計を廻して内縁之助を求む、皆是邪路を開きて正道を害す、

政事之よりて傷るゝ所也、一切ニ禁すへき事

附り、上裁を仰くへき事あるにおゐてハ、或ハ奉行或頭人、各其支配ニ就て申上へし事、若内奏秘計ニ渉らは、たとひ理運の申条たりといふとも、ことさらに恩許あるへからす事

一、郡飲佚遊之旧制既ニ明白なり、凡奢靡を競ひて礼制ニよらす、財利を貪りて廉恥をかへりミす、妄りニ人材之長短を論し、窃かニ時事之得失を議す、風を傷り俗を敗る事、是より甚敷ハなし、厳ニ禁止を加ふへき事

一、私領百性(ママ)之訴論ハ其領主之裁断たるへし事、若他領に像るニおゐてハ、或ハ両地之領主互ニ相へし、或支配の頭人各相会して儀定すへし事、なを一決し難きニおゐてハ、評定所ニ就て裁決を請はしむへき事

一、越境之違乱、私之争論ニ及ふへからす事、若相和らき難きに到らは、各其趣を以、奉行頭人等ニ申へき事

一、附本主其仕塗を禁するの輩召仕ふへらかす事

一、若非常之変有之時ハ、其所有之随ひて、或宅地或領地各其所を守りて、妄りニ動かす、速ニ其事を注進すへき、若刑罰之事有之時ハ、使たる者之外私ニ出合事をゆるさす、凡使として差遣す者、其人之高下を其事之大小を論せす、敢て対捍あるへからす事

附、殿中ニおゐて急変出来しハ、同席の輩これをとりはからひ、其余は其所を守りて妄りニ動へからす、若其同席ニ人なきニ到てハ、其所ニ近キ者ともとりはからふへき制限ニあらさる事

一、衣服居宅之制并宴饗之供賄遺の物、或ハ僭侈ニ及ひ或ハ節倹ニ遇し、皆是礼文之節ニあらす、遺賤おの〳〵其名分を守りて太過不及ニ到へからす事

附、衣服の制、公卿以上ハ白綾、五位以上は白小袖を用ゆる事をゆるす、紫袷紫裏練無紋等の

小袖を用ゆる事をゆるさす、軽き者共之衣服等各其分限を踰へからす、其他皆よろしく旧制ニ准すへき事

一、乗輿之制、凡万石以上より国主の適子・衆子・城主并侍従以上之適子等ニ到り、其余年五十以上之輩之外、妄ニこれをゆるさす事、医師僧家ハ制外之事

一、婚姻ハ凡万石以上・布衣以上役人并近習之輩等、私ニ相約する事をゆるさす、若くハ　公家之人々と相儀するにおゐてハ、まつ上裁を蒙りて後、其約を定へし、嫁娶の儀式すへて旧制を守りて其分限ニ相随ふへき事

附、近世の俗婚を儀するニ、或ハ聘財之多少を論し、或資装の厚薄を論し、甚しくてハ貴賤相黨らさる者婚をなすニ到る、此等之弊俗一切ニ禁絶すへき事

一、継嗣ハ其子孫相承すへき事論するに及はす、子なからん者ハ同性之中その後たるへき者を撰むへし、凡十七歳より以上ハその後たるへき者を撰、現存の日ニ及ひて望請ふ事をゆるす或ハ実子なくしてその後たるへき者を撰むのこときは、親類家人等儀定之上を以て上裁を仰くへし、若其望請ふ所理ニおゐて相合はす、并其病危急の時ニ臨ミて望請ふ所のことき、其濫望をゆるすへからす、しかりといゑとも或は父祖の功績或者其身之勤労望請ふ所なしといふとも、別儀を以て恩裁の次第あるへき事

附、同性の中継嗣たるへき者なきニおゐてハ、旧例ニ准して異性之外族を撰ミて言上すへき、近世の俗継嗣を定むる事、或者我族類を問すして其貸財を論するに至る、人之道たるかくのことくなるへからす、自今以後厳ニ禁絶すへき事

一、殉死之禁、更ニ厳制を加ふる所也、或徒党を植（ママ）て或ハ誓約を結ふ之ことき、妄りニ非儀を行ひて敢て憲法を犯すの類、一切ニ厳禁すへき事

一、諸国散在之寺社領、古より奇附之地等これを没却する事をゆるさす、新建の寺社到てハ停止既ニ訖りぬといふとも、もし故ありて望請ふへき事あるにおゐてハ　上裁を仰く事をゆるす、且は耶蘇の厳禁ハいふニ及はす、たとひ古より流布の諸宗たりというとも、或新異の法を立、或ハ妖妄之説を作りて愚俗を欺き惑はすの類、是又厳禁すへき事

右条々旧章ニ由りてこれを修飾す、すへて教令の及ふ所遠近一ツニよろしく遂行すへき者也

宝永七庚寅四月十五日

右之通御条目出候間写遣候、可被其（ママ）意候、以上

四月廿五日

中山出雲守
大久保大隅守
平岩若狭守
萩原近江守

一、諸大名蔵屋敷へ御宿候得ハ、御参府御帰国何時今日御着之由書付仕、御番所へ丁代持参差上候事

一、武士出家之旅人ハ宿手形差上ヶ、出家ハ廿日切、又逗留仕候得は其上申上候而、又廿日切也

正徳元年卯八月十五日被仰渡御高札御文言

定

一、親子兄弟夫婦を始め諸親類ニしたしく、下人等ニ至迄、是をあハれむへし、主人ある奉公ハ、をの〳〵其奉公人精をいたすへき事

一、家業を専にし懈たる事なく、万事其分限ニすくへからさる事

一、いつはりをなし又ハ無理をいひ、惣而人の害になるへき事をすへからさる事

一、博奕之類、一切禁制之事

一、喧嘩口論をつゝしミ、若其事ある時みたりに出合へからす、手負たる者隠し置へからさる事

一、鉄炮猥ニ打へからす、若違犯之者あらハ申出へし、隠置他所ゟあらハるゝにおいてハ、其罪重かるへき事

一、盗賊悪党之類あらハ申出へし、急度御褒美可被下候事

一、死罪に行はるゝ者ある時、馳集るへからさる事

一、人売買かたく停止す、但シ男女之下々或ハ永年季或ハ譜代に置事ハ、相対ニ任すへき事

附り、譜代之下人又ハ其所ニ住来る輩、他所へ罷越妻子をもち有付候は、呼返すへからす

但、罪科ある者、制外之事

右条々可相守之、若於相背者可被行罪科者也

正徳元年五月日　奉行

右従　江戸之御制札也

定

一、毒薬并似せ薬種売買之事、禁制す、若違犯之者あらハ其罪重かるへし、たとひ同類といふ共、申出るにおいてハ、其罪ゆるされ、急度御褒美可被下候事

一、似せ金銀ハ売買一切停止、若似せ金銀あらハ、金座銀座へつかわし相改へし、はつしの金銀も是又金座銀座へつかわし可相改事

附り惣而似せ物すへからさる事

一、寛永之新銭、金子壱両ニ四貫文、壱歩ニ壱貫文たるへし、御料私領とも二年貢収納等ニも御定之ことくたるへき事

一、新銭之事、銭座之外一切鋳出すへからさる事

一、新作之慥ならさる書物、商売すへからさる事

一、諸職人いひ合せ作料手間賃等高直ニすへからす、諸商売物或ハ一所ニ買置しめ売、或ハいひ合せ、高直ニすへからさる事

一、何事ニよらす、誓約をなし徒党を結ふへからさる事

右条々可相守之、若於相背ハ可被行罪科者也

正徳元年五月　　奉行

右従　江戸之御制札也

定

一、きりしたん宗門ハ累年御制禁たる、自然不審成者有之ハ申出へし、御褒美として

はてれん之訴人　銀五百枚

いるまん之訴人　銀三百枚

立帰り者之訴人　同断

同者并宗門之訴人　銀百枚

右之通可被下、たとひ同宿宗門之内たると云共、申出る品ニより、銀五百枚可被下、かくし置他所ゟあらハるゝニおゐてハ、其所之名主并五人組迄一類共ニ可被行罪科者也

正徳元年五月日　奉行

右従江戸之御制札也　安房

甲斐

定

一、駄賃并人足荷物之次第

御伝馬并駄賃之荷物壱駄　重サ四十貫目

歩持之荷物壱人　重サ五十貫目

長持壱挺　重サ三十貫目

但、人足壱人持重サ五貫目之積り、三十貫目之荷物ハ六人して持へし、それより軽キ荷物ハ貫目ニしたかひ人数減すへし、此外いつれ之荷物もこれニ准すへし

乗物壱挺　次人足六人

山乗物壱挺　次人足四人

一、御朱印伝馬人足之数、御書付之外ニ多く出すへからさる事

一、道中次人足次馬之数、たとひ国持大名たりといふ共、其家中共ニ、東海道一日ニ五十人五十疋ニ申　此外之伝馬道ハ弐十五人弐十五疋限へし

但、江戸・京・大坂之外、道中ニおゐて人馬共ニ追通へからす事

一、御伝馬駄賃之荷物ハ、其町之馬不残出すへし、若駄賃馬出おそく入時在々所々よりやとひたと

ひ風雨之節と云共、荷物遅々なき様ニ相はからふへき事

一、人馬之賃、御定外増銭を取ニおいては牢舎せしめ、其町之問屋年寄は過料として鳥目五貫文ツゝ、人馬役者ハ家壱軒より百文ツゝ出へき事

但、往還之輩、理不尽之義申掛ヶ、又ハ往還之者対候非分之事不可有事

右条々可相守之、若於相背ハ可為曲事者也

正徳元年五月日　奉行

右従　江戸之御制札也　安房

甲斐

定

一、大坂ゟ之駄賃并人足賃銭

牧方迄

荷物壱駄　弐百五十五文

乗掛荷人共ニ　同断

から尻馬壱疋　百六十六文

附、あふつけハから尻ニ同し、それより重キ荷物ハ、本駄賃銭ニ同したるへき事

守口迄

人足壱人　四十四文

堺迄

乗物壱挺　百廿三文

乗掛荷人共ニ	同断
から尻馬壱疋	七十九文
人足壱人	五十九文
平野迄	
荷物壱駄	七十九文
乗物(ママ)荷人共ニ	同断
から尻馬壱疋	五十三文
人足壱人	三十九文
松原迄	
荷物壱駄	百弐十三文
乗掛荷人共ニ	同断
から尻馬壱疋	七十九文
人足壱人	五十九文
伊丹迄	
荷物壱駄	百八十六文
乗掛荷人共	同断
から尻馬壱疋	百弐十五文
神崎迄	
人足壱人	四十壱文
尼崎迄	

荷物壱駄　百三十六文
乗掛荷人共ニ　同断
から尻馬壱疋　八十七文
泊々にて木賃銭
主人壱人　三十五文
召仕壱人　十七文
馬壱疋　三十五文
右之通可取之、若於相背ハ可為曲事
正徳元年五月　奉行

定

一、火事出来之時、みたりニ馳集るへからす、但役人差図之者ハ格別たるへき事
一、火事場へ下々相越、理不尽ニ通るニおいては、御法度之旨申きかせ、通すへからす、承引なき者ハ搦捕へし、万一異義(ママ)ニ及はゝ討捨たるへき事
一、火事場其外いつれ之所ニ而金銀諸色ひろいとらハ、奉行所迄持参すへし、若隠置他所よりあらハるゝにおいてハ其罪重かるへし、たとひ同類たりと云共、申出る輩ハ、其罪をゆるされ御褒美可被下事
右之条々可相守之、若於相背ハ、可被行罪科者也
正徳元年五月日　奉行

定

一、火を付る者をしらハ、早々申出へし、若かくし置においてハ、其罪重かるへし、たとひ同類たりといふ共、申出るにおゐてハ、其罪をゆるされ、急度御褒美可被下事

一、火を付る者を見付候は、これを捕、早々奉行所へ召連きたるへき事

一、あやしき者あらハ、せんさくをとけて、早々召連きたるへき事

一、火事之節、地車・たいはち車にて荷物をつみのくへからす、鑓・槍刀・刀脇指等、ぬきみにすへからす事

一、車長持停止す、たとひあつらへ之者あり共、造るへからす、一切商売すへからさる事

右之条々可相守之、若於相背ハ、可被行罪科者也

正徳元年五月日　奉行

一、公儀之御船ハいふに及はす、諸廻船共逢難風時は、助船出し、船不破損ニ成程、精を出すへく事

一、船破損之時、其所之近き浦之者、精を出し、荷物船具等取揚へし、其揚所之取揚者ニ浮荷物ハ弐十分一、荷物之内流荷物ハ拾分一

但、川船ハ浮荷物ハ三十分一、沈荷物ハ弐十分一、取揚者ニ可遣之事

一、沖にて荷物はねる時、着船之湊において其所之代官・手代・庄屋出合、遂穿鑿、船ニ相残荷物船具等之分、可出証文事

附、舟頭・浦之者申合、荷物ぬすミ取之、はねたると偽においてハ、後日ニ聞といふ共、船頭ハいふニ及はす、申合輩ニ至迄、其罪重かるへき事

一、湊に永々船を掛置輩あらハ、其子細を所之者相尋、日和次第早々出船いたすへし、其上にて令難渋ハ何方之船と承、届之近辺ハ其地之地頭・御代官、遠方ハ御勘定奉行又ハ其辺之奉行所へ急度可申達候事

一、御城米廻之刻、船具・水主不足之悪船ニ不可積之、并日和能節於船破損ハ、船主・船頭可為曲事、惣而理不尽被申掛之、又ハ私曲於有之ハ、可申出之、縦雖同類と其科をゆるされ（ママ）、御褒美可被下事

一、自然寄船并荷物於流来ハ可揚置之、半年過迄荷主無之においてハ揚置之輩可取之、若右之日数過荷主雖為出来、不可返之、雖然、其所之地頭・代官可受差図事

一、博奕惣而諸之勝負、堅停止たるへき事

右条條々可相守之、若於相背ハ、可被行罪科者也

正徳元年五月日　奉行

右従江戸之御制札也　安房

甲斐

摂河城三ヶ国御両殿様

御名有之御高札所付

一、京橋壱丁目南詰

一、同　四丁目八軒や

一、天満弐丁目天満橋北詰

一、片原西町京橋北詰
一、高麗橋壱丁目西詰
一、北濱壱丁目難波橋南詰
一、新地壱丁目難波小橋西詰
一、安次（ママ）川北壱丁目芦分橋
一、下清水町平野口
一、上本町札之辻町
一、立慶町日本橋南詰
一、長堀高橋南側
一、摂州河辺郡伊丹町
一、同　西成郡木津村
一、同郡　今宮村
一、同　同郡　北伝法村
一、河州丹北郡三宅村
一、摂州川辺郡昆陽村
一、〃　同郡　小濱村
一、〃　豊嶋郡瀬川村
一、同　嶋下郡道祖本村
一、同　有馬郡生瀬村
一、同　兎原郡河原村

一、城州笠置村
一、河州大縣郡峠村
一、同　石河郡新堂村
一、城州伏見
一、河州若江郡伏見
一、河州河内郡枩原村
一、同　志紀郡柏原村
一、同交野郡楠葉村
一、同渋川郡久宝寺村
一、摂州西成郡柴島村
一、同郡　三軒屋町
一、同郡　三軒屋村
一、同郡　九条村
一、河州茨田郡守口宿
一、摂州有馬郡湯山町
一、同　西成郡難波村
一、河州錦部郡三日市村
一、同茨田郡牧方宿
一、摂州東生郡天王寺村
一、同郡　今福村

一、城州下三柄村
一、摂州豊嶋郡半町村
一、同　西成郡南伝法村
一、同　住吉郡住吉
一、河州古市郡誉田
一、同　錦部郡天野山
一、摂州豊嶋郡岡町
一、河州石川郡叡福寺
一、城州泰豆村
一、摂州嶋下郡吹田村
合五十六ヶ所

三丁

堂上方へ出入之町人之控

当表町人并店借り之者ニ到まて、堂上方へ仕送り用達相務候と申立、表札等差出候義、町内障り之有無も不糺、堂上方へ願候者有之、心得違之事ニ候、向後は堂上方へ願候者は勿論、彼方ゟ被申付候とも不請合、以前ニ奉行所へ断出候様、三郷町中店借り之者共へも不洩様ニ可触知者也

宝暦二申十一月廿六日

一、京都東山光雲寺儀、御代々
尊牌奉安置候御佛殿、并
東福門院様御牌殿・女三宮様御霊屋等及大破候ニ付、古来　東福門院様為
御供養料被下置御祠堂金之残、并延享三寅年勧化致候節、寄金有之ニ付、右之金子於京都・大坂
ニ貸付ニ致し有之所、元利滞ニ付、右借り請候者ハ元利共無滞返済可致之旨、宝暦三酉年四月ニ
町触有

一、城州紀伊郡上鳥羽村桂姫、疱瘡安産守大坂へ来り弘ル、宝暦三酉年六月

四丁

覚

一、討者捕者有之刻、至其場奉公人出合之儀、御法度候間、狼藉者討捨ハ不苦、侍ニ縄を掛ケ被申
間敷候、刀脇指を取払、はがひつけニ致し、召連可被参候、小者ハ縄をかけ候而も不苦候、捕候
者私ニゆるし被申間敷事
一、火事場へ奉公人於出向は相改、侍ハ刀脇指を取、召連可被参候、小者は縄を掛ケ候而も不苦、

すまひ候ものハ討捨可被申候、右同断

一、町人盗人之証拠不分明者、是又はかひ付ニ致し可被参候、大形は町之者ニ渡、召連参候得は可被申付事

一、於屋敷下穿鑿を以盗人ニ相極候者、様子被申聞、其上直ニ聞届、縄をかけさせ可申候、若又隙入直ニ不聞之時は、可相待差図候、卒爾ニ搦被申間敷候事

一、のらもキ乃者ハ、如例何方ニ而も縄をかけ候而も不苦事

右之通、卒爾之儀候得ハ、面々為ニ候之間、如此申出者也

子四月五日　孫太

丹波

両与力中

覚

吉利支丹宿之事

一、請人を取、宗旨之儀能吟味致、請状ニも書入させ、寺請を取、不残所出入念は、宿ニ無咎候間、令赦免請人ニ掛るべし、家主無念候儀有之而於借置は勿論、請人可為同罪事

一、五人組之事、組中へ他所ゟ来、宿借候者有之は、第一宗旨之改可仕候所、家主不念宿借を無、其穿鑿差置候五人組ハ、勿論可為籠舎事

一、請人之事、家主并五人組宗旨改念を入、請人手前をよく吟味仕上は、請人壱人之科ニ可相極事

盗人宿之事

一、従先規本人同罪也、縦請人雖有之、穿鑿之上、不念之儀ハ不遁其科、軽重依其時之品ニ可申付事

一、五人組之事、穿鑿之上、籠舎又ハ籠扶持を可申付事

一、借屋之者宿借候事、五日・三日当座之宿は、借屋之者可為曲事

但、盗人久敷致住宅は、家主も可為同前事

他町ニ有之家之事

一、借屋ニ科人有之時ハ、名代之者籠舎可申付、但名代之者申分有之而、家主越度ニ於相極は、勿論家主可為曲事事

一、五人組之事、右ニ如有之、致不念置候五人組、勿論可為籠舎事

一、借屋之者、科人ニ宿借候事、五日・三日当座之宿ハ、借屋之者可為曲事、久於住宅は、名代之者も可為同科事

牢人宿之事

一、従先年御法度旨度々相触候所、令違背猥ニ宿貸候者有之は、如例可令籠舎、并手負等於隠置は、穿鑿之上、或死罪或ハ籠舎可申付事

博奕諸勝負之事

一、致宿候者本人ゟ為曲事、家屋敷令欠所、其身ハ籠舎可申付事

一、両隣五人組之者も籠舎可申付事

右之趣可被相心得候、穿鑿之刻、若此方失念有之而、申渡様子相違有之共、其時之役人無遠慮覚書之通、可被申聞候、為其宿主科之軽重書出者也

慶安元年四月　孫太

丹波

両与力中

覚

一、科人　盗人、人売、

似せ銀、似せ銭鋳

妻子之事、男子ハ斬罪、女房・娘・下女・下人等は奴ニ成候、并家屋敷有之は、勿論欠所申付候事

一、御料・私領、所々ニ而、従奉行所改出候捕候科人之妻子は、公儀奴と成候、并雑物同前、其所ニ預ケ置、江戸申上、御老中御差図次第ニ可仕候、家屋敷は、其所之欠所ニ成候、御代官給人改出候得は、妻子雑物等御代官給人進退ニ而候事

一、中国・四国・九州筋ニ而爰元ゟ改出候科人妻子之事、男子斬罪、女房・下女・下人ハ其所之奴ニ可被仕候由申遣、此已前ハ当地ゟ構無之由、然ル所、去年亥年大坂ゟ江戸道中、盗人之穿鑿当地之与力・同心被仰付、所々ニ而盗人捕、其所ニ預ケ置、江戸へ罷下、致言上候得ハ、其所々ニはり付ニかけ可申旨被仰付、御老中ゟ奉書を被遣、御料・私領ニおゐてはり付ニかけ、男子ハ斬罪、女房・下人・下女ハ公儀奴ニ成候、雑物之内軽物ハ江戸へ差上、鍋釜桶等ハ家ニ付、其所之

欠所ニ成候、三州ゟ上方奴ハ板倉周防守・水野石見守・五味備前守・大坂町奉行両人ニ被下候、又遠州ゟ東之奴ハ江戸ニて御役人衆へ被下候、如此ニ候間、重而ハ五畿内は不及申、西国方此方ゟ穿鑿之科人死罪之者有之時ハ、奴并雑物等其所ニ預ケ置、御老中へ得御意、御指図次第可仕候事、

一、西国方科人、或ハ斬罪、或ハはり付ニ被行候様ニ申遣し候事、去酉年人売多有之刻は、人売之御仕置終ニ西国方へ不被仰出候故、当地ニ而同罪之もの行候様子申遣し候事

一、欠落之者妻子之事、重科之者ハ日切之札を立、日限過、本人不出候得は、女房・男子死罪ニ行、女子・下女・下人は奴成候、同軽罪之者ハ妻子・下女・下人等も奴ニ成候、并家屋敷有之ハ勿論欠所申付候事

盗物之事

ぬすまれ候者、改出候得は其ニかへし、従　公儀改出候ものは欠所ニ成候事

一、町人・同下人・下女等、自害之事、其町之年寄ニ惣代を相添見せ候而、自害人之諸親類申分無之様ニ可仕旨申渡候、但自害之様子不審成事有之而、穿鑿可仕儀は、与力又ハ同心遣候時も可有之事

一、気上候而人を殺候事、首を切、ためし不申候、死骸ハ親類ニ取せ申候事、

一、町人喧嘩之事、疵を付候得ハ切かへしたゝきかへし候様ニ申付候、但大法ハ如此、疵付候者ハ疵直り、たゝき候ものハ痛入置候て可申来候、其節可申付旨、口伝

一、傾城町喧嘩之事、被切損ニ成構無之候、但相手其場ニ留置申来候ハゝ、此方ゟ可申付候、其場をのかれ候者は穿鑿有間敷候事

一、同傾城を切候男之事、女之生死無構、男斬罪申付、盗人同前ニ損シ申候、但侍ニ而候ハヽ可為切捨事

一、傾城町之外傾城置候事、改出候ハヽ、其女ニ暇を遣し身を侭ニ申付候事

一、辻切并たをれ死人之事、其所ゟ申来候時、致三日番をさらし候而、其内親類も不来候ハヽ、埋候得と申付候事、

一、御城之堀へ身をなけ候もの之事、御城中ゟ取揚被申候、一日さらし申候、番ハゐたニ申付候、親類も不来候得は、右同前ニ申付候事

一、夫他国へ罷越、便も無之、夫生死も不知女房之事、子於有之ハ如何様ニも五年相待、六年目ニは心次第ニ可仕候、子無之女は三ヶ年相待、四年目ニハ縁付可申由、申付候事

一、町人五人組之中間をはつし申度由申来候事、不作法成儀有之而　公儀御法度も相背可申との義候哉、左様之もの相極候ハヽ大坂中払可申候、年寄之気ニちかひ、私之遺恨を以五人組迄ニ申合組をはつし可申との義候哉、左様之事ニ候ハヽ、私ニ而候間、隣町之者肝煎、中を直し可申由申付候、但悪事於有之は重而可申来旨申付候事

一、久離之事、親兄申来次第帳ニ付候、久離帳ニ付候以後、子悪事仕候而も其科親ニ不掛候、又子欠落仕候而久離事申来候儀、右同前、但継母ニテ子之料無之事も候故、双方之様子聞届、子之悪事無之候ハヽ、町之者致詫事取せ候得と申付候事

両与力万事同前ニ為可被相心得書出候間、自然此方ゟ失念有之而相違之事有之共、其時之役人無遠慮可被申候也、

子四月五日　孫太

丹波

両与力中

覚

一、摂津守殿・弾正殿・石見殿下屋敷、并役人衆御屋敷・侍屋敷、火事出来之時ハ内町之人足手桶を可持来事、
一、天満町奉行・与力・同心屋敷火事出来之時は、天満町人足共手桶可持来事

覚

一、御役人衆屋敷ニ火事出来候時、所切ニ互ニ見廻可被申事
一、御代官衆屋敷火事有之時は、御代官衆ハ互ニ見廻可被申事、御役人衆へ見廻可為無用候、勿論御役人衆・御代官衆へハ何方も町屋ニ而候間、見舞可被申候儀、可為無用候事、
一、町中ニ而互奉公人喧嘩仕候時、主人ゟ人を被越候事、可為無用候、其町ゟ可申来候間、丹波守孫太夫、与力・同心を遣し埒明可申候、双方ゟ出合候得ハ、大ニ成さわかしく候間、可為其心得事
一、奉公人と町人喧嘩之事、猶以丹波守孫太夫可申付候間、人を被越候事、堅可為無用事
一、火事并召捕者有之所へ奉公人出合候儀、御法度候間、堅可被申付候、此段度々申渡候事

松平孫太夫
曽我丹波守
内藤石見守

子十二月

保科弾正忠
稲垣摂津守

御役人衆・御代官衆へ右之書付被遣候、火事役人為心得写被遣候之由、黒崎儀太夫申上候事

地方役

地奉行へ申渡覚

一、町中境論其外不依何事、検使ニ被参候時、様子被致見聞、諍論之輩双方召連、番所ニ而穿鑿尤ニ候事

一、其町ニ而穿鑿仕候ハて、不叶儀は其町之会所ニて吟味可仕候、会所無之町は諍論無之他所之家ニて可被致穿鑿候事

一、町人訴訟之儀有之而、面々宿へ参り候ハヽ、四人申談、屋敷〳〵罷出、番所ニ而一所ニ聞可申由被致返答、宿へ訴訟人呼入、挨拶可為無用候事

一、四人月行事相定、其月ゟ当番三人へ被申達、右之通ニ屋敷へ罷出、穿鑿之義も訴訟をも聞可罷申候、但依に事、月行事所ニ而も相談不苦候、月番ニ而も壱人ニ而も町人を呼入、挨拶可為無用事

一、町中へ被罷出、会所其外御用被相達候所ニ而、茶たはこ之外ハ酒・肴・菓子以下も給申間敷事

右之通、如前々堅可被相守候、万事相談之上少々之儀も可被申聞候、依に事当座之目付を遣候義も可有之候、以上

寛文弐年　壱岐

隼人

地奉行四人

両与力中

壁書品々

条々

一、喧嘩口論可被相嗜、若違背人於有之は、如御法度、双方可為曲事事

一、町人用之事申来候共、当番之外、取次可為無用事

一、公事人頼候共、取持被仕間敷事

一、町人手前ゟ礼儀礼物取被申間敷事

一、他国之者来、何事を頼候共、於町中為私馳走被仕間敷事

一、不依何事此方ゟ不申付儀、於町中私ニ被仕間敷事

一、傍輩中不覚悟成仁於有之ハ、互ニ異見被申、承引於無之は、可被申聞候事

附、歩行同心悪事、并各下知を違背之者於有之は、見聞次第急度可被申聞事

一、他所之者と参会無用之事

一、傍輩中互振舞無用之事、但不時之参会ハ可為格別事

右之通、堅可被相守者也

寛文弐四月廿八日

壱岐

隼人

掟

一、科人有之時、捕者番之仁可被罷出候、其外は此方ゟ指図次第、同心を召連可被参事
一、徒同心共捕者有之時、一二を申定諍無之様ニ可仕候、并与力差図違背仕間敷事
一、火事出来之刻、先屋敷迄被参、是ゟ火事場へ可被参候事
　但、宿ゟ勝手能方へハ徒同心召連可被参候事
右之条々、寛永十一年閏七月十三日先代被申渡候通、弥可被相守此旨者也
寛文弐四月廿八日　壱岐
隼人

両与力中

条々

一、与力中誓詞之外、万事累年丹波守隼人正度々被申渡候留書、面々可被致所持候間、今度改之不及書知候条、弥以其旨違背有間敷候、万一諸書無之仁ハ、此方之留書可被写事
一、下穿鑿ニ被相掛候面々、其筋之輩不依僧俗、上下ニ宿々へ召寄被致吟味候事可為無用、勿論其者令推参候共、一切出合被申間敷候、相役人被申合、幾度も於番所可被遂僉儀事
一、於当町中家屋敷求候義、与力同心家来之者共、従前々停止之旨違背有間敷事
一、対御直参之衆、慮外之程不可有之、惣体無礼無之様ニ可被相嗜事
　附、当番又御用ニ被罷出候面々、縦雖為老人、於番所頭巾可為無用、并同心居すまひ不作法無之様ニ当番之与力可被申渡事
一、親掛り之男子有之輩、其子共悪事無之様ニ堅可被申含事

右之通可被相守者也

寛文弐四月廿八日　壱岐

隼人

両与力中

覚

一、公事日ニ与力衆三人宛・同心五人、如例無懈怠可被罷出候、当番之内病人於有之ハ、助番尤候事

一、同辰之刻前後ニ可罷出事

一、公事日ニ被罷出候当番、如例委帳を可被付置候、重而可相尋事有之時之為ニ候事

附、毎日目安并訴訟人、無滞取次可被申事

右条々、慶安元年三月朔日先代被申渡候通、弥可被相勤者也

寛文弐四月廿八日　壱岐

隼人

両与力中

覚

一、裏判を出し候目安訴状、今迄之通留帳ニ書付可被置事

一、裏判を出候公事曖度と申来候時、下ニ而済候得と申渡候義、裏判留帳ニ其日之当番右之断月日書付可被置候、左候は曖済候由双方罷出申候は、如例曖帳ニ其様子書付判形被申付、又裏判之留

帳ニも曖ニ而済候段、其時之当番書付可被置事
一、裏判出候目安訴状、公事場ニ而双方対決之上致落着候分ハ、公事番衆中右之留帳ニ其段書付、点をかけ可被申事
寛文弐年四月廿八日　壱岐
隼人
両与力中

一、同心共誓詞之外諸法度之儀、跡々申渡候通、相背申間敷候、難心得儀は常々支配申付置候与力中へ可相尋事、并町目付之者手前之儀、先年如申渡候、其組頭心を付可致吟味事
一、御直参之衆へ慮外仕間敷候、路次ニ而出合候共慇懃ニ仕、通し可申候、其外方々使ニ参候刻、先々ニ而ふれ仕間敷事
一、他国ニ而ハ勿論、町中捕者又ハ訴人等召連罷出候先々ニ而、与力衆下知随へし、其外御用ニよりて与力衆へ相添へ候節、可為同前、惣別与力同心其高下之程を存、不礼無之様可相嗜事
一、当番之刻、居すまひ已下不作法之体有之輩ハ、当番之与力并家来之者之内、此方へ可申聞旨申付候間、能様ニ可相勤事
一、親掛り之男子有之は、其子共不行儀無之様ニ可申含事
右之通可相守者也
寛文弐四月廿八日　壱岐
隼人
両同心

組頭中

掟

一、公事日若御用有之而令延引は、翌日可罷出事
一、奉行所之裏判有之、請目安公事日及三度令遅参ハ、先籠舎申付、其上可遂対決事
一、公事場へ罷出候者、縦雖為侍脇指不可指之事
一、対決之時、双方之外其場ニ不可出候
　但、親兄弟は非制之限、并証拠人たるへき者ハ、門外ニ相詰、召出候時可罷出事
一、訴訟人之事、公事已前ニ罷出、訴訟之意趣可申事
一、前廉相済公事、品をかへ目安指上ル者有之ハ、可為籠舎事
一、当座籠舎之者、日数を定此方ゟ令赦免候間、訴訟不可申来事
右条々、慶安元年三月朔日先代被申渡候通、弥可存此旨者也
寛文弐年四月廿八日　壱岐
隼人

女手形之事

一、町中之手形如例已前、五人組・町之年寄可為判形、方格惣代念入可致吟味、不念成儀於有之ハ惣代可為越度事
一、摂州河州御料所百姓之女手形、如例庄屋五人組之手形ニ御代官可為奥書、手代之奥書ニ而ハ不可出裏判事

一、同両国給人家中之面々并領分之百姓女手形、可為地頭之手形、但在江戸之時分ハ家老之手形ニ而可出之事

一、同小身ニ而御番被仕候衆ハ、番頭衆奥判無之手形ハ不出裏判事

一、西国方女手形、牧野佐渡守殿在京之時分京ゟ出申候、在江戸中ハ大坂ゟ出シ候間、蔵元之面々申来候は、右之通相心得番所ニ而挨拶可被仕候、并在国ニ有付候奉公人妻子引越候刻ハ、其主人之手形不持来候ハヽ、縦如何様之証拠人有之共、裏判不可出之事

右之通番所ニ而可致吟味者也

寛文弐四月廿八日　壱岐

隼人

宝暦三酉年ニ見れハ

町御奉行

東　小浜周防守様　御与力三十人

御同心四十九人

西　中山遠江守様　御与力三十人

御同心四十九人

大坂御在番御代官

渡辺民部守様

萩原藤七郎様

小川新右衛門様

此御支配地百性(ママ)町人ニ願事ニ付、町方ゟ目安上ケ候得ハ、先町奉行所へ右之様子申上、夫ゟ目安弐通認、右御代官へ上候、京・南都・堺御奉行所へ願ニ出候時も当地御番所へ申上、夫より彼地へ参り申上、立帰り候時、又々御断申上候、京都へ出候時ハ何連も願ニ町年寄之奥判可致之被仰渡

大坂
御城入由緒町人
尼崎又右衛門
瓦師寺嶋藤右衛門
大工山村助次郎
右三人

大坂御城入被仰候時
医師　親類書之案文
町人

親類書

一、本国　何国　医師何国何ノ誰弟子
生国　何国　大坂何町
何ノ誰　当何十歳

父方

一、祖父　何国何之何之守殿家中
　　何ノ誰　死
一、祖母　何ノ誰娘　死
一、父　何ノ誰　死
一、母　何ノ誰娘　死
一、妻　何ノ誰娘
一、忰　何国何町
　　何之誰
一、同　私手前ニ抱置
　　何之誰
一、弟　何之国何町
　　何之誰
一何々

母方

一、祖父　右同断
一、祖母　右同断
一、従弟　右同断
一、何々　右同断

縁者

一、舅　　右同断

一、姑　　右同断

右之外親類縁者無御座候、尤何方ゟも御扶持等請不申候、以上

年号月日　　何之誰　印

御奉行所

右何之誰親類書承知仕候、何十年以前より丁内ニ罷有慥成仁ニ御座候、以上

五人組　連判

年寄

右之通弐通認、御奉行所宗旨御役所ニ而右判形被仰付候

両通共町ゟ認指上、御役人様御改之上、右之通判形被仰付候

近来奉行屋敷家来之内ニ而両屋敷ニ無之名苗を申、町々銀銭無心申、又ハ借用申掛ケ候趣相聞候、両奉行所ニ而家来ハ勿論、組中堅申付候事ニ候、若此已後家来ハ勿論、両組与力同心悴共并家来抔ニ申、右之体又ハ茶屋町ニ而給物等代銀不相払候義有之ハ、無遠慮其所ニ留置可訴出候、此節右似寄之者手当申付召捕候積リニ候、万一事六ヶ敷存致遠慮不申出、何ニ而も借遣候ハヽ、右之族召捕候歟、其外吟味之上相顕候ハヽ、借し候者又は見遁ニ致候者、急度相咎可申間、此旨堅相守縦実々組家来、其外何方之者ニ而も其所ニ留置可訴出候事

右之通三郷町中可触知者也

寛保三亥年十一月

両奉行所ゟ隠目附或ハ同心忍ひ歩行候由を申、町々ニ而酒肴をゆすり、又は鳥目抔無心申者有之由相聞え候、両組并家来之者、右体之町廻リ不差出候、此已後隠目附或ハ組家来之由申者於有之は、無遠慮其所ニ留置早速可訴出候、若隠置脇ゟ相知候ハヽ其所之急度咎可申候、尤手向致候ハヽ打たおし搦可訴出候、捕違候分ハ少も不苦候

右之趣銘々家別ニ書付張置候様ニ相達へき者也

延享二丑年四月廿六日

御城代家来之由或隠目附と申、町方へ罷越シ、酒肴所望致し鳥目抔無心申者有之は、其所ニ留置、早速月番之番所へ可訴出候、若隠置外ゟ相知候ハヽ其所之者可為越度候

右之趣御城代ゟ被仰渡候条、町中端々迄不洩様ニ可申聞置者也

延享二丑年五月

宝暦六年子閏十一月ニ再触

同　七丑十二月ニ再触

五丁

金銀出入之事

一、弐度目対決之上、日切申付候次第

軽キ者　二ヶ月　六十日

但、銀高拾貫目迄

中分者　五ヶ月　百五十日

但、銀高拾貫目以上ゟ五十貫目迄

重キ者　十二ヶ月　三百六十日

但、五十貫目以上

右之日限之内、上ニ而も不埒者、手鎖を掛ケ、三十日過候ハヽ身体限リ可申付候、右日切之内過半も済寄候ハヽ又始之日数程日切を延し、其上ニ而手鎖掛ケ可申事

一、日切証文申付候後之訴訟者取取（ママ）ケ不申候事

一、日切証文不申付内ハ、何人訴状指上候共先へ遣し、或ハ裏判出之何人成共、日切証文申付候事

但、一日ニ何人も訴出、何人成共日切証文申付、相滞候而身体限リニ申付候節、右日切申付候者共ニ分ケとらせ候事

一、身体倒家財不残、負せ方へ相渡シ配分仕度と願出候とも、相対は格別、奉行所ニ而ハ取扱不申候事

一、茶や雑用料理代等之訴、不取上候事

一、家質并質田地、定式之通日切申付候而も不埒候ハヽ、家屋敷并田地証文之通相渡させ可申事

但、質田地裁許之格式、享保六丑改就被仰出、京都奉行所へ訴候得と申渡候事

一、金銀出入ニ付日切申付候者へ、為御替金銀之為下替滞リ候段訴出候時ハ、最前申付候日切証文ハ指止、為下替え方へ六十日之日切可申付候、是ハ金銀高ニ不寄、右之通申付候事

一、御代官為替、金銀高ニ不寄六十日之日切申付候、是ハ外日切相止候而ハ不申付候事

但、家質有之候得ハ如法可申付事

一、寺社家へ対シ金銀出入ハ、武家方同前ニ当奉行所ニ而取捌申間敷事

但、山伏も可為同前事

一、家質利銀之儀、一、二ヶ月滞候分ハ訴訟取上ケ間敷候、三ヶ月も滞り候ハヽ可令沙汰候事

一、金銀出入并家質・質地滞り、日切申付候内之利銀も申付候事

但、質地ハ京都奉行所へ訴候得は申渡候事

一、請負人有之、預ケ金銀売掛ケ等滞り候時は、本人ニ日切手形申付、手鎖之上身体限りニ渡させ、残ル所を請負人へ申付、右同前ニ裁許仕候事

但、此日切手形ハ請負人加判申付候事

一、証人と有之証文之金銀出入ハ、本人ニ斗申付候事

一、連判ニ而借り請候金銀ハ、連判之日切手形手鎖等申付、滞り候ハヽ、不残身体限り為相渡候、尤連判之者共一同ニ令沙汰事

一、身体限りニ渡させ候者、残銀有之、負人重而身体取直し候節、可済由跡手形取置、重而訴出候とも取上ケ間敷候

但、金銀出入ニて身体限り渡させ候時、諸色売払掛ケ目安之者請取之残銀、重而負人身体取直し、居住を構候を見届ケ訴出候ハヽ、又定式之通可申付候、尤願人先ニ立候儀ニ而ハ無之、

何成とも負せ銀有之ハ、願出次第可申付事

一、年賦銀滞訴出候時ハ、其年之滞り銀斗申付、不相済候ハヽ、身体限り渡させ可申付候、此年賦、残ル年之銀子追而相手身体取直し候節、掛ケ目安之者訴出候時ハ取上ケ申間敷事

但、右同断

一、身体限り渡させ候者、家屋敷家質ニ入有之ハ、家屋敷売払、家質本銀利銀とも質取主へ請取売べきを、身体限り之方へ請取候様ニ申付候事

但、家屋敷ニ而質取主へ請取候ハヽ、利銀ハ申付間敷候事

一、座頭官金之類、無指別金銀出入定式之通申付候事

一、妻女鋪銀并諸色之事不縁之時は、金銀出入同前ニ申付候事

但、死別之時は、相対次第申付候事

一、養子持参銀并諸色同断

一、主人へ下人之預ケ金銀売掛ケ出入は、相対次第申付候事

但、押領之工ミ仕形有之ハ、吟味次第可申付候事

一、忌掛り親類右同断

但、右同断

一、縁者ハ　聟　舅　小舅　姉舅

妹舅　伯母舅　姪聟

右同断

但、右同断死別離別之時は、他人出入同前ニ申付候事

一、為御替之下替せ滞、身体(ママ)りニ申付候時、家質本銀利銀とも質取主へ請取らせ申候事

但、子供之諸色ハ其時之吟味次第可申付事

一、親掛り之子供へ金銀出入、親加判無之分ハ取上ケ不申候事

一、身体限りニ渡させ候者、入聟ニ而女房之名前之家屋敷之時ハ、負銀家業之方ニ候得は、家屋敷相渡させ候事

一、右同断夫自分之負銀は、女房名前之家屋敷除可申事

但、夫ゟ譲り請候家屋敷ハ、身体限り之方へ為相渡可申事

一、右同前、女房名前之田畑年貢之方之儀ニ候ハヽ、渡候様ニ申付、外之負銀ニ候得ハ不相渡候事

但、夫ゟ譲り請候田畑は、身体限り之方へ可為相渡候、質地ハ名印次第令御沙汰候事

一、町人家屋敷名前其身隠居ニ而も無之、或女房或幼少之子供ニ致置、掛り人之様ニ成商売仕候類、欠所之時は勿論身体(ママ)り渡させて聞届ケ不申候事

但、伜を仕分ケ他へ出し候時之家屋敷、又は娘縁組抔之節持チ参り候家屋敷は、格別ニ申付候事

一、借家人も右同断

一、諸川船名前も右同断

一、摂河両国并町中道場屋敷質物之出入、在方ハ庄屋年寄、町方ハ年寄五人組加判証文有之ハ、定式之通可申付候、其外之金銀出入は取上ケ不申候事

一、摂河両国・中国・西国筋之外何国ニ而も、負銀有之者、当地へ罷越候を見届ケ訴出候時は、唯今迄之通訴状旅宿之町へ遣し、彼者指留定式之通日切并過怠之手鎖等申付、猶相滞り候ハヽ、身体限ニ渡シ候様申付、訴訟人も其領主へ断、請取候得と可申渡候事

一、金銀出入滞り拾ヶ年之内訴出候ハヽ裁許可申付候、拾ヶ年過訴出候ハヽ奉行所ニ而取捌不申、

相対次第ニ可申渡候事

一、武家方用金之為替滞り候時は、丁人為替同前ニ金銀高軽中重定式之通日切申付候事

一、武家寺社ゟ町人百性（ママ）へ借シ金銀并調堂銀等ハ利殖之ため二預ケ可申事無之間、願出候とも、奉行所ニ而ハ取捌不申、相対次第可申付候事

一、諸御役人并諸組附御切米払代り滞り候義は、当分之事ニ而横取同前之儀ニ候間、米買請候者ゟ外へ売渡シ候共、有所より取戻シ本主へ指返し、其代銀は段々償戻させ可申事

但、日数軽キ候出入ハ、金銀出入定式之通可申付事

一、忌掛リ之親類并縁者は聟、舅、小舅、姉聟、妹聟、伯母聟、姪聟迄は預ケ金銀手形を他人譲リ請、訴出候出入は不取上ケ候事

但、親類縁者証文ニ而ハ不申付候故、工を以他人へ譲り候証文ハ、可遂吟味事

一、金銀出入連判借り之者へ日切手形申付候時、銀高は其証文之通認、連判人数之内先達而日切手形申付候ハヽ、名は記置、印形は致させ不申、出入済次第加判致し候様可申付候事

一、先達而重キ日切申付置候もの、追而外連判出入有之、軽キ日切ニ而身体限り致させ候時ハ、重キ日切申付置候者ハ除之、然ル連判之者、身体限り請取、重キ日切相済候節、其者へ掛り候様ニ可申付事

一、日切手形申付置候内、又過怠手鎖を掛ケ置候内、双方対決之上、当分何程ニ而も銀不請取、残銀追而相済筈ニ証文取之、負せ方得心ニ而相済候由申来候ハヽ聞届、重而右残銀滞、彼証文を以訴出候時は、定式之通可申付事

一、惣而証文ニ無之利銀ハ不申付候事

一、同日ニ壱人ニ日切手形数通申付候次第
六十日切
百五十日切
三百六十日切
右六十日切相済候得ハ、為請取候
但
六十日切不相済手鎖掛ケ以上身体限りニ成候時は
六十日切・百五十日切・三百六十日切
ともに銀高ニ応しわけとらせ候
一、惣而証文無之負せ金銀之訴訟、不取上候事
一、諸出入も金銀筋に掛り候事ハ右同断
一、売買ニ付当時代銀不相渡、羽書斗取置候分ハ、不取上候事
一、相手壱人ニ対シ、別々之証文又ハ売掛ケを以テ申合、連判之訴状指出シ候時は、先ハ取上ケ申間敷候、然共訴訟之品次第、可令沙汰候事
但、連判之訴状取上ケ候得は、身体倒負せ方仕形ニ成候ニ付、如此定置候事
一、日用賃銀滞り不取上候事
但、諸職人之外、日用之分右同断
一、請取普請証文慥ニ候ハヽ、可令裁許事
一、人足日数を定、雇イ証文等有之ハ、右同断
一、遠国上下之人足賃、右同断

一、身体限りニ渡候家屋敷売払候時、町中へ分一銀取不申様ニ可申付事
一、傾城町揚ケ銭滞、訴出候時ハ、不取上候事
一、父母之負銀跡式相続之悴へ、唯今迄之通可申付事
　但、隠居も右同断
一、諸船并酒株・風呂株・茶屋株・煮賣株類質物ニ入有之は、身体限り之時は、年寄五人組判形次第、質取主へ可遣候事
一、身体限りニ申付候節ハ、御料ハ御代官之手代、私領ハ地頭役人召出可申渡候事
一、身体限り之者加入船有之ハ、其割方仲間ゟ指出、訴訟人へ渡シ候様ニ可申付事
　但、古船ニ候ハヽ売払、加入銀高を以、身体限り之者請取高銀子を訴訟人へ渡シ候様可申付事
一、町中家質之儀、唯今迄売券証文ニ而本家主は借屋請状を取置候、此已後ハ家質証文ニ可相改旨申付事
一、身体限りニ渡させ候願人、武家并寺社家ニ候ハヽ、惣代を遣、年寄丁人立会相改候上売払せ、代銀町人ゟ相渡させ可申事
一、右同断願人、町人百性（ママ）ニ候ハヽ、惣代指添遣し、年寄丁人立会、諸色封印致させ、願人へ引渡させ可申事
一、目安付候者、病気之御断申立、返答罷出候儀、数月延引之類、向後相改虚病を構候ハ、急度可令沙汰事
一、傾城・茶立女・髪洗女へ預ケ銀売掛ケ銀等之儀、取捌不申候事
一、訴訟裏判書候高

金ハ壱両以上
銀ハ六十目以上
銭ハ五貫文以上
右は預ケ金銀銭并売掛ケ之分

欠所取立之事

一、科人欠所之節、科人ゟ外之者へ負せ候金銀取立之義、最初ゟ拾年賦上納申付候、利銀は不取立候事
　但、当座不残上納望候ハヽ、其通たるへき事
一、其年之上納之分致難渋候ハヽ、手鎖を掛ケ可申事
一、火事ニ逢候歟、其外各別無拠品有之ハ、吟味之上、其年之上納翌年へ相延し可申事
一、負金銀過分之上、其者身体衰候而兎角拾年賦ニ而は難成者ハ、拾五年賦ニ申付候事

是より申合覚

一、唯今迄年賦上納之者共、当子年ゟ拾年賦之積り当暮ゟ改直候事
　但、当時家をはなれ掛リ人又ハ奉公人等之分ハ、当暮相改上納指免候事
一、武家方ゟ上納年賦も右同断

一、寺社家年賦上納右同断

右、欠所金銀取立、拾年賦之証文取之口書申付候与力ゟ、欠所役之与力へ其訳書付、相渡帳面ニ記置、毎年欠所役与力取立上納可申候事

但、年賦証文ハ、御金役与力へ、口書申付候与力ゟ相渡置、年々相改請取之可申事

遠国出入之事

一、遠国之者へ売掛預ケ金銀訴訟之節、唯今迄之通可申付事

但、帳面証文相改、慥成分ハ初訴より蔵屋敷留主居へ訴状渡シ、国元へ其訴状指遣し、於無之申分は、到着日より銀高軽中重之日数之内ニ可埒明候、若相済候ハゝ大坂へ可指登旨、留主居へ可申付事

一、相手大坂へ登、対決之上、日切手錠等ハ金銀出入定式之通、但身体限り申付候儀、訴訟人相手之国へ遣し請取せ可申事

右之通於　江戸　安房守へ被仰渡候ニ付、大坂ニ而申合添札之通、蔵屋敷留主居又ハ名代之者へ申渡置可申事

欠落人之事

一、奉公人引負取逃欠落、請人又ハ家請人之出入、江戸　町奉行申付候通可申付候事

一、取逃引負欠落者、請人へ三十日之尋申付、尋不出候おゐてハ過料可申付事

但、過料三貫文可取之、然共打続過料指出候歟、又ハ請人身体之様子ニより相応之過料たるべき事

一、奉公人欠落者六、七人ニ及、不尋出候請人ハ牢舎申付、吟味之上不尋出候申分ケ相立候ハ、出牢可申付候、乍然六、七人ニ及ひ不尋出候為過料身体四分か五分取上可申候、尤身体之様子により弐分三分ニ而も相応ニ取上可申事

是より申合

一、家持借屋人欠落之断有之ハ、日数三十日相尋、行衛不相知候得は、欠所ニ申付事
一、欠落人欠所相済候以後立帰り、其町之者召連断来候時ハ、様子相尋、悪事無之候ハヽ、居所無構旨可申渡候、若掛り合等有之、立帰之以後訴訟有之ハ、定式之通可申付候事
一、訴状付候者欠落之節、家持は五人組年寄、借屋は家主へ、日数三十日尋申付、尋不出候ハヽ、過料可取上事
但出入有之、番所へ訴訟不申内、先其町へ届置候者欠落致候時ハ、其町人断次第欠落帳ニ付置、直ニ其届ハ不申付候、追而届置候者断出候節、尋可申付事
一、訴状付候者欠落致、尋出シ召連来候時ハ過料指免し、本人は僉儀之内牢舎、負せ銀無相違候ハ、諸色之内ニて相済させ、残ル所は欠所ニ取上、本人は所払可申付事
一、手代下人引負勘定之内、請人へ預ケ之儀願出候時、日切を願候様ニ申聞、其上ニて日切預ケ可申付事
一、下人取逃之品、質屋・古手・古金屋触出、願出候ハヽ申付候事
一、奉公人請状定之年月給銀之外、山越とて先之季之給銀を貸シ候儀、願不取上候事
一、町中借屋明之儀、家主訴状指出候、呼出候内ニ彼借屋人欠落致候由、家主断来候ハヽ欠落帳ニ記、諸色ハ欠所ニ取上ケ候て、急度尋ニ而ハ無之、欠落人行衛心掛ケ承合、居所知候ハヽ、早々

可申来候、行衛不知候共三十日目ニ断来候得と家主へ可申渡事

一、右出入五日切之日切手形申付候以後、借屋人致欠落候ハヽ欠落帳ニ記、諸色ハ欠所ニ取上、家請人ニ三十日尋手形可申付事

一、町人他国商イニ参り候由申置罷出、其後通路不致旨、家主町人断来候時ハ、他国へ参り候月ゟ六ヶ月相待候様ニ申渡シ、七ヶ月目ニ及ひ不立帰候ハヽ、可為欠所事

享保六辛丑年正月

右ハ他借致し写取候也

聞書

一、欠落帳ニ付置候者、悪事科人ニ成候時、久離帳ニ不付内は其難七歩は相掛り候との咄聞及候

一、訴状ニ惣代之添書相止、御裏書裏印始り、目安方御役所役人御定、延享弐年丑三月ゟ

御奉行　東松浦河内守様　御時代

西久松筑後守様

一、右同年御用人足賃半減上納被仰出、御賄ひ被下候

一、手形題号之事

手形之題ニ預り申何々と有之、又覚と一字書候も有之而、文言ハ同事ニ候、是ハ題号ニ無構本文次第ニ可仕事

一、手鎖之者ハ家主丁人へ御預ケ、閉門之者ハ大方ハ御預ケ無之

一、倒人封印勘定之上不審有之間、町へ御預ケ可被下と申出候而も、負せ方訴斗ニ而ハ御預ケ不被成候

一、御裏判ハ三裁許目迄ニ対決ニ可罷出、尤三裁許目迄之内対決ニ出候事、勝手次第也、三裁許目過候迄相手不罷出候得ハ、牢舎被仰付、出入之儀は筋目次第重而被仰付候定也、三裁許目ニ相手病気之段、懸目安見届今日対決御延し可被下旨申出候得ハ、御聞届有之候

一、御裏判付候者倒候時ハ、懸目安之者惣負せ方入ル也、倒日切も同前也

一、御裏判付候者欠落仕候得は、家持ハ年寄丁人、借屋ハ家主ニ尋出し候様ニ被仰付、其上品ニゟ年寄家主手鎖押込被仰付候、惣代付も右同前、尋目安も同前

但、負イ人へ不届置訴状不付以前欠落仕候得ハ、懸目安方不念故、家主年寄へ御かゝり無之候

一、天和弐年戌七月朔日御両殿様御口上ニ而被仰付候は、今度御代始御制札御立被成候を、三郷惣年寄共へ御読聞せ被成候、其内ニ、年季召仕候下々拾ヶ年を可限、拾ヶ年過候ハゝ、曲事ニ可被仰付候事

天和弐年戌七月二日

一、捨文等有之ハ、封印侭早速差上可申事

一、火札も右同断

一、喧嘩有之ハ、其町門之たて相手を捕可来断候事

公事之儀ニ付、古来より御触書を此所へ集書左ニ

覚

一、諸商売之事

右、朱銀両座之外、私之座を定事、先規ゟ御停止たり、面々心次第売買可致事

一、問屋と商人相論之事

右、問屋之身体能聞届互手形取替、其上ニ而荷物可預、前廉不念致於無証文は、不可有裁許事

一、しなひ商之事

此已前ゟ無裁許前廉互証文取替、無違乱様ニ可申合也

附り、請取普請并日用傭之出入可為同前事

一、就商売書物取替之事

右、当時出し置はかきといふ事、諍論之時証文ニ立かたし、慥成手形を可取事

一、質物取置候事

右、請人無之質物取へからす、縦請人有之と云共、下直成質物致吟味可取之、若質物取置ニおゐてハ可為欠所籠舎事

一、跡式之事

右、書置之趣、年寄五人組へ為申聞致加判可取之(ママ)置、書置無之跡式、筋目次第可申付事

一、家屋敷売買之事

右、年寄五人組相談之上可相定候、縦売券状有之と云共、年寄五人組於無加判は不可立証文也

附り、買論之事、売主と相対致し、年寄五人組へはやく断立候方先次第たるへし、若年寄五人組於致依怙は可為曲事事

一、欠落人家屋敷之事

右、身上ならすして致欠落、家屋敷借物之方へ相渡事、可請取者壱人ニおゐてハ、家主申置次第可渡之、方々へ出入諍論有之は公儀へ可召上也

一、境論之事

右、地子帳之間数を以改之、非分申かゝる者可為籠舎也

慶安元年　孫太夫

丹波

掟

一、喧嘩口論不論理非如御法双方可為死罪、殺人令逐電ハ、其町人并請人可尋之、被打擲輩は令堪忍奉行所へ可告来、穿鑿之上急度可申付也、若荷担人有之は、其咎可重於本人事

一、被官人喧嘩并盗賊之科、不可懸主人、雖然請人無之者拘置、穿鑿之砌於致欠落は、先可預置於主人、其町人并主人之親類彼是は可尋出事

一、童子之口論不及沙汰、双方之父母可加制詞之処、還而互令荷担は可為曲事

一、童子誤而殺害朋友等は不可及死罪、但十三歳以上之輩は不可遁其難事

一、不用町之年寄五人組之相談、任愚意輩可為曲事、但年寄非分有之は、町中一同ニ可差上訴状、遂穿鑿急度可申付事

一、買掛り其外負物等有之者令死去、有罪中并口入之輩彼方へ可催促、但於無証文は不可懸之、有相続之子は可弁償之、親之負物子可相済事勿論也、子之負物不可掛親ニ、雖然親加判於有之ハ、不可遁其償事

一、不用父母之制詞、町之年寄五人組之異見不致承引者有之は可召連来、先令牢舎、其上於不直覚悟は、親切久離可追払、万一対テ父母存遺恨は、彼者従町中可捕来、大坂中引渡可行死罪事

一、父母之出入諸親類并丁中雖扱之、無同心差上目安及対決輩、穿鑿之上為親非分は、依其品可申付、又於有子非儀ハ、任父母所存以不孝之科或籠舎、或久離切可追払事

一、兄弟之出入、互不知愛敬無道之輩、対決之上無道理は、急度可誡之事

一、夫婦之出入離別之女、先年如申出敷銀衣類早速可戻之、令難渋は可為曲事、相果跡敷銀等之出入、前廉如書出可致沙汰事

一、町人家人と出入有之而、差上目安及対決輩、不知主従之礼、家人非分於有之は、牢舎申付、其上可任主人之意、無道理者可有其沙汰事

一、譲家財於惣領重而譲与次男輩、雖致兄訴訟父存命之内有疎意、後判令所持者可任父意、但就継母讒言、於無不孝ハ、可分遣家財事

一、父母無同心、娘理不尽大集取事狼藉也、於訴来は可誡彼男事

一、妻女得夫之家財は、以夫之親類致養子歟、又ハ可訪夫之後世之所、無程求後夫恣之対甚非儀也、雖然後家於若年は、諸親類并町人以相談可計之事

一、夫相果無相続之子、家屋敷後家令進退、無程下人と密通而、忘亡夫之恩、不憚親類女は払、其町夫之親類以相談、家屋敷可相続事

一、密懐他人之妻輩、於其所ニ男女共討留は不可有子細、其外証拠不分明而申出は、穿鑿之上可処男女同罪之条、為私不可遂遺恨事

一、放火人対一人以有意趣成多人苦輩、甚重科之至也、并盗賊令放火は以罪科不軽、如先例親子兄

弟可処同罪事

一、公事人双方町中之者雖曖之、無承引及沙汰輩、対決之上不致同心者、於為非分は急度可申付事

一、謀書謀判之輩、兼而如申出可処厳科、執筆之者勿論可為同罪事

右之条々数度依有之所書出也、自今以後可相守、此旨商売其外万事御仕置之儀、度々触知之趣、弥不可違失者也

明暦元乙未年十月十三日　丹波

隼人

跡式之事

一、書置之趣、町之年寄五人組相断書置ニ加判を致させ可取之置、証文於無之は筋目次第可申付事

如此先年町中へ申出、重而去年子六月五日ニ相触、町中諸人聞届との判形を取置候事

追加

一、母相果候跡、男子ハ無之女有之は、鋪銀衣類等舅構不可有事

一、同女子無之男子有之時ハ、母衣類舅之方へ返之、敷銀ハ可為其子進退事

一、同不依男女、其跡を取、無程其子幼少ニして相果遺言も無之者ハ、男女共舅之方へ不可戻、母之譲ニ請候上ハ、其子可為心次第、然ル上ハ子方へ近キ父可取之、但女子は母之衣類道具舅之方へ可戻事

一、子無之妻子令死去、夫婦之間過拾ヶ年は、敷銀不可戻之、但聟常々舅ニ対シ無沙汰致、舅申分於有之は、可為格別事

一、夫婦たる拾ヶ年ゟ内之女房相果、子於無之は、可随妻女之遺言ニ事、但頓死又ハ遺言無之もの、

筋目次第可申付事

一、父相果候跡、不依男女実子ハ勿論養子たりと言共、跡式を取其後彼子幼少ニ而相果遺言無之共、一度父譲得之間、其子之心ニは母へ可遣道理候条、跡式母可致進退、父方之伯父其外親類不可妨之、但父方之祖父於存生ニは、家は祖父之心ニ可任、財宝は母可取事

一、父母共相果、幼少之子其跡を続、其子無程令死去遺言も無之時、父方之祖父有之ハ、不及沙汰可令進退之、祖父無之は、父母双方之近キ親類出合致、相続之者有之は可取立、左様之輩於有之は、奉行所へ可申来聞届、父方之親類三分弐、母方之親類三分可分遣事

一、女房鋪銀を持来、其夫無程相果候時、男子ニ而も女子ニ而も有之而、其家を女房令支配有之は、及不(ママ)沙汰ニ、子無之女房は親之所へ戻シ、家を夫之父母於有(ママ)ハ令進退は鋪銀を女房方へ可戻事

一、女房離別之者、鋪銀并女房衣類道具等無異儀可戻之、令難渋は可為非分事

右慶安弐年丑十二月三郷年寄へ雖申渡、于今訴状を指上候者有之ニ付、重而条数之内少々書加へ、三郷年寄召よせ、此趣愈致吟味、町人之作法ニ相違之事有之は、可申旨申含、先下書を遣候所、少も可申上儀無御座至極仕候由、惣年寄申来候、付而町中へ書遣之条、此法を破、惣年寄并其町之年寄異見をも不承引致者、可為曲事之間、可致其覚悟者也

承応三甲午年二月廿三日

隼人

丹波

一、公事場へ罷出者、縦為侍言共脇差不可指之事

一、対決之時、双方之外其場へ不可出、但親子兄弟ハ非制之限并証拠人可為者ハ門外ニ相詰、召出

候時可罷出事

一、訴訟人之事、公事以前ニ罷出、訴訟之意趣可申上事

一、前廉相済公事之品を替、目安差上者有之ハ可為籠舎事

一、当座牢舎之者、日数を定此方ゟ令赦免間、訴訟不可申来候事

寛文二年四月廿九日　壱岐

隼人

条々

一、大坂町中御仕置之儀、愈　公儀大事ニ奉存、度々申出於御法度不可致違背事

一、対　公儀悪心有之而、不依何事ニ以計策輩あらは、不移時刻可申出、領知ニ而も金銀ニ而も其約束之一倍御褒美可被下候事

一、吉利支丹宗門之義、無油断於町々ニ年寄五人組改之、不審成者有之は、早速可申出、宗門ニ於相極ニは御褒美可被下候、万一隠置輩、本人は不及申ニ、其町之年寄・五人組可処重科事

一、牢人ニ而宿借事停止たり、聊不可致違背、若於隠置ハ先年如申出候、宿主百日、五人組同罪、其町之年寄五十日籠舎、并請人有之は穿鑿之上、或死罪或は可為籠舎事

附り、牢人悪事於致は、依科之品ニ、請人宿主可為同罪事

一、町人火用心不可致油断、兼而如定置、亥刻以後町々門を立へし

但、用事有之而往還之輩は無異儀通之、可致町送事

一、諸商売之事、先年如相触、別時代銀を不相済、証文取替儀於有之は、慥手形を取置、出入無之様ニ可致沙汰事

一、家売買并境論之事、兼而書出趣、町中愈可存其旨事
一、跡式之事、兼而如申出、年寄・五人組加判無之書置、不可立証文ニ条、可致其覚悟、頓死其外書置無之跡式は、筋目次第可申付事
右之通度々相触、町々年寄入替り脇之町人も近年他所ゟ来者可有之条、去子年書出九ヶ年（ママ）之趣、於惣会所ニ改之年寄申渡、諸丁人可致承知者也

慶安五辰年正月十一日

隼人
丹波

一、町中身体倒、家財不残負せ方へ相渡シ配分仕度と願出候共、相対は格別、奉行所ゟは不取上候事

覚

一、跡式書付之儀、ふつまりニ無之様可仕事
一、親子兄弟夫婦親類之出入之儀は御さけ被為成候、其外之出入、或殺害人御法度背候者御詮儀筋ニ相成候、御さけ之御願申上候而も御さけ無之間疾と相心得可申事
一、御奉行所ゟ御預ケ者有之は、番人付置麁抹ニ無之様可仕事
一、奉公人引負有之、請人へ預ケ候事、廿日三十日と日切御預ケ可申上候、尤日切ニ相済不申候ハヽ、又日延御願可申上候事
右之通、三郷町々年寄共へ疾と可申聞候、以上

享保五年子十月十五日
安房
飛騨

一、町中家質之義、是迄売券証文取置候、自今家質証文ニ相認、年寄五人組加判取置可申事
　但、是迄取置候売券証文は者其通ニ而令裁許候事
一、町人家屋敷名前其身隠居ニ而も無之、或女房或幼少之子供ニ致置、掛り人之様ニ成商売仕候儀、有間敷候、ヶ様之類、欠所之時は勿論、身体限リ渡させ候砌も相立申間敷候間、兼而覚悟為致可申事
　但、同家之悴ニ仕分遣し候家屋敷、又ハ娘縁組抔之節持参之家屋敷等は可為格別事
一、借家人も女房并幼少悴名前ニ而家を借り、掛リ人ニ成商等致候儀、紛敷事ニ候間、右可為同前事
一、願訴訟名代を以申出候儀、極老幼少之者は介添名代も可出事ニ候、病気之者は本服次第可罷出儀ニ候、尤本人差当ル事ニ而病中難指延儀は可為格別事
一、目安付候者、病気之断を申立、返答ニ罷出候儀数月延引之類、向後相改、若虚病構候は急度可令沙汰事
右之通来丑正月ゟ可為沙汰候間、為心得申聞置候、以上
享保五子年十二月十五日
安房
飛騨

右猥成候趣、急度弥相守候様ニ、又々右之御文言之通少も違無之御触、寛保元酉年六月ニ被仰出候

田地質之事

一、惣而百姓質物田地、年季明ケ以後金子済方相滞候儀、訴出候得は、只今迄金高ニゟ五六十日、七八十日之日切申付而、一度之日切ニて不相済候得は流地ニ申付、日延ニは不申付候、是又江戸町方ニ質入屋敷之取扱之格ニ相准、日延不為致候、然共地方之儀如斯申付候得は、分限宜敷者質流之田地大分取集、亦又田地連々町人等之手ニ入候様ニ成候、田地永代売御制禁ニ而候所、おのつから百性(ママ)田地ニ離候事ハ永代売同前之儀候条、自今ハ質田地流地ニ不成様ニ、只今迄質入ニ致置候分ハ当然、訴出候而出入成候分共、質年季明候は手形仕直させ、小作年貢ニ而も前方極置候分は、壱割半之利積リ之外は金主損失ニ致シ、唯今迄質地之小作年貢滞有之候は、壱割半之利高積リを以、元金之内へ利入、其後は無利之済崩之積り金高壱割半宛年返済之定ニ手形申付、元金切次第、幾年過候而も地主へ相返し候様ニ可致候、未年季掛リ有之分共訴出候は、是又向後右之通利分壱割半之積り改之、手形仕直させ可申候

一、質地裁許之格法、前条之通、此度相改候ニ付、五ヶ年以前酉年以来限訴出候分は、唯今迄裁許を以流地ニ成来候分ニ而も、当然元金不残差出、田地請戻シ度と願出候者は、請戻させ可申候、但流地持候者之方ニ而、田地配分致置、又は年季売質地等共致置候分は其侭ニ致置、請戻させ申間敷候、流地取候者之手前ニ田地有之分計、右之通請戻させ候様ニ可申付事

一、自今は質田地を以金子借り候事、其所之田地直段ニ弐割引之積りを以、手形ニ名主庄屋組頭等加判可仕候、質地地主ニ直ニ小作為致候と言とも、向後は小作之年貢壱割半之利積りを以、小作

金を可相極候、是ゟ高利不可致候、壱割半ゟ利安ク借シ借り致候は、可為相対次第事
右之趣堅可相守候、若違背之輩於有之は可為曲事事
享保七寅年　安房
飛騨

口上ニ而申渡覚え

一、頃日座頭官金預り置滞り候旨、訴訟数多有之、証文遂吟味候得は預り銀手形ニ而、相手之者共も官金之由申ニ付令裁許候、然共如此官金之出入数多可有之様、無之事ニ候、若頼母志講銀を官金と名付掠、公儀公事ニ取組類も有之は、露顕次第双方共急度可令沙汰候間、町々年寄共へ此旨可聞置者也
享保十壱午年十月廿六日
飛騨
日向

覚

当地町々ニ仮名実名も無之捨文有之候、江戸評定所之通、当地町奉行月番之方ニおゐて、当九月ゟ毎月二日・十二日・廿一日、公事人たまりの内ニ箱を出置候間、書付持参之主ハ、右之箱へ入可申候、刻限之義は昼九ツ時迄之内可指出候、如斯場所定候上ハ、外之捨文致候共取上無之候間、其趣可致候
右之通、一同ニ承知之ため、此所ニ建置者也

一、御仕置筋之儀ニ付、御為ニ可成事
一、諸役人を始、私曲為非分事
一、訴訟有之時、役人不遂僉儀、捨置ニおゐてハ、可直訴旨、相改之上可出事
右之類直訴すべき事
一、自分ためニよろしき儀、或いこんを以人之悪事を申間敷事
一、何事ニよらす、自分たしかニしらさる義を被頼直訴致事
一、訴訟之義は、筋々之役所へいまた申出さる内、或裁許未済内、此両様申出間敷事
一、惣而有体を不申、少ニ而も事を取つくろひ、きよせつ申間敷事
右之類は取上なし、かき物ハ則焼捨へし、尤たくミの品ニより罪科ニ行はるへし、書物ハかたく封し指来へし、訴人之名并宿書付無之は、是又取上さる者也
享保十二丁未八月

右高札、高麗橋ニ御建有之候

定

一、喧嘩口論令停止、自然有之時、至其場、一切不可出向事
一、於町中捕者・討者有之刻、奉公人不出合事
一、武士之面々、侍之儀は勿論、中間小者ニ至迄、一季居一切不可相置事
一、武士之奉公人、一季居之請人立へからす、堪忍次第ニ不苦事
一、人売買一円為停止、若猥輩於有之は、軽重をわかち、或死罪・籠舎、或可為過料事
但、口入同罪之事

一、年季之事、可限十ヶ年ニ、十ヶ年過は可為曲事、
一、いにしへより其領内ニ有来輩たりといふとも、他領へ相越、年久敷有付、妻子をも令所持、其上科無之者を呼返し候儀、向後可為停止事
寛文十九二月十一日ニ出ル

覚

一、欠落者、何年過候而も、有所知次第、負せ方売掛ケ候者と銀子可取之事
一、欠落之跡、有之諸道具之内、預ケ物ハ預り主之請文次第可戻之可申来、但御法度相背欠落者跡ハ、可為格別事
一、欠落人之預ケ物ハ、親類縁者ハ不及申、預り主可申出、隠置以後相知ハ可為曲事
一、欠落者家屋敷之義、質物ニ取候共、売沽次第可申付事
午十一月十五日　石見
壱岐

一、身体倒候由、負イ人方ゟ負せ方へ書付出候上ニ而御断申上、封印願上申候、吟味之内、懸銀先取集度由願上候得ハ、御聞届有之候、又下人下女等暇出シ度由申上候得ハ、是又負せ方勝手次第ニ被仰付候
一、被盗物之義、御改申上候ニハ、失物之書付弐通相認、別紙ニ以上書仕、質屋・古手屋、御吟味被仰付被下候様ニ申上候得ハ、御聞届被成候、盗人之手筋、此方ゟ申上、御吟味之上相知候得ハ、失物不残被下之候、御公儀ゟ御穿鑿ニ而盗人出候時は、失物御欠所ニ被成候

一、捨物何ニ而も申上候得ハ、其侭御取上候之事

一、公事訴訟ニも成間敷、亦は不謂義をも外ゟ相加り腰を押、公事ニ取詰せ訴出候儀も有之様ニ相聞え候、此已前より度々制禁有之所不届之至、向後右之族於有之ハ、遂穿鑿、或死罪、或牢舎可申付事

一、諸職人手間取置候ニ付、請人を取、手形を取置可申事

慶安元子年四月五日御触

一、売券ニ年寄・五人組判形雖有之と、令違背、家を不相渡由、度々目安指上候条、自今以後ハ銀子を取、相渡家を当座ニ可請取、代銀を渡、其家主ニ不可借置、左様之者有之而目安指上候とも、来寅正月より以後之売券不可有承引事

一、借銀之方へ家を雖相渡と、年寄・五人組之加判在之ハ、借銀ニは無構、売券次第ニ可申付、但滞有之而相手訴訟申成ハ、加判之者ニ急度可申付候条、兼而判形之輩、肝煎可相済事

右之通、公事多有之ニ付、重而申出候哉、目安を上ケ、及対決ニと言とも、如此可申付間、町々年寄へ可申合者也

慶安二丑十二月廿一日　隼人

丹波

一、町々年寄、家屋敷売券状加判之儀、先年ゟ申出候ハゝ無之事ニ候、自今ハ隣家之町人弐人、并月行司可致加判事

会所屋敷も隣家町人・月行事・年寄加判、又ハ丁中連判
年寄書置状も同断

一、住宅之家主、十五歳以下之男女等、代判付可申事

一、代判有之家屋敷、質ニ入候共、売候共、代判ニ而ハ証文仕間敷事
天和貞享年中　いよ

親類分散除申覚え

一、兄弟　伯父　従弟　孫聟　姪聟

姻　但此姻は品ニゟ　姪　但此アイヤケ寛文七年
取候例有之候　新規ニ御除被成候

一、他国他領へ御裏判不出候、并莨菪売掛ケも同前

一、諸事請負、判形ニ代は掛り不申候

一、家請も代替り、判形取替可申候、尤請人、後家は立不申候

一、牢扶持、盗賊斗ハ家請人掛り申候
寛文壬辰年四月廿八日

身体倒法之事

一、買掛りハ　六歩之分散

一、預ケ銀ハ　四歩之分散
一、家質ハ本銀ニ而取之
　但、家質切之内ハ四歩之割符取之、倒候段、負せ方へ改候已後ハ割符ニ不入
一、借屋之者倒ハ家質四歩之割符、是ハ借屋之者倒候時、道具等不退ため免也
一、丁代・扶持髪結賃、不残取之
一、下人下女給銀ハ、給銀高を以日算用也
一、問屋倒候時、客之荷物舟積仕切相済候得ハ、割符ニ不入
一、公事宿ニ而雑用銀ハ、倒人之町人ゟ出之
　但シ、負せ方一所ニ居候得ハ、半分宛可出之也
一、公事宿之賃ハ負せ方・倒人之町と双方ゟ半分ハツゝ出之
一、倒人之掛ケ銀、町人取廻り候雑用銀ハ負せ方出之
一、御大名衆并侍中預ケ銀、其外俵物何ニ而も町人同前割符ニ成、但し当分預ケ荷物ハ本主へ戻ル
一、妻子并下人・下女・衣類・道具ハ本主ニ被下之
一、倒人へ町中ゟ倒候以後、取替銀ハ分散之内ニ而不残取之
一、諸職人作物ハ本元へ戻之
一、為替銀六歩之割符
一、女房之敷銀ハ損ニ成、但離別ハ六歩之割符
一、養子鋪銀も右同断
一、手代別家ニ自分之商売仕倒候時ハ、主人掛ケ銀・預ケ銀分散ニ入、余人置ニ可取之
一、倒人有之時、割符除候分

伯父、伯母、兄弟、従弟、合壻ハ割符不取之
右ハ寛文七未十一月被仰出候也

一、伯母壻ハ割符可除之
一、従弟壻ハ割符可除之
　但、女房相果候得ハ、他人故割符ニ不入
右ハ延宝三卯四月重而被加之

一、縁者ハ　舅　小舅迄
一、親類ハ　従弟迄
右ハ寅十一月ニ石丸石見守殿被仰出候

一、倒人僉儀之内之飯米雑銀、負せ方ゟ可出之、
一、預ケ荷物之事
　是ハ旅人ゟ直々預り置候ものハ、荷物買取候者預ケ置候共、畢竟此荷物ハ売払候時と値分迄負候迄ニ而、荷物利分を含たる道利無之候得ハ、六分之分数可取之
一、金銀売買手形之事
　是ハ其時之両替相応ニ応し、金銀を買取斗ニ而、別ニ利分を食たる所不見候得ハ、六歩之方可取之
一、通を以金銀売掛候事

是ハ預ケ銀同前之取替内ニ而、おのつから利分を食たる金銀ニ候得ハ、四分之法可取之

一、通ニ而取渡之銀之事

是ハ通ニ而金銀売買致候儀ハ不及申、荷物之代銀ニ而も通ニ付候而、或ハ売払、又ハ買候とも、代銀相対ニ而極之内、既ニそれ〳〵之利分を内ニ含、殊ニ通ニ而取遣ハのへ銀之売買に候得ハ、理分を食たる所見へ候得ハ、四歩之方可取之

一、手形之題号之事

手形之題ニ預り申何々之事と有之、又ハ覚と一字書候も有之而、文言ハ同事ニ候、是ハ題号ニ無構、本文次第ニ可仕候事

右之通、倒人四歩六歩法被仰出候事

京都支配之町人・百姓へ、大坂支配町人・百姓ゟ金銀出入、其外掛り合、又ハ願等之儀有之、京都町奉行所へ出候節、向後願人訴状、町内之者ハ其町年寄奥判、百性(ママ)ハ其村庄屋奥判致させ、願人斗可罷出候、年寄・庄屋合添不及候、奥判無之訴状は取上無之筈ニ候、尤京都支配之町人・百姓、当表へ出候時も同前ニ候、且又本人長病・幼少之者等無構、名代を以相願候節も同事ニ相心得可申候、以上

享保十六亥四月十二日　日向

淡路

江戸ゟ被遣候御目附、此以後年々京都・大坂交代前、町奉行月番役宅門前へ訴状箱出置候、町方之儀ハ定り候訴状箱出シ有之候間、市中ハ夫ニ而相済候得共、百性(ママ)抔右訴状箱へ入候儀は心付申申(まま)間

敷候、此度之儀ハ、先ハ町へも掛り、第一在々百性(ママ)共致承知、御代官善悪并手代・名主等私曲有之ハ、其段訴候ためニ候、右之趣相心得、江戸へ言上致度義有之候ハヽ、書付持参致し、右之箱へ入可申候、依之訴状箱出し候前、所々へ高札建之日限等も記シ候間、高札之趣ニ相心得可申候事

四月

右之通、従江戸被仰下候間、三郷町中可触知者也

享保廿一辰四月廿七日　淡路

日向

御預ケ者之事

御預ケ者有之節、本人ハ不及申、家内妻子・下人・下女等迄も一切他へ出し不申筈之所、猥ニ他出致させ候様ニ被聞召、不届之仕形ニ思召候、向後右之不届於有之ニは、家主・年寄・下人迄急度御咎可被仰付間、此旨相心得候様ニ可申渡旨被仰付候、以上

元文三午年九月惣年寄中

御追放之者之事

一、公儀御仕置ニ而、江戸払又ハ追放等ニ成候者、御払之場所ニ隠れ罷有候も有之様相聞、畢竟右体之者と乍存囲置、或世話致し候者有之故之儀ニ而、不届至極ニ候間、於相顕ニハ囲置候者も当人同前之御仕置申付候、家主・五人組・名主迄、乍存差置候ハヽ、相当之咎可申付候、此旨可被相触候

酉七月

右之通、従江戸被仰下候条、三郷町中可相触者也

寛保元酉年七月十二日　河内
美濃

金銀并諸出入共惣代を以訴状相手之町へ指遣し三十日目対決之筈ニ候所、相手病気見届、双方ゟ改来候得は、性気次第申合、可罷出旨申渡候、然ル所近年病気改多成、対決も相延候、軽願も病気と申立候族有之旨風聞候、不届之事ニ候、向後対決日病人有之ハ、其町之家主・年寄・五人組立合、病体見届、連判之口上書を以可改来候、尤病人ハ是迄も一切他行ハ致間敷候得共、弥左様ニ可相心得候、若他行之族相知之は、本人ハ勿論、家主・年寄・五人組迄咎可申候
右之趣、三郷町中借屋人迄可触知者也

寛保元酉九月七日

近比公事其外願訴訟ニ申渡候節、年寄病気之由ニ而不罷出儀多有之候、既先比生駒町年寄日野屋庄兵衛ニ尋候事有之、呼出候所、病気之由ニ而悴ニ上下を着せ、年寄ニ拵差出、不埒至極ニ付、吟味之上、此度庄兵衛戸〆申付候、実病気ニ候ハヽ、其旨相断、代り月行司可差出事ニ候所、右体之儀、不埒之至ニ候、以来病気之由断出候節、不時ニ見分差遣候義も可有之間、町々年寄とも心得違無之様ニ可仕候

一、願訴訟ニ名代を申出候儀、極老幼少之者ニハ介副名代も可出事ニ候、病気之者は本服次第可罷出儀ニ候、尤本人指当事ニ而病中難差延義は格別たるへき旨、四年以前酉六月相触候所、近比猥ニ相成候、此段も急度相守可申候、此已後右体之義有之は、品ニより見分遣し候て、遂吟味ニ而可有

之間、其旨可相心得候
延享元子年四月

是迄諸願諸出入訴出候節、年寄家主へも不相届願出候故、自然相手方ニ不存儀をも、意趣抔ニて出入ニ取繕願出候類も有之、相手ニ被取候者、大勢及難儀事有之様ニ相聞候、依之向後諸願諸出入訴出候節、年寄家主ニも申聞、其上ニて年寄之願ハ月行司、丁人之願は年寄、借屋人は家主差添可出候、無左分は願不取上候、乍去年寄丁人へも難申聞願筋ニて、当人壱人出候ハヽ、其訳相糺候上、品ニより可及沙汰候

一、売掛ケ預ケ銀訴訟并一通り之断、又ハ届ケ等ニ罷出候節ハ、是迄之通年寄指添ニ不及候

一、諸出入対決候節ハ、勿論及吟味候刻、丁役ニて差添出候者は格別、右出入ニ不拘者は一切不罷出様ニ是迄も申付置候、弥向後此旨可相守者也

右之通、三郷町中不洩様ニ可触知者也
延享元年子八月　美濃

江戸表之御触
覚

一、借金銀掛ケ等之出入、人々相対之事ニ候、近年壱ヶ年両度候ハヽ、裁許申付候得共、向後三年以前子年正月ゟ之金銀出入は、前々之通取上裁許可申付候、四年以前亥十二月迄之金銀出入、只今迄之通、奉行所ニて壱ヶ年両度之裁許ニ日切等申付候而も、向後奉行所ニ而は不申付候間、相対を以無滞急度可相済候

一、只今迄金銀出入ニ付、奉行所ゟ呼出シ候節不参せしめ、又ハ済方申付候得共、金銀不差出輩有之由相聞不埒ニ候、右之通此度相改候上、奉行所ゟ呼出し候節不参致候か、又ハ済方申付候得とも不埒之輩有之ハ、武家方ハ奉行所ゟ老中へ申達し候筈ニ候、寺社家ハ在(ママ)、町方ハ奉行所ニ而急度咎可申付候

右之通可被相触候

寅三月

右之通、於江戸表ニ取捌之儀御触有之候間、可得其意候、此旨三郷町中可触知者也

延享三寅年五月

町中ニおゐて公事出入之内吟味ニ相成候趣及承、金銀可貪取と存知付、組与力へ手筋有之候間、利分ニ成候様ニ可頼遣抔とかたり事を申掛ケ候類有之、尤組与力并奉行家来共迄、兼而急度申渡置候、内縁等を以公事出入取持候事、決而無之事ニ候間、此旨可存候、然共不案内之者は虚実之弁なく右体之かたり事を実事と相心得、礼物を以頼候事も可有之候、畢竟内証ニ而手入致候ハゝ、其身之非を可遁ため之儀ニ候得ハ、是又不届之事ニ候、縦令正路候ものたまされ候而頼候迚も、顕候時は同前之事ニ候、已来年寄を以公事出入可取持由申者於有之ハ、早速可訴出候事、六ヶ敷儀と存隠置候歟、又ハ遠慮致し不申出、外ゟ相知候ハゝ、急度可令沙汰候

右之趣、三郷町中不洩様ニ可触知者也

寛延三午年六月

一、御用日、訴訟町方之分訴状を令裏書、惣代へ為相渡、若キ者又ハ人少之節ハ人足ニも訴状持せ

遣し、且又在方訴状ハ裏書裏判調之、訴訟人へ相渡、直ニ先へ持参、右両様ニ取計候得共、向後ハ在方町方共訴状当日改之、翌朝訴訟人へ相渡、直ニ先へ可令持参旨、訴訟人へ可申付事

一、御用日、公事白洲へ出候砌、訴訟方・相手方、左右之無差別、勝手次第ニ出候、向後ハ訴訟方白洲之左、相手方白洲之右ニ可出事

寛延三午十一月十四日

一、両御役所、御銀追々御貸付被成候所、近比家賃差上、御銀拝借願出候者無数、畢竟家賃ニ而は五人組・年寄印形取候故、重く存知込、不願出候様ニ被思召候、以来ハ家屋敷出入証文ニ而、年寄奥印ニ而御貸渡シ被成候、勿論右之外身元宜敷者ニは引当なく御貸渡シ被成候間、慥成請人相立候而可願出事

寛延三午十二月廿三日

野里屋四郎左衛門殿口上ニて被申渡候

他所へ引越

当地町人共之内、他所へ引越候者有之ハ、其趣訴出候様先年申渡置候所、年を経、心得違之者も有之候哉、近年猥ニ成候趣、粗有之様ニ相聞え候、家持借屋人ハ勿論、縦同家人たりとも、一旦身上持居候者引越之義は、年寄丁人差添可訴出候

右之通町中末々迄可触知者也

寛延四未年六月

一、毎月十二日之御用日、十三日御改

宝暦十一年巳九月

遠島追放取払等之御仕置申付候者之内、当時存命ニ而罷有候者候ハヽ、其者親類身寄之者歟、又ハ其所之者ゟ赦免願度者共、御仕置ニ成候者之名前并何年以前、如可程之科ニ而、何之御仕置ニ相成候訳書記、当月廿五日迄ニ月番之方番所へ可訴出者也

宝暦十一年巳十月

六丁

欠落之事

一、諸町人身体ならす欠落之者数多有之候、先年ハ欠落之者之跡之家屋敷・金銀・道具、欠所ニ従先規被申付候得共、近年負方売掛之ものともへ証文次第、先奉行ゟ割符ニ被申付候、然共身体潰欠落之跡ハ纔ニ配当ニ而、其町人切之断ニ罷出、商売之妨ニなり迷惑可致候間、自今以後ハ跡式欠所ニ可取上候条、其町人如例可申来事

一、欠落ハ何年過候而も、在り所次第ニ、負方売掛之者共、銀子可取之事

一、欠落之者之跡ニ有之候諸道具之内、預物之ハ預ケ主之証文次第、可戻之条可申来、但シ御法度相背欠落之者跡ハ可為格別事

一、欠落人之預ケ物、親類縁者ハ不及申、預リ主可申出之所、隠置後ゟ於相知ハ可為曲事事

一、欠落之者、家屋敷質物ニ取候共、売券次第ニ可申付事

右之通町中可触知者也

午十一月十五日　石見

壱岐

一、御追放者立帰罷在御見出候得ハ、又牢舎被仰付候事

一、家持并借家之者欠落仕候得ハ、早速御断申上候、則年寄・丁人・家主立会、家財諸道具、無紛失様ニ被仰付候、四、五日見合不立帰候得ハ、家屋敷・諸道具書付可来由被仰渡、弥行衛不知候得は、御欠所ニ被召上候事

但、親懸り之子・兄掛り之弟并下人下女、又女房之欠落、早速申上候事、尤其者之衣類・道具ハ御欠所ニ不相成候事

附り、子之名代ニ而家屋敷ヲ求、又ハ借家迄かり、商売仕居候而、彼子欠落之仕候時、何兵衛悴何と申者欠落仕候と申出、御欠所をのかれ申族可有之哉と、子之欠落ハ御吟味有之事

兄弟夫婦相も右同断也

一、親掛之子ニ而も、外ニ持候名前屋敷有之ハ、欠所ニ罷成候

一、夫入婿ニ而女房欠落仕、両親兄弟も無之類ハ、品ニよ女房家財たりとも御欠所ニ罷成候、入婿有之女房之欠落は、御吟味有之事

一、欠落人ニ負せ方有之而、残シ置候家財、負せ方へ被下候様ニ願出候而も、御聞届無之、欠落人尋出シ可申間、御欠所御延し被下候様ニと申上候得共、廿日斗之日切ニ度斗御延し、其上ニ而も尋出シ不申候得ハ、欠所ニ被召上候事

一、欠落人之親類罷出、欠落人尋出シ申度候、其間御欠所御延し被下候様ニと申上候得は、是又右同断

日切被仰付、其上ニ而も弥不罷出候得ハ、御欠所ニ被召上候事

若尋出し来り、外ニ悪事も無之候ハヽ、欠所御免有之事

一、欠落仕候下人下女、他国ニ親類有之、五三ヶ月又壱年も有之立帰り候由申上、先々悪事無之段申上候得は、欠所帳御消被下候、拾年も過候而立帰り、御帳面御消被下候様願候時は御吟味有之、主人持之分ハ主人堅先々悪事無之段不申上候ハ而は、御聞届無之事

附り、摂河泉ハ不及申、拾里、十四、五里之分ハ、他国親類召連罷出候様と被仰付候

下女娘等ハ少遠方ニ候得ハ召連不及罷出、尤一旦御欠所ニ罷成候分、立帰り義御聞届無之事

町人共当地を引払、他所へ相越候節、向後番所へ相断、請差図、其上ニ而引払候様ニ可仕候、此旨三郷町中可触知候、以上

元禄十四午二月廿五日

一、諸奉公人之請人、欠落又ハ不届有之、御仕置ニ成候共、自今以後家主致継判候ニ不及、主人と奉公人相対可仕候、此外奉公人給金・借金等之義ニ付、家主五人組抔と屋敷方へ留置、済方申付候義、堅無之筈ニ候、請人滞於有之は、其主人ゟ奉行所へ断次第、急度可申付候

一、奉公人欠落之義断次第、給金済方之義、請人へ急度可申付候事

但、給金済シ方請人へ申付候以後、若滞り候ハヽ、請人身体限り可申付事

一、取逃引請等之欠落者、主人断次第請人へ三十日尋申付、於不埒尋出ニは可過料申付、若及数度候共、曲事ニ可申付候、欠落者尋出シ候ハヽ、取逃物は売払候共買主ゟ為戻可申、金子抔遣捨候事分明ニ候は、可致捨りニ候、尤請人過料は差免、給金計済方可申付候事

但、請人、奉公人之下請人差置候而、請人相弁候金子、下請人へ掛り度旨願出候共、相対格別、御役所ゟ者申付間敷事

一、惣而取逃引負等之義、若請人兼々存知候様子ニ候ハヽ、遂僉議、其上之落着次第、請人御仕置可申付事

一、丁人之召仕欠落・取逃・引負等之儀、右之通ニ可相心得事

一、右之類、若請人致欠落候而も、請人欠落以前之家主預り置、其品御役所へも断於有之は、請人之可済金ニ、過料は家主へ可申付事

但、家主欠落者之店請人へ懸り度旨願出候共、相対ハ格別、御役所ゟは申付間敷事

一、欠落者有之、主人ゟ請人を預ケ候節、家主方へ召連参り預ケ可申候、主人方ゟ請人を呼寄せ候節、及数度不罷越候儀も候ハヽ、主人方ゟ奉行所へ断次第、吟味之上可申付事

一、奉公人出入ニ付、主人へ断有之候ハヽ、請人之家主不及異議、預り置可申候

但、借金筋ニ付テ、店之者を預ケ申間敷事

一、請人欠落已後、主人ゟ断有之候共、取上ケ申間敷事

一、取逃引負之欠落者之請人、自然致欠落候は、主人見合ニ本人召連可来候、本人を尋出シ、指出し候ハヽ、取逃物は前条ニ有之通申付、右欠落之者当宿有之宿請人取置候は、不慥成者之請人ニ立、差置候品を以、其店請人へ過料可申付候、若又当宿之者、店請人も取置不申指置候は、尤当宿へ過料可申付候、右取逃致引負候者ハ、勿論御仕置可申付事

一、門前払之儀、只今迄之通可申付事、右門前払ニ成候当人、重而之住所見届、元家主出入相掛り候ハヽ、尤当人身体限り可申付候、当家主へは金子申付間敷事
一、請人欠落又ハ不届有之御仕置ニ成候共、自今家主致継判候ニ不及、主人と奉公人相対ニ可仕候、此外奉公人給金・借金等之儀ニ付、請人又ハ家主・五人組抔を屋敷方へ留置、済方申付候事、堅無之筈ニ候、請人障り於有之は、其主人ゟ御役所へ断次第、不埒有之は、吟味之上急度可申付事
一、奉公人出入并諸借金買掛り等之儀は、本人滞候得は家主又ハ店請人へ、近来段々申付候得共、右条々之通向後相極候事
右之通、従江戸被仰付候間、当地ニ而も向後如斯申付候条、此旨三郷町中可触知者也

亨保五庚子年九月　安房
飛騨

覚

一、欠落者ハ何年過候而も、有所知れ次第、負せ方売掛ケ候者とも、銀子可取之候事
一、欠落之跡、有物・諸道具之内、預ケ物ハ預り主之証文次第、可戻之条可申来、但御法度相背欠落ものは、跡は可為格別事
一、欠落人之預ケ物ハ、親類縁者ハ不及申、預り主可申出、隠置以後於相知ハ可為曲事事
一、欠落者家屋敷之義、質物ニ取候共、売沽次第可申付事
右之通町中可触知者也

午十一月十五日　石見
壱岐

一、奉公人引負之事、度々訴出候、此儀ハ主人油断より事発候間、平生ニ心を付可召仕事
天和年中

一、奉公人出替
二月廿日八月廿日迄ニ候所、
承応弐年巳正月十八日、隼人様丹波守様之時代ゟ、三月廿日、九月廿日迄之内ニ出替候旨、被仰出候

一、惣体奉公人召抱候ニ付、請状を不取者も有之様ニ相聞之候、向後相改請状取可申事ニ候、奉公人請状無之者は、若出入之義願断候とも御取上無之候
元文三午三月七日

七丁

女手形之事
願出候得ハ、早速被仰付候
但、西国蔵屋敷方、爰元ゟ直ニ江戸へ罷下り候ニハ、御番所より御証文出、其外国方ゟ之江戸下りハ、京所司代御切手也

上様

今月十五日

大納言様御婚礼首尾能相済、姫宮様御事、御廉中様と可奉称旨、江戸より被仰下候間、恐悦ニ可奉存候、此旨三郷町中可触知者也

享保十六亥年十二月　日向

淡路

法皇御所　去ル六月

崩御之旨申来候間、今日ゟ重而指免候迄ハ町中物静ニ仕、鳴もの停止、道頓堀・安治川・堀江・曽根崎新地芝居、并普請可相止候、弥火之元等念入可申候、公事訴訟聞候儀も指延候、右之趣三郷町中可相触候、以上

享保十七子年八月八日

敬法門院御方　去月晦日

薨去之旨申来候間、町中物静ニ仕、道頓堀・安治川・堀江・曽根崎新地、其外鳴物、今日より明後六日迄令停止候、此旨三郷町中可触知者也

同子九月四日

御廉中様、去ル三日被遊
御逝去候旨申来候間、町中諸事穏便ニ仕、重而差免候迄、鳴物・普請・芝居、可相止候、弥以火之
元等念入可申候
　享保十八丑年十月九日

仙洞御所、一昨十一日崩御之旨申来候間、今日ゟ重而差免候迄町中物静ニ仕、鳴物停止、芝居并普
請可相止候、弥火之元念入可申候、公事訴訟聞候儀も差延候
　元文弐巳四月十三日

於　西之御丸ニ当月廿ニ日
若君様被遊御誕生、　弥御安泰被成御座候之旨、従江戸被仰下し候条、恐悦ニ可奉存候、此旨三郷
町中可触知者也
　元文弐巳五月廿七日

先月廿八日、従
公方様　若君様へ
御名被進之
竹千代様と奉称候旨、従江戸被仰下候条、恐悦ニ可奉存候、此旨三郷町中可触知者也

巳六月五日

若君様、奉称竹千代様と候ニ付　名字ハ格別、人之名ニ竹之字付候者、相改可申事ニ候、以上
巳六月

当十五日、従
公方様、竹千代様へ御名被進
家治公と奉称之旨、従江戸被仰下候条、恐悦ニ可奉存候、此旨三郷町中へ可触知者也
元文五申十二月廿日

当月七日
公方様右大臣、　御転任
大納言様右大将、　御兼任之
宣旨　御頭戴御作法、無残ル所相済候旨、従江戸被仰下候条、恐悦可奉存候、此旨三郷町中可触知者也
寛保元年酉八月十四日

当月十二日
竹千代様　御元服、
従ニ位大納言被遊　御任叙、　同日ゟ大納言様と可奉称之旨、従江戸被仰下候条、恐悦ニ可奉存候、

此旨三郷町中可触知者也
元文五酉年八月十九日

豊前宇佐宮へ

奉幣使被遣候ニ付、近々当地通行之事ニ候、止宿も有之筈ニ候間、町中火之元念入、尤止宿近辺、別而火之廻リ可致候、此旨三郷町中可触知者也
延享元年八月

奉幣使通行之道筋町々掃除等可致候、右道筋往来之者共、不作法無之様ニ可申付候
一、当地止宿之内、若出火等有之ハ、荷物取除之ため、惣年寄三人、人足五六十人召連、旅宿へ早々馳付、あのかたの差図次第、荷物等取除させ可申候
子八月廿七日

今度
右大将様へ　御政務
被遊　御譲　御本丸へ近々被為移、
公方様　被　御隠居西之丸へ
御移可被遊之段、当月朔日被仰出候旨、従江戸被仰下、恐悦之御事候、此旨三郷町中可相触候
延享二丑年九月廿日

去月廿五日
右大将様　御本丸へ被為移
上様と奉称
公方様　西丸へ被遊御移替、
大御所様と奉称候旨、於江戸被仰下候条、恐悦可奉存候、此旨三郷町中可相触者也
延享二丑十月

一、当月朔日二日四日、於　江戸表
御代替之御礼、無残ル所相済候段、被仰下候
丑十月

一、当月朔日、於　田安御屋形ニ、御男子御出生被成候旨、従江戸被仰下候条
丑十月

公方様当月二日
将軍宣下御作法、無残所相済候旨、従江戸被仰下、恐悦之御事ニ候、此旨三郷町中可相触候
丑十一月九日

一、当月廿一日、於西丸
御男子様御七夜之御祝儀、首尾能相済、松平万治郎様と奉称候旨、江戸より被仰下候条、恐悦ニ
可奉存候、此旨三郷町中可触知者也

延享二丑年二月廿七日

仙洞御所　昨廿二日
崩御之旨申来候、今日ゟ重而指免候迄、町中物静ニ仕、鳴物停止、芝居并普請可相止候、火之元之義、念入可申候、公事訴訟聞義も指延候
延享（ママ）三午四月廿四日

桜町院様　明十八日
御葬送、来ル廿一日御法事始リ候由ニ候、右法事中、弥以火之元等入念候様、三郷町中可相触者也
五月十七日

大御所様　当月廿日
薨御候間、町中諸事穏便ニ可仕候、普請・鳴物・諸芝居、并傾城町商売も、追而指免候迄相止候、此節町中自身番、火之元別而入念可申候、公事訴訟も重而案内せしめ候迄は不承候間、右之趣、三郷町中可相触候也
寛延四未年六月廿三日

殺生之儀、相触可申候、尤京橋・玉造・雑喉場之辺、餌猟師へ可申候
六月四日

此節穏便ニ仕、鳴物停止、先達而御書付を以被仰出候、江戸表ニ而は、ヶ様之節は惣体丁家之見世もしめ、物静ニ仕居申事ニ候、大坂之義は是迄も左様之被仰付も無之、所之風儀も有之ものゆへ、俄ニ御なおし被成候儀ニ而ハ無之候得共、惣体見世先ニ而涼候とても、喧嘩口論は不及申、重高ニ咄しなと致シ、又ハ念仏之鐘音高く猥ニたゝき、子共なともかしましく立さわかせ候体、敬(ママ)ニ而悪敷候、右体之義、物静ニ可致筈、於奉行所ニ御沙汰も有之、此方共相心得、随分穏便ニ仕候様、可申渡旨、被仰付候

一、神妙六斎夜市并順慶町常夜市抔も指扣、追而御差免可被成候、御葬送も無之内、別而大体之儀、可相慎事ニ候、以上

六月廿五日　惣年寄中

一、遊山船・網打船、川々へ出候趣相見得候、右体之義可相慎事

一、船作事致間敷候、両川口辺ハ勿論、川々之外ニ而も作事仕間敷候、尤舟大工有之町々、別而入念可申聞事

一、諸方参詣人之義、平生と不相替相見得候、此節は格別ニ可相慎事

一、町方葬礼之義、随分隠蜜(ママ)ニ取計可申筈ニ候、仏事故と心得違、花麗ヶ間敷致間敷事

一、川々ニ魚商売船出候由相見得候、此節者相止可申事

一、此節御停止ニ付、町々致自身番候様ニ被仰付候所、丁人心得違、自身番所へ夜分名代差出候者多相見得候、年寄相改、不念無之様可被取計候、尤番人火之元見廻り候様可被申渡候

一、道具市商売之事

一、樽商売之事

一、吹屋商売之事
一、鋳物師商売之事
一、絞り油商売之事
一、於川口船小繕之事
　但、重高繕は普請同前之事ニ候、追而被遊御免候迄相止可申候
右は家業之儀候間、重高ニ無之様可致商売候、尤右ニ准シ候商売体之者共も、同前ニ相心得可申旨被仰出候
　未閏六月七日

此節於川口船小繕之義、御免被遊候所、心得違、重高之繕有之様相聞、右小繕之義、廻船年寄へ相達、見分之上可致繕事
一、川船繕之義、是又心得違無之様、重高成繕仕間敷事

　覚
一、普請之義、　今日ゟ指免候事
　閏六月十日

一、神明六斎之夜市并順慶町其外書付候夜市之義、渡世之事ニ候間、火之元別而念入、御穏便中ニ候間、物静ニ商売可仕候旨被仰渡候
　閏六月十二日

一、町々自身番相勤候儀、数日之事ニ候間、昼之内は壱人ニ而も不苦候、夜分は是迄之通弐人宛可相勤候、自然病気之節、名代ニ而も指出候義、不苦候、併麁抹之者共差出間敷候事

一、傾城町商売之義、御構無之、質素ニ商売可仕事

閏六月廿七日

一、鳴物停止并町中自身番之義、明十一日ゟ指免候

未七月十日

右六月廿三日夜より閏六月中七月十一日迄五十日之間、町々ニ新ニ番所を拵、町人直ニ袴羽織を着し自身番致、定番之外辻々ニ立番差置御役人衆・惣年寄中、昼夜共町中を御廻リ有之候

覚

一、公事訴訟、来ル廿七日ゟ令裁許候間、此旨三郷町中可相触者也

未七月十八日

就寺格ニ、於天王寺、明十七日ゟ廿三日迄、一七日之間御法事有之、御城代様ニも御参詣被遊候間、町中ニ而喧嘩口論無之様、火之元之義、可入念事ニ候旨、思召候旨、今日御番所ニ御沙汰有之候間、町々為心得申達候、以上

未七月十六日

寛延四未年

右は大御所様御書出之分

一、酒井雅楽頭殿事、溜詰被仰付、播州姫路へ所替被仰付候旨、従江戸被仰下候、此段承知可令候、

以上

寛延二巳年正月十三日

一、形部卿御簾中、当月十二日御逝去ニ付、諸事穏便ニ仕、今日ゟ来ル廿二日迄鳴物芝居停止申付候、尤普請之儀は構無之候、火之元之義、別而念入可申候

同巳八月十六日

牧野備前守殿　京御諸司也

昨十八日卒去ニ付、町中諸事穏便ニ仕、今日より鳴物諸芝居停止申付候、普請之儀は構無之候、尤明廿日之義は自分ニ相慎、鳴物等可致遠慮候

寛延二巳年九月

松平備後守殿

昨廿六日就卒去（ママ）ニ付、町中諸事穏便ニ仕、今日中鳴物并諸芝居停止申付候、普請之義は構無之候、

明廿八日之儀は自分ニ相慎ミ、鳴物等可致遠慮候、此旨三郷町中可相觸者也

宝暦弐申三月廿七日

右京都御諸司代

御卒去ニ付、跡御役御引合之ため、御老中御出有之ニ付、大坂両郡近郷御巡見之例之由ニて、是迄も京・大坂・堺・両郡御巡見有之候

御存命之御代りニは御出無之、外御役人様御引合、御用御勤ニ而、御巡見も無之候

一、有徳院様、一周御忌之御法事、於東ゑひ山ニ 御執行之事ニ候間、来ル十七日ゟ十九日迄、町中穏便ニ致シ、諸事相慎、別而火之元可入念事

一、御法事中、公事訴訟、令裁許候事

一、御法事中、普請・鳴物・祭礼・法事等、不及相止候事

一、来ル廿日は、殺生之儀、停止申付候事

右之通、三郷町中可觸知者也

申六月十五日

一、月光院様、申十九日御逝去被遊候旨去来候間、町中諸事穏便ニ仕、重而差免候迄、普請・鳴物停止、并諸芝居可相止候、弥以火之元入念可申候、此旨三郷町中可相觸候、以上

宝暦弐申九月廿五日

形部卿御嫡小五郎殿、当月九日
逝去ニ付、今十六日ゟ来ル十八日迄、町中諸事穏便ニ仕、鳴物并諸芝居、三日相止申付候、普請之義は構無之候、火之元別而念入可申候、此段三郷町中可相觸者也
宝暦弐年申十一月十六日

一、大納言様、御年頭ニも被為成候ニ付
五十宮御方、御縁組被仰出候、御結納之儀ハ来年六月中、
御入輿之義ハ可為来年十一月中旨、去ル十一日被為　仰出候段被仰下、誠以目出度御事ニ候

一、五十宮御方
姫宮様と可奉称旨、被仰出候段、是又被仰下候御事
宝暦三酉年十一月十八日

当月朔日
大納言様御婚礼、首尾能相済候由被仰下候、誠以恐悦之御事ニ候

一、姫宮様御事、向後御簾中様と可奉称旨被仰下候
右之趣、従江戸被仰下候条、恐悦ニ可奉存候、此旨三郷町中可觸知者也
宝暦四年戌十二月　遠江
安芸

先月廿七日
姫君様御七夜之御祝儀相済、奉称千代姫君様と候段、従江戸被仰下候、恐悦ニ可奉存候、此旨三郷町中可觸知候
宝暦六年子八月

一、千代姫君様、宝暦七年丑四月十二日御逝去、鳴物三日御停止

一、葵之御紋付候衣類道具、何ニ不依所持有ハ可申上旨、宝暦九卯七月御改

大御所様
当月十二日被遊薨御候間、町中諸事穏便ニ可仕候、普請・鳴物・諸芝居、追而差免候迄ハ相止候、此節町中自身番、火之元別而入念可申候、公事訴訟も重而令案内候迄ハ不承候
右之趣三郷町中可觸知候
宝暦十一年巳六月十七日

五十日之間町中自身番仕候、御役人中様度々御廻り被成候

一、尾張中納言様
巳六月廿四日御逝去
七月六日ニ御觸、来ル八日鳴物・諸芝居、相止候様被仰渡候

宝暦十一年巳七月六日

一、万寿姫君様 御誕生之旨
宝暦十一年巳八月

九丁

御巡見之事

一、松平右京太夫殿、御用ニ付近々当地へ御越候間、御逗留中三郷町中火之元別而入念可申事
一、御逗留中、臨時火消人足五十人、鉢巻・羽織・相印挑灯・火消道具、如先例之致用意、剣先船三艘ニ乗、蜆川之口ニ昼夜相詰可申候、
一、惣年寄弐人・惣代弐人、御本陣近所ニ相詰、若火事之時分、右之人足を以働可申候
一、三郷火消人足等、常々之通無油断相心得、自然出火之刻、無遅滞可馳集事
一、御逗留中、御本陣近所自身番
東ハ 堺筋迄
西ハ 白粉町・玉水町・江戸堀壱丁目・船町・斎藤町迄
南ハ 平野町迄
北は 堂嶋新地不残
永来町・弥左衛門町

右之通可申付候、以上

一、町中致掃除、水道雨天之節大道へ馳出不申様ニ心付可申事
一、俵物・材木・瓦・壁土、大道へ取散シ、往来妨仕間敷候、浜先なたれ形ニ、猥ニ積物仕間敷事
一、浜側岩岐、亦又水たゝきの石、破し候所ハ繕可申事
一、売物見せ、日覆之莚又ハ渋紙等はり出し、構ニ不成様ニ可申付事
右之通三郷町中可申聞候、乍併町中掃除等并溝抔臨時ニ浚候義、前方ゟ仕ニ不及候、天満青物市場、右右京太夫殿御逗留中、無構平生之通ニ可仕候
其外浜側へ俵物・材木抔上候義指留、或ハ大道ニ新規成置土等致し、新ニ取繕申義無之候、常々申付置候通定法相守り、御通り之時分致掃除、無礼之体無之様ニ可相心得候、以上
寅七月

一、松平右京太夫殿、近々当地へ被遊御越候ニ付、町中巡見之時分、大道ニ高低抔有之所之は新規ニ致シ候と不相見様ニ繕致シ、掃除可申付候、おたれ葺直し上塗等致スニ不及候、町橋も右ニ准シ、目立不申様ニ、損候而危キ所は繕可申候
一、此度御見分所、相知れ次第觸可申候得共、御出之朝迄不知候ハゝ觸申間敷候間、御着以後、毎日無油断御通りと相心得、大道掃除之義念入可申候、立砂蒔砂無用ニ候事
一、橋詰ニ居候床髪結之床、庇并立戸有之候ハゝ構ニ成可申候間、御通り之時分、当分取退候様ニ、橋詰之町ゟ可申渡候、橋御通り、川筋御通り之時分、川端并納屋よりのそき、又ハ見物之体無之様ニ候

一、台碓之義、当分取退可申事
一、庇并見せ先、物干看板之義、御通り之時分妨ニ不成候分ハ其通ニ可差置、相障り候分は見合ニ取可申候
一、御通り筋、惣而洗物・古着物・其外むさき物、或ハ大道浜側抔ニ莚を敷、ほし置申間敷事
一、大道ニ商売物出シ置候義、目立不申、大道之妨ニ不成分は不苦候事
亨保十九年寅七月

右之通被仰出候間、町々へ得と申聞せ、町代へ写させ、町内相觸候様ニ、地方御役人衆を以被仰渡候間、得と写シ取、町内不洩様ニ可被相觸候、以上
寅七月十六日
御用懸り惣代

一、松平右京太夫殿、大坂町内御通り之節、見せニ居候職人其外之者共、手をつき御時宜之体致スニ不及候、肩をぬき、又ハ揚リ口ニ腰をかけ、或ハ後をむけ、無礼・不行儀・無作法不仕様、三郷町中可相觸候、以上
寅七月

本多伯耆守殿御儀、来月中旬御上京被成候、当表御巡見可被成も難計、弥当地へも御越可被成段相決候ハヽ、猶又掃除作法等之義、追而可申渡候、都而町中地形水吐等ハ前々ゟ申渡事ニ候、町筋高低ヶ所有之所は、其町々年寄、兼而之作配疎故ニ候隣町申合、軒下水道浚、町筋へ置土致し、地形

之不陸を平均、水吐宜敷様可致候、差掛り申付候而ハ臨時之失墜相掛り、其上俄之置土は雨天之節踏荒、還而道悪敷成事ニ候、先此段申渡候、尤端々横町迄一統可相心得候
右之趣三郷町中可申聞者也
寛延二巳年十一月

覚

一、本多伯耆守殿、当表へ御趣被成候間、御逗留中、三郷町中、火之元別而可念入事
一、三郷火消人足、常々之通、弥無油断相心得、自然出火之刻、無遅滞可駈集事
一、天満青物市場、伯耆守殿御逗留中、無構平生之通可仕事
右之通三郷町中へ為申聞、常々申付候定法之通相守、御通り之時分、御道筋は勿論、横町迄も致掃除、無礼之体無之様可相心候
寛延三午年正月

一、本多伯耆守殿、町筋御通り之節、見世ニ居候者不残土間へおり、行儀宜仕可罷有候、且又御通り之節、横町ニ立止り居候者杯無之様ニ、其町々ゟ致世話、無礼之体不仕様ニ可相心得事
午正月

一、川中并岩岐之草、其町々ゟ為取、惣而川中ニ見苦敷物流、留さる様ニ可仕
一、川中水尾ニ繁船、又ハ材木竹等差置申間敷事
一、川筋御通り之節、屎船通し不申、外川筋通し可申事

一、川筋御通り之節、遊山船・勧進小船、遠掛ヶ可致事

一、浜側岩岐水たゝき石、大破繕可申事

一、川筋納屋下ニかこひ仕、商ひ物不指置、非人寝臥致させ申間敷事

午正月

一、御城代様・両御奉行様、御通り之節、諸町人不礼不相止、商人みせ先ニ打臥なからたはこのミ、或ハ頭巾ほつかむり抔致し居候義、并町人其外医師抔御通り之節、猥ニ乗打致間敷事、以来不礼之者有之は、召捕御咎可致仰付事

一、伯耆守様御通り之節、御道筋見通し、横町木戸打可申候、木戸無之所は、細引を以人留可致事、并御通り之筋ハ勿論、横町ゟ見通シニ有之物干、何ニ而も軒先へ出候物取払可申事

一、右木戸外ハ横町ニ而可有之間、通り筋ニ而無之共、其町々年寄罷出、人留致し、場所せわ可致事

一、町々木戸并番所ニはりかミ有之間、早々取払可申候、尤くわへきせる御法度之書付、古く相成候分は相改、其侭はり置可申事

一、軒之上軒之下、むさきもの有之候ハゝ、早々取払候様ニ被仰付候所、未取払不申、掃除不致所有之、不埒之事ニ候

一、伯耆守様御巡見ニ付、別而火之元入念立番可然旨、惣年寄中心得ニ而被仰渡候

午正月

一、花屋之軒先植木取払
一、何ニ而も軒先へ出候物取払
一、正月廿日夜ゟ町々立番致
一、同十九日迄ニ諸事取払
一、火之用心之事
一、又々木戸を不打して人留之由被仰渡
一、御通り之節、青物や米屋たれむしろ之分取払之事
一、御見分之節、若夜ニ入候ハヽ、十間口ニ壱ヶ所積り、有合挑灯出シ可申事
一、二階まとをしめ、樟子見苦敷分は、はりかへ之事
一、軒先へ少々出有之かんはんハ、其侭見合差置候様、取払ニ不及候

伯耆守様ハ、中之島松平隠岐守様之御蔵屋敷ニ御逗留有之候
心斎橋筋を三度御通り有之候
辻ニ水手桶茶わん三つ茶盆ニ入、小せうぎニ居置

一、浜側納屋抔ニ古草履草鞋、其外見苦敷物取払
一、蠣船取払
一、軒下ニ有之壁土・石・古木、并垣外番部屋取払
一、同笹植木類取払
一、御通り之節、路しをゞ可申事

一、おたれニ付有之庇、并日覆之板・葭簀・縄きれ取払
一、屋根瓦留板はなれかへり有之所は繕可申事
一、御通り之節、納より堅覗申間敷事
一、軒下并浜先ニ有之雪隠、葭囲ひ可申付事
一、御通り筋之町々、付おたれ之分取払之事
一、魚屋青物や之類、軒下はしりしくひ取払不及、葭簀・板囲ひ等取払可申事
一、御通り之節、町々年寄、麻上下着仕、木戸除ニ或ハ辻之侍ニ平伏仕居候而、御同勢之差構ニ不成様ニ可仕候、尤丁内人案内候ニ不及候

右之外、火之元又ハ掃除等不作法無之様、軒先へ出張候もの取払、或ハ人留等之儀、惣御年寄中御用掛り之惣代中ゟ廻状を以申来事、数を不知事ニ候

大坂并近郷古跡等、御見分之上、二月七日ニ右御籠屋ゟ今橋筋を谷町筋南へ、安堂寺町筋を玉造りへ、南都へ御通り有之而、町中立番御免候

自身番ハ無之候、併自身番所は申改り候事ハ無之候得共、町々ニ念入申事ニ候

御通り之節ハ、前日ニ廻状を以御通り之趣申来り候

両御奉行様、町方下御見分有之、地方川方御役人衆、度々見廻り有之、惣年寄中様も度々見廻り有之、年寄丁代右見分之度毎、町境へ出向申事度々之事ニ候

二月七日ニ御立有之而
町々立番止

定式之通可仕旨被仰渡候

心斎橋筋以上三ヶ度御通り有之、大道掃除致し砂をまき候て、きれひ成事見ル人目ヲ驚而候、御通り夜ニ入候時ハ、家並ニ挑灯出ル、人留之人足大勢を以固候、町中ハ慎ミ罷有候事也

口上之覚

松平右近将監殿御儀、来月中旬御上京被成候、当表御巡見可被成も難計候、弥当地へも御出被成候段相決候ハヽ、猶又掃除作法等之義、追々可申渡候、町中大道、地形不陸成所者此節ゟ置土致し、隣町申合、軒下水道水吐能様ニ可致候、差掛り申渡候而は臨時之失墜相懸り、其上俄ニ置土致し候而は、雨天之節、却而道悪敷相成候ニ付、先此段申渡候

宝暦二四月日

一、先達而被仰渡候大道不陸之所取繕之儀、来ル廿三日迄ニ仕立相仕廻候様被仰付候

一、御通り筋、見世先格子抔より見物之体仕間敷候、二階窓なと之戸を〆置、并辻々へ罷出、見物之体仕間敷候、御通り之後も見物之体仕間敷事

一、御見分所、寺社門前へ出商ひ致候者取払せ、所々ニ階より寺社境内見おろし候場所、戸〆置、或葭簀囲ひ見苦敷所有之候ハヽ、取繕可申事

一、御通り筋、軒先格子出張候看板、取払可申候

但、大道幅広く、御通行之指構ニ相成(ママ)候分は其侭ニ指置可申候、且又かるた之かんはん一切差置申間敷事

一、御通り筋軒先付おたれ并日覆、取払可申事
　但、魚屋・八百屋見世先ニ有之板囲ひ・葭簀囲ひ、取払可申事
一、御通り筋町々、木戸ニ有之張札、不残取払、くわへきる(きせる)御法度之書付、相改置可申事
一、御通り筋町々格子之下、竹囲ひ・板囲ひ等取払、釣格子ニ不成所は葭簀ニてかこひ可申候
一、御通り筋春米屋、莚のうれん取払、其外見苦敷のうれん等ハ相改可申事
一、御通り之節、両側二階窓〆置可申事
一、御通り筋御見通シニ相成候横町、往来之者差扣させ、不作法無之様、隣町年寄丁人罷出、差配可仕事
一、御通り筋町々年寄、麻上下着仕、辻合ニ平伏可仕事
一、御逗留中、御本陣近辺之外、町々は立番致、火之元別而念入候様、惣年寄心得ニ而可申聞候事
一、御通り筋御見渡ニ相成候雪隠、葭簀ニ而囲ひ、并ニ木戸際ニ有之小便桶、土を入、埋置可申事
一、御通り筋軒下ニ有之塵捨場、埋置可申事
一、当表御発駕之節、御道筋町々両側、凡五間口ニ壱ヶ所之積り盛砂仕、其間ニ手桶竹箒指添差出可申事
一、先格之通、御本陣近辺ハ東ハ堺筋、南は平野町筋、西ハ白子町・玉水町・江戸堀壱丁目・舟町・斎藤町迄、北は堂島新地不残、御逗留中、昼夜自身番可仕事
一、おたれ之上ニ草履・草鞋、其外不依何ニ見苦敷物、差払可申事
一、御通り筋ニ有之紺屋もかり、并物干杭、取払可申事
　但、見渡シニ相成候横町ニ有之分も取払可申事
一、御到着・御発駕之節、并御巡見御帰路之節、夜ニ入候ハヽ、川筋浜側両側、并御通り筋町々両

側ニも、凡十間口壱ヶ所宛、有合之挑灯差出可申候、川筋丁橋之分、水屋筋橋けたへ挑灯釣候様可仕事

但、御神灯之書付挑灯は差出シ申間敷事

一、川筋御見分之節、遊山船并勧進船差出義、遠慮可仕事

一、浜側岩岐挽損候所々繕之義、来廿三日迄ニ仕立可申事

一、川内へ張出候水汲場、并はね釣瓶取払、井戸家形は其侭指置、見苦敷無之様ニ可仕事

一、川中船繋杭、船はり壱尺四五寸程ニ仕、朽損候分相改、ゆかミ直し、見苦敷無之様可仕事

一、納屋下竹垣并板囲ひ・家境之垣取払、町境之垣、見苦敷無之様可仕事

但、納屋下ニ非人差置申間敷事

一、川筋御通船之節、船普請相止、不作法無之様ニ可仕置事

一、蔵屋敷船入場、繋杭損候分繕、当時不用ニ而朽残候杭取払、惣体不掃除無之様ニ可仕旨、名代之丁人へ可申達事

一、浜側ニ有之紺屋もかり杭、川中へ出張候分取払、見苦敷無之様可仕事

一、浜側ニ有之ちり捨場、取払可申事

一、川中附淵ニ有之草取払、掃除念入可申事

一、浜側ニ有之せつちん、葭簀ニ而囲ひ可申事

一、浜側ニ有之宿屋之印・湯屋之印、取払可申事

一、浜納屋落書取払、塗込莚取払、見苦敷無之様ニ可仕事

一、浜側ニ有之植木、并納屋抔ニ有之箱植木之類、取払可申事

一、西横堀橋下材木、并非人小屋かけ、取払可申事

一、材木出張候分取払可申候、材木繋杭見苦敷候分、長短無之様相揃、ゆかミ直し置可申事
一、浜納屋下之外、浜側ニ有之石・置土、取払可申事
一、江戸堀筋西之端、岩岐之石、乱雑ニ相見候間、取繕可申事
一、所々納屋際ニ、莚囲ひ之小家相見得候、此分取払可申事
一、納屋之屋根ニ有之干物等、見苦敷候、取払可申事
一、浜側石屋之石、水たゝき際迄出張候所相見得候、水たゝき際往来相成候様引込、乱雑ニ無之様
　可仕置事
一、町々水道之蓋損候所々取繕、丈夫ニ可致事
右之通被仰渡候間、町々間違無之様ニ可被取計候、已上
　申五月

一、此間町方見廻り候所、軒下ニ框を建、内へ取込物置ニ致置候所相見得候、此義は前々ゟ被仰付
　候所、不埒之致方第ニ候
一、町々丁人之内ニ心得違居候者有之以、前之御巡見様、此所は御通り無之間、此度迚も御通りニ
　而は有間敷なとと申居候者有之由、何時御道筋替り候哉難計事ニ候所、右之通心得違居候丁人不
　埒之事ニ候、端々迄も御通りと相心得、万事被仰渡候通、間違無之様ニ相心得、念入可被申置事
　　申五月十五日　　惣年寄中

松平右近将監殿、近々当表御越被成候間、御逗留中三郷町中火之元念入可申事
一、三郷町中火消人足、常々之通弥無油断相心得、自然出火之砌、無遅滞可馳集事

一、天満青物市場、右近将監殿御逗留中、無構平生之通可仕事
右之通三郷町中へ申聞せ、常々申付候定法相守、御通り之時分、御道筋は勿論、横町迄も掃除致し、無礼之体無之様可相心候
宝暦二年申五月廿八日

松平右近将監殿、町筋御通り之節、見世ニ居候者共不残土間へおり、行宜能仕可罷有候、且又御通り筋之横町ニ立止り居候者杯無之様ニ、其町々ゟ世話致し、無礼之体不仕様可相心得事
右之通、三郷町中不洩様ニ可觸知者也
宝暦二年申五月廿八日

此度右近将監出坂ニ付、同勢旅宿、上中之嶋町・肥後嶋町・大川町・梶木町ニ而申付候、右旅宿、家主は家貸候迄ニ而、馳走ヶ間敷義は勿論、万事相構ひ不申様ニ被仰渡候
一、旅宿近辺、事ニより所々番所申付候儀も可有御座候、家中之者丁々猥ヶ間敷義無之ため二而、町方往来之相構ひ不申候間、此旨相心得候様致度候
但、右番所之内へ女商人・勧進比丘尼抔不入込様ニ番人へ申付候、丁内之者共へ承知致候之様ニ致度候
一、右近将監、家中下々迄調物代銀相滞候ハヽ、早速右近将監役人へ申出候様ニ、於当町中并他所ゟ入込候丁人も承知仕候様ニ致度候、事済候後訴出候而は取上不申候事
右之趣申渡置候様ニ被成渡旨、右近将監殿役人如此書付指出候間、此旨町々之者共へ可申聞候、以上

申五月廿日

御逗留中町中立番仕候

心斎橋筋北より御出有之、塩町筋上へ御上り壱ヶ度、
又心斎橋筋両度御通り、以上心斎橋筋三度御通り

水手桶　茶盆ニ茶碗五ツ
西かわに五ヶ所
又車町ニ東かわに五ヶ所置
人留万事右之書付之通

当地ゟ南都へ御立、但御本陣ゟ今橋筋へ、谷町南へ、
安堂寺町筋東へ、南都へ目出度御発駕被遊候、以上

町中立番止

十丁

宝暦二申六月

宮

一、天満天神宮祭礼之刻、警固之者下知致候儀、相背族於有之は、従前々如触知ニ候、可為打捨事
右之趣違背於有之ハ、本人は不及申、其町中可為曲事候条、町中念入可相触者也
明暦三丁酉年六月十七日　隼人
丹波

十一

諸宗

一、浄土宗
知恩院派寺数　八十五ヶ寺
知恩寺派　弐十壱ヶ寺
金戒光明寺派　拾九ヶ寺
西山派　弐ヶ寺
一、真言宗　弐十三ヶ寺
一、禅宗　弐十ヶ寺
一、法花宗　三十七ヶ寺
右諸支配頭ハ其町々役者ゟ且又五人組ヨ(ママ)有之由、

一、西本願寺下　九十四ヶ寺
　津村御坊留主居役人ゟ支配
一、同　奥正寺下　十壱ヶ寺
　天満御堂有之候
一、東本願寺下　五十四ヶ寺
　難波御堂輪番之僧2支配
一、同　仏照寺下　九ヶ寺
一、同　本泉寺下　八ヶ寺
一、富田専修寺下　壱ヶ寺
一、仏光寺下　十六ヶ寺
一、大念仏宗　四ヶ寺
合四百弐拾弐ヶ寺
　此寺々ゟ三郷町中へ宗旨手形出ル

宛名
　家持ハ　年寄へ
　年寄ハ　月行事へ
　借屋ハ　家主へ
　下人下女ハ　主人
　如此被仰渡、委細寺々印鑑帳ニ有

覚

一、借在家、構仏壇不可求利用之旨、於江戸諸宗へ被仰出候間、町中此趣存請、僧を置へからす、有来候妻帯道場之外ハ、仮仏壇無之とも、町家ニ出家住宅致し、聴衆を集、法解候儀、此以前ゟ停止之間、令違背ハ、其町中可為曲事事

但、往来出家、当座之宿日数廿日ニ不可過事

一、学文を心さし、一寺をも望候僧ハ勿論、住寺・隠居・同宿・道心、寺ニ而も一旦寺中ニ罷有候僧ハ、町家ニ住居なるましく候、還俗之者ハ格別之事

一、当地住居之町人、渡世難成より髪を剃、鉢をひらき、或ハ隠居之者、或は親類ニわかれ、哀傷之余落髪、戒律をたもち法衣を着候共、前後寺中ニ居不申者ハ町中ニ住宅不苦候、人を集、法談ヶ間敷儀ハ仕間敷候事

一、西東両本願寺・富田専修寺・大念仏寺・仏光寺、右五ヶ寺之末寺并宮社、町家ニ有来候、向後町家を寺社屋敷ニ売候ハヽ、番所へ相断可申候、無断売申間敷事

右之通町中可触知者也

午十一月十五日　石見

壱岐

一、寺社開帳并神書仏書講尺(ママ)、又ハ神主・出家他国行、寺社御役所へ願出候得ハ、筋目次第被仰付候、但寺社御役人元禄九子年ゟ毎日御役所詰也

覚

一、清僧之輩・借在家、構仏壇を不可求利之旨、前々ゟ申付候所、密ニ令借宅、或説法、或加持祈祷を致シ、又ハ俗人ニ而左之業をいたす者有之旨相聞え、不届ニ候間、遂吟味、彼者ハ不及申家主共迄急度曲事ニ可申付事

一、往来之出家、当座之宿日数廿日ニ過へからす、廿日過候ハヽ、番所へ断可来旨、前々ゟ申付置候通、弥堅可相守之、於相背は宿曲事可申付事

一、当地寺持之僧、病気養生を申立、在家を借り、罷置候者有之候様ニ相聞候、左様之者、宿借りニおひてハ家主曲事可申付事、

右之通申付候間、年寄五人組遂吟味、急度可相守、此旨三郷町中可触知者也

元禄十二年卯六月十八日　甲斐

玄蕃

一、本願寺門徒之外、借屋ニ出家住宅、旦那を集候儀、此已後ゟ停止之事

一、只今迄町中ニ有之道心者、男女共其侭可指置、但其道心者不届於有之は、宿主勿論、年寄五人組曲事候間、常々心を付、不審成義有之は、其町中ゟ様子聞届可申来候

一、此度穿鑿以後、他所ゟ道心者於来ハ、能々遂吟味、誠之道心者ニ於無紛ハ宿をかすべし、不念之義有之は、其丁中可為曲事

右此旨可相守者也

明暦三酉八月廿七日　隼人

丹波

寺社家へ町人・百姓ゟ金銀出入、向後は奉行所ニ而不取捌候事
享保五子年十二月十五日
安房守様・飛騨守様被仰渡候

一、牢人被罷抱置候儀、無用之由、此已後ゟ寺ニ附相触、伯父・甥・兄弟・不遁浪人ハ此方へ断被申、帳面ニ付、当座抱置可被申候、無由断被抱置候者等相知ハ可為住持越度候条、可罷相断者也
承応元十一月十二日

一、武士出家之族人ハ、宿手形差上候出家ハ廿日切、又逗留仕候得ハ其上申上候而、又廿日切也

覚

一、借在家ニ構仏壇不可求利用事
一、座鋪談儀辻談儀之事
一、於町中ニ、往来之清僧逗留之儀は、日数廿日を可限事
但、廿日過候ハヽ、奉行所へ可断来候事

右前々ゟ停止候、然ル所元禄九年、知恩院派当地役者之僧申出候は、隠遁之長老、或は往来之所化、或は同心者、借宅近辺在々ゟ在家へ致徘徊、不撰男女老若を、五重血脈円頓布薩之大戒等を猥ニ致、相伝候者有之由書上候ニ付、其節相触候所、此度俗之身分として五重相伝并秘事法門相弘メ候者有之候ニ付、御仕置申付候、然ル所知恩院派・知恩寺派・光明寺派・西山派、当地役者之僧、右吟味

中申出候ハ、於在家ニ五重相伝円頓布薩之大戒迄猥ニ相伝之者無之様ニ致度旨申出候、向後左様之輩於有之は、急度可令沙汰候、右ヶ条之趣、不可限浄土一宗ニ、此旨町中可触知者也

宝暦弐年申七月廿四日

覚

借在家、構仏檀不可求利用之旨、従江戸諸家へ被仰出候間、町中存此旨、清僧を置へからす、有来妻帯道場之外、縦令仏檀無之共、町家ニ出家住宅致し、聴衆を集、法を説候儀、此以前ゟ停止之間、令違背は町中可為曲事

附り、往来之出家当座之宿、日数廿日過へからす事

一、学文ニ志、一寺をも望候僧侶は勿論、住寺・隠居・同宿・同心者ニ而も、一旦寺中ニ罷有候僧は町家住成間敷候、還俗之者は格別之事

一、当地住宅之町人、渡世依難成ニ髪を剃、鉢をひらき、或ハ隠居之者、或ハ親類ニわかれ、哀傷之余り落髪致し、戒律をたもち法衣へ着候共、前後寺中ニ居不申者は、町中ニ住宅不苦候、人を集、法談ヶ間敷儀は仕間敷事

一、他所ゟ鉢ひらき坊主来ニおいてハ、能々遂吟味、宿をかすへし、不念之儀有之は、其丁中可為曲事

一、西東本願寺・高田専修寺・仏光寺・大念仏寺、右五ヶ所之末寺并宮社、町中ニ有来候、向後町家を寺社屋敷ニ売候ハヽ、番所へ相断可申候、無断売間敷事

右之通、寛文六午年相触候所、近年諸国ゟ借宅住居之坊主入込、法儀も猥ニ成、其上当地住居之寺々、同事ニ旦家へ立入、旦那寺ゟ可相勤法事等、借宅坊主共相勤候、右之通相成候而は、末々ニ至

旦家へ如何体之儀可相勧哉、難計存候ニ付、向後右体之坊主へ宗旨手形差出候儀相止、借宅住居之坊主、旦家へ不立入様ニ致度旨、此度西本願寺末寺惣代之僧願出候ニ付、宗旨手形差出候儀相止候段、聞届候、右触書之趣、年を経候事故、心得違候と相聞え候間、弥先年相触候通、急度可相守候、此後令違背は、其町中可為曲事事

右之通、三郷町中可触知者也

宝暦三酉年九月

一、宝暦九卯九月、諸国神社御改

切支丹

指上申一札

一、従此以前度々被仰付候吉利支丹宗旨御改之儀、毎年町中五人組・借屋・半季居之下人下女迄致吟味、少も油断不仕候事

一、吉利支丹宗旨之者ニ宿を借候者、宿主縦宗門ニ而無御座候共死罪、両隣は欠所ニ可被仰付候、借屋之者宿、仕候ハ、借屋之五人組も可為曲事之間、常々堅御触之上は、油断ニ奉存間敷事

一、他所ゟ参り、家買候者、并借屋借りニ参り候もの、町中ゟ宗旨相改、寺請を立させ置可申事

十二

右之通、先年も御改御座候而、寺請状指上申候、町中弥念を入相改、寺手形宿請慥ニ取置、寺へ切々参り候ものニても、其者之身持作法、少成共不審成儀於有之は、早々可申上候、きりしたん宗門之者、町内ニ有之儀は、年寄五人組可存之所、御高札ニ書載御座候旨趣、違背仕間敷候、以来脇々相知申候ハヽ、御穿鑿之上、町之年寄五人組共ニ、科之軽重ニ随ひ罪科ニ可被仰付之旨、奉得其意候、為後日連判差上申候、仍如件

寛文十五（ママ）年巳二月廿五日

一、魚屋弥三右衛門、吉利支丹宗門之由訴人有之間、御公儀様へ罷出、宗門ニ而無御座通申分仕候へハ、御聞届被成相済申候、其刻町中へ御預ケ置被成候、其後長堀十丁目ニ而相果申候、右弥三右衛門子五人御座候、兄弥兵衛・同娘むく、長堀十丁目宍喰屋宮之助借やニ居申候、弟喜兵衛、寛文四年辰ノ十月ニ病死仕候、弟嘉平次、道頓堀芝居九左衛門内五郎左衛門養子ニ成居申候、妹くに、阿波国さいきや久右衛門と申所ニ奉公仕居申候、此外壱人も無御座候、以上

右此度宗旨御改被成候ニ付而、私捌之分、随分念ヲ入面々判形致させ指上申候、先年きりしたんころひ候ものも町内ニ壱人も無御座候、若下々ニ至迄壱人成共隠置候を以来被聞召上候ハヽ、何様ニも曲事ニ可被仰付候、為後日仍如件

巳二月廿五日　勘四郎町年寄

いつミや　善兵衛

御奉行様

一、転切支丹之類族、他国ニ有之其親類縁者、当町ニ居候而も奉行所へ不知事可有之候間、他国ニ

類族之親類縁者持候者ハ早々可申出候、若隠置後日ニ脇ゟ於相知は、其身ハ不及申、家主・五人組・年寄、可為越度候、此旨三郷町中可触知者也

貞享五年辰六月十日　喜兵

一、切支丹宗門之儀、如例毎年、借屋之者并召仕者等可相改之、自然他所ゟ彼宗門之者来ハ早速申出、若隠置、訴人於出は、家主死罪、或牢舎可為事

慶安元子年四月五日　孫太夫

丹波

十三

山伏仕置

条々

一、請人無之者ニ宿を不借故、徒者山伏ニ成、盗致由、此間雖有風聞、無証拠付而仕置令延引之処、此度本山之山伏致、盗捕来候間、牢舎申付、并宿を借、盗物を預候当山ノ山伏、是も同罪申付候事

一、従山伏仲間、於当地師匠無之、従他所来候山伏は袈裟筋を相改、不審成者於有之は召連可参事

一、山伏仲間弟子を取候儀、慥成請人を取、其上師弟致契約、従先年如申渡、五人組を定置、吟味

仕、弟子に徒者於有之は、仲間ゟ頭分へ相断候様ニ仕置可申付候事
右山伏之仕置、従本寺可有儀候間、雖不及申付、当町盗人為仕置申出也、向後山伏ニ科人於有之は、本寺へ相断、本人ハ不及申、師匠同罪申付、五人組并其派之頭分之山伏、大坂可追払之間、可致其覚悟者也
慶安弐三月十八日

十四

朝鮮人之事
一、朝鮮人着岸之前ゟ逗留之内、町中自身番可仕事
一、同着岸日ゟ発足日迄、南御堂・北ハ備後町・南ハ順慶町筋・東ハ堺筋限、町々ニおゐて家並ニあんとん出し可申事
附、諸勧進乞食置申間敷事
一、自然火事出来候ハヽ、遂僉儀、品ニより家持は屋敷召上ケ候か籠舎可申付候、店借之者ハ大坂を払か籠舎可申付事
一、朝鮮人献上之御鷹・御馬、宗対馬守殿屋敷へ先達而可参候間、爰元ニ有之内、彼屋敷之近辺自身番仕、家並ニあんとん出シ可申事
一、御堂并宗対馬守殿屋敷之近所、火事出来候ハヽ、兼而定置候方角火消人足、早速可罷出候、令遅滞(ママ)可為曲事事

一、三郷町中火事場へ持出候手桶之儀、籠を渋はりニ致し可持出候、然ハ急ニはなり申間敷、早く
拵置可申候、惣而火消道具損候分、拵置可申事
一、朝鮮人逗留之内、町人子共召仕下々、夜ニ入むさと出シ申間敷事
右之通可相触者也
天和弐壬戌年七月七日

一、朝鮮人来朝之砌、元船町中ゟ見物ニ参、先年も不作法有之様ニ御聞被成候、此度も見物ニ参候
共、近所へ寄不申、不作法ニ無之様ニ致し、遠方ゟ見物不苦候由、被仰付候事
附り、船通り之筋之丁々、別而念を入、見物人不作法無之様ニ可申付候、相違有之候ハ、近
所之丁へ御掛り可被成旨、被仰出候事
但、朝鮮人着岸之日、川筋ニて見物ニ出候義は、前廉と御法度ニ被仰出候間、其通可被相心
得候以上
戌七月廿三日

覚

一、道橋修覆之儀、近年之内ニ兎角作り直候ハて不叶程之所を、此節仕直し可申候、左程ニ無之、
就朝鮮人来朝ニ見かけニ繕可申と存候程之儀は、可為無用事
一、道筋并家々、格別見苦敷所ハ取繕せ可申候、ヶ様之当分繕は、当日二三日前ニ出来候様ニ申付
可然事
一、掃除は一日前ニ可致候、前広ニは堅無用可為事

一、泊々宿ニ而も家並挑灯出候儀、是又随分可為減少事
　但、朝鮮人之宿所は格別之事
一、川々其外切所并橋抔へ挑灯とほさせ候儀、随分可為減少事
一、家々手桶出置候儀、可為無用候、番所或は朝鮮人之宿所抔、為用意と少々差置可申事
　但、宿中朝鮮人通り候節、水打候儀は、有合之手桶を用ひ、仕廻ハ家々内へ取入置可申事
一、盛砂ハ三使旅宿之外、一切可為無用事
一、宿中足軽中間固等ニ指出候儀、并掃除之ため掃人足集置候儀、用事足り候程を考可申候、其外見合之ため、無益之人数指出候儀、堅無用之事

以上

九月

右之通、今度従江戸被仰出候間、三郷町中可触知者也

延享四卯十二月　周防
　　筑後

覚

一、川筋堀々、川形ニ船を繋、通船之構ニ不成様ニ可仕事
一、渡守船繋候杭、川中迄打出不申、通船之妨ニ不成様ニ可仕事
一、材木屋竹屋共、川中へ材木竹積出シ、并筏等日数を重差置、船往来之妨不成様ニ可仕事
一、楫木材木、川中へ埋置、川浅く成候様ニ仕間敷事
一、筏を長ク仕、無人数ニ而指廻り、船往来之妨ケ不成様ニ可仕事

一、川中又ハ附渕之上ニ屋根をふき、帆柱船板等差置申間敷事
一、町々ゟちりあくたを持出、川中は勿論、川端へ捨候儀、堅仕間敷事
一、橋杭ハ勿論、舟繋候杭、并縄ニ掛り候ちり、其町々又ハ舟乗りは取払可申事
一、浜側町境、其外納屋境ニ、岩岐水際迄結切之、垣并水汲場、猥ニ板を渡シ、又ハ筑出しなたれ形ニ作物仕間敷事
一、浜側之納屋下ニ非人小屋を掛ケ、火を焼候様之所も相見得候、早々取払、非人なと差置間敷事
右之通、前々ゟ度々相触候所、猥ニ相聞え候、不埒之事ニ候、無油断相改、尤川々堀々不埋様ニ仕、水行障り無之様ニ可仕候、若不沙汰ニ致置候所有之候ハヽ、吟味之上、急度可申付候、此旨三郷町中可相触候者也

延享四卯年十二月　周防
筑後

延享五辰七月ニ改元有之
寛延元辰年来朝

覚

一、朝鮮人着岸より発足迄、町中火之元、別而念入可申事
一、同逗留中、自然火事出来候ハヽ、遂僉儀、早々ゟ家持ハ屋敷取上候歟牢舎可申付候、店かり之者ハ大坂払候歟牢舎可申付事
一、同逗留中、津村御堂并宗対馬守蔵屋敷近所、万一火事出来候得ハ、常々定置候方格火消人足、

早速可罷出候遅、滞候ハゝ可為曲事

附り、町中持出候火消道具、弥手支無之様ニ用意仕置可申事

一、同着之日ゟ津村御堂之近所町々、宗対馬守蔵屋敷近所町々ニ、諸勧化之者并乞食、置申間敷事

一、同逗留中、町中子供并召仕之者下々、夜ニ入むさと出申間敷事

一、同通り候道筋、至其節念入掃除可仕事

附り、通道之町々、年寄・月行事、并家主共、羽織袴着し罷出、見物人不作法無之様仕、家主は其家々前ニ罷有、見物人戸口へ一切出し申間敷事

一、堺筋ハ道幅せはく候間、下部取、溝ニふた板致し可申事

附り、大道へ出張候看板釣木、何ニ而も構候もの取払可申事

一、朝鮮人着岸之日、北浜鳩場より御堂迄注進有之時、無油断町送り可達候事

一、同往来之節、備後町弐丁目・三丁目ニ有之魚之店、日覆取払可申事

一、同往来之節、明キ借家有之は、見物人ニ而も指置、并裏借屋へ通り候路次見付等、見苦敷無之様可仕事

一、同着岸之刻、舟ニ而見物仕間敷事

一、朝鮮人元船、尻無川ニ繋有之内、近辺へ往来之者立止り見物致候ハゝ、所之者右之趣申聞、立去せ可申候、猶又組与力・同心差出、相背者有之、為召捕可申事

一、同船ニ而往来之節、木津川口ゟ備前嶋迄両側之見物人、通筋相触候通作法能可仕事

右之通可触知者也

延享五辰正月十一日　周防

筑後

一、三十年以前被仰渡候通、町方男女之童、髪を少シ残シ有之義ハ致間敷候所、近年右体之髪残シ有之童有之由相聞及候て、当年ハ朝鮮人も来朝候間、右体之紛敷義仕間敷候段、町々年寄へ申達シ、丁内末々ニ至迄、右程之髪をとらせ可申候由、被仰渡候

辰二月

覚

一、此度朝鮮人来朝ニ付、逗留中私共組合町々之分、津村御堂荷物退人足之義、被仰付奉承知候、然ル上是迄御定之場所ニ不相構、津村御堂近辺出火之砌、早速駆付候様ニ組合町々へ可申達候、尤人足提札六百枚御渡シ被成請取候、為其年番年寄判形仍如件

辰二月廿四日

年番町々年寄　印
南久宝寺町五丁目年寄
吉野や長左衛門

東ハ東横堀　西ハ阿波座太郎助橋
北ハ大川限り　南ハ長堀をり
右限之内出火之節、手当人足早速駆付可申候
右之方格出火之節ハ、御堂近辺火事之節ハ、早速升屋町会所ニ此方共居申候間、相断可申候

辰三月

住吉屋藤左衛門
安井九兵衛

当地逗留之内四月

一、備後町角之所、御堂之役所下官部屋より出火之由、はやう称なク候故、退キ人足町々駆付申候事、しかし中官之者焔硝を取扱ひ火出、けむり余多出申候、中官之者壱人ハ即死致候、殊之外成ルそうとうニ候

然共右部屋之屋根を少々まくり、水入申候て、火ハ早速ニしすまり候

右駆付人足ハ升屋町会所之前ニ指扣へ、御堂之内火事場へは掛リ不申、見合せ罷有候内しすまり申候

一、朝鮮人着岸之砌相詰候

野口助左衛門　石原弥左衛門

料理人　高鳥居安右衛門　熊田兵助

福田太兵衛　此弟子不残出ル

包丁始は二月廿七日、御堂対面堂ニて

一、朝鮮人ヨリ御献上御鷹、当地着致候日之内ニは船着之由ニ候得共、くれ六つ時より初夜迄之間ニ、亀井橋上手より江之子嶋浜へ上り、夫ゟ江戸堀浜側東へ、すじかひはし筋を御堂筋へ、夫ゟ南へ御堂へ入、辻々固ニ御役人衆御出、人足余多御召連、火消御役人衆町方御廻り、南ハ順慶町筋限り

右鷹、辰三月廿六日之夜御堂入

一、来朝御用、摂河村々より出シ申人馬之入札之事、触状出ル
　是ハ馬并船之縄引人足之由ニ御座候、大分出申由
一、大坂町中ハ、逗留中昼夜丁人自身番被仰付候事

一、辰四月廿一日夜、朝鮮人　至着
一、〃同五月朔日御堂を出、備後町を堺迄北浜へ、船ニ而伏見へ
　帰国　帰国ニ付又自身番を致
一、辰六月十三日、江戸表発足之趣被仰渡候
一、〃六月廿九日、大坂着
一、〃七月五日ニ大坂ゟ乗船
一、〃七月六日ニ大坂町中自身番御差免有之候

朝鮮人来朝一件右之通廻状ハ夥敷事相廻ル
　延享五辰六月六日

十五

浪人之事

一、浪人之事、度々如相触、惣年寄之内を請人ニ立、奉行所へ之手形を取、可宿借、手形なく宿借候者於有之ハ、急度牢舎可申付事

附、永代町人ニ可成浪人ハ、如例、重而奉公仕間敷旨、慥成請人を立、手形差上其上、住宅可致事

慶安元四月五日　孫太夫

丹波

但惣年寄連判之書上

差上申手形之事

一、牢人北・南・天満之内ニ罷有候は、見付聞付次第可申上事

一、年寄之内、存候牢人、表向不存体ニ仕、才覚を以差置申候ハヽ、曲事ニ可被仰付事

一、縦親類縁者、又ハ如何様之近付ニ而も、御断不申上、牢人一切許容仕間敷事

右之通、令違背、御改之刻相知申候は、如何様ニも曲事ニ可被仰付候、御恨ニ存間敷候、為後日仍如件

慶安五壬辰年八月廿三日

伊丹や道寿

川崎屋次左衛門

天野屋利兵衛

米屋弥市右衛門
大塚屋節斎
木屋七兵衛
高屋平右衛門
津村道伝
豆葉屋四郎左衛門
小西弥右衛門

御奉行様

但惣代連判之書上

指上申手形之事

一、牢人南・北・天満之内罷有候ハヽ、見付聞付次第、急度可申上事
一、医師其外何者ニ而も不審成者御座候ハヽ、無遠慮早速可申上事
一、年寄被存候牢人、并私共存候者、表向は不存体ニ仕、才覚を以差置候ハヽ、如何様ニも曲事ニ
可被仰付候
慶安壬辰八月廿三日

惣代　藤兵衛
三右衛門
源右衛門
四郎兵衛

弥三兵衛
仁右衛門

武士宿手形之事

一、町中ニおいて武士并浪人ニ宿借候掟之儀、先年ゟ度々相触候所、猥ニ成、浪人体之者又ハ町人ニ而帯刀徘徊致者有之様ニ相聞、不届之事ニ候、前々ゟ相触候通可相守候、若違背之族有之は、其家主・年寄・丁人迄、急度咎可申事

一、御坪方并地役人等、家来町宅借り候儀は、其主人ゟ番所へ断有之事ニ候間、町奉行家来たりとも、店かり度と申者有之は断済候哉、之(ママ)訳相糺候上ニ而慥成請人取之、其趣書加へ、番所へ宿手形可指出事

一、武家寺社家帯刀之家来、町方旅宿致候節ハ、是迄之通、蔵屋敷留主居役人・用聞町人之内、請負人証文取之宿借シ、其訳宿手形可指出事

但、是迄用聞蔵元之町人方ニ、其家中之侍旅宿之分、請合無之候而も宿致させ候得共、向後ハ請合取之、其訳書加へ、宿手形可指出事

一、留主居役人・用聞町人無之者、其主人ゟ奉行所へ届之書状、不来ニおゐてハ、向後聞届す候間、其訳相尋候上、慥成請人証文取之、右之趣書加へ、宿手形可指出事

但、主人ゟ書状不来は、其家来町奉行所へ断出、指図を請候様ニ相達シ、其上ニて此方ゟ申付次第宿かし可申事

一、帯刀之者、旅籠屋ニ可宿之儀は是迄之通相心得、不念無之様可致事

右之通弥堅可相守候、若違背之族於有之は、後日ニ相聞候共、家主・年寄・町人迄急度可令沙汰候、

此段三郷町中可触知者也

元文三午年九月　美濃
淡路

往還
人馬之事

定

一、御伝馬并駄賃荷物、一駄四十貫目事
一、従大坂枚方迄之駄賃銭一駄百五十文、無荷物ハ七十弐文、堺へ六十文、無荷物ハ三十文、帰り馬駄賃同前之事
一、附り、人足賃ハ可為馬之半分
一、人馬之御朱印、持参之者於有之ハ、致拝見、町奉行へ相断可出之事
一、宿賃道中、如御定可取之、并人馬之賃増銭を取者有之ハ、三十日可為籠舎、次伝馬之衆中、為過銭、家壱軒ゟ百五文ツヽ可出之事
一、往還之輩、高札之面を相背、理不尽之儀不可申掛、又対往還之者ニ其所ゟ非分於申ニは、可為曲事事

慶安弐八月朔日出ル
寛永十弐年十月十日　又左衛門
因幡

条々

一、往還之輩、次馬次人足、近年甚多ニ付、宿々令困窮之間、縦雖為　国持大名家中共、一日ニ次馬五十疋、次人足五十人ニ不可過、此外人足出入者、其日之外跡先順々ニ可遣之事
一、人馬共ニ伝馬次ニ而如法可次之有、若追通輩は、御穿鑿之上、人足不過之町之年寄可行曲事事
一、乗物一挺ニ次人足六人、山乗物ハ四人ニ而、御定之人足賃を取可相送事
一、長鑓壱棹三十貫目を限へし、夫ゟ重荷物ハ持はこふへからす、人足壱人五貫目之荷物積りニて、三十貫目ハ六人、夫ゟかろき荷物ハ限貫目ニ人足可減少、此外何之荷物も可准之事
一、乗掛之荷物、五貫目迄ハ無荷ニ、乗駄賃可為同前、夫ゟ重キ荷物ハ本駄賃可取之事
右之条々可相守之、若違背之族於有之ハ、縦後雖相聞、糺咎之軽重、或死罪籠舎可為過料者也、仍而下知如件、
万治三十月廿二日

一、公儀橋并橋台之上へ商見世を出し、又ハ往来商人、立帰り荷物をおろし置、何ニよらす橋之上ニ而売買致し候儀、堅仕間敷候旨、前以申渡候得共、不相止不届之至ニ候、向後右之族無之様ニ三郷町中可触知者也
元文三午六月五日

定

一、御用ニ付道中往来之面々、御朱印人馬之外、添人馬多く相立候由相聞え候、前々ニも申達候通、無用之添人馬出させ候儀、堅可為停止候、御朱印員数之外ニ入へき人馬之分ハ、御定之賃銭無相違相払せ可被申事、

一、御用ニ付て往来之面々、或在番、或ハ諸大名、惣テ道中往還之輩、人馬之役人可有之事ニ候間、御朱印人馬并賃人馬可入程相立させ、賃人馬之儀ハ賃銭無相違払候様ニ、人馬割役之問屋場ニて相残、委細遂吟味候様ニ被申付、其外之家来又ハ雇之者共、私ニ人馬駕籠出し候様ニ申掛ケ候共、役人之断無之候ハヽ、一切差出間敷候由、宿々問屋場ニて相断候様、可被申付候、道中之者共へも右之趣可相心得旨申渡候事、

一、往来之面々、其家来并末々雇之者・人足、近年主人之権威を以、道中ニて非分仕形有之、或ハ下々可持道具をも、人足其者ハ馬駕籠乗、或賃銭を不払者共も有之由相聞候、向後ハ右の類之者、不届無之様ニ、雇人足ハ不及申、其請負之者迄急度申付可召連候、自今已後、不法之族も有之ハ、道中宿々ニ而改之、家来并雇之者たりとも、其所ニ留置、早速道中奉行へ相訴候様ニ申渡候間、其旨を可被存事

一、往来之面々、家来并雇之者へ至迄、駄賃旅籠銭等、無相違払候様ニ急度可被申付候、於旅籠屋銭等不相応ニ減し候て相渡、或ハ無相違請取候由、証文仕らせ不相払輩も有之由相聞候、向後右之通之儀於有之者ハ、是又早速道中奉行へ申訴之由、宿々へ申渡候間可有其心得候事

一、諸荷物貫目之儀、御定之通無相違様可被申付候、今度荷物貫目、相改候場所定り、御定より重キ荷物於有之ニハ、御用之荷物之由申とも、継送るへからず旨申付、其外宿々へ申渡候間、其心

得可有之候、且又在番之面々、京・大坂・駿河三度飛脚荷物、近年ハ貫目重くかさ高成荷物有之、夜通しも往来之由相聞候、飛脚請負人之者、其外商売人之荷物ましゑさる様ニ堅被申付へく候、在番之面々、自分之荷物も御定之通を以、貫目重く荷物差出間敷候、古来より、夜通し之飛脚ハ猥ニ相通さる定ニ候間、向後無拠子細ニて夜通之飛脚出し候ハヽ、番頭其旨を達し、番頭之証文を以指出へく候、飛脚請負之者共ニも、其趣急度可被申付候、道中ニ而も其心得を以改之、若貫目重キ荷物有之歟、又ハ証文無之夜通し候ハヽ、押置早速道中奉行所へ可訴之候、僉儀之上、飛脚宰領之者ハ不及申、右請負人迄可為曲事旨申渡候間、可有其心得候事

一、江戸・京・大坂之外、国々ゟ町人請負ニ而令往来候御用之諸荷物、近年貫目も重く荷物も多、道中人馬大分相立、其上御用之儀申立、人馬賃銭不足ニ相払、其外不埒之仕形共有之由相聞え候、勿論御定之外、不埒貫目重く不仕、其荷物貫目ニしたかひ、相立候人足之賃銀無相違払之、少ニ而も非分之義仕間敷候旨、御用之面々ゟ念入可被申付候、向後右之類之義無之様可被申付候、道中ニ而も改之、若貫目重く候歟、又ハ猥ニ荷物多、不審之儀も候ハヽ、たとひ御用之荷物之由申とも継送へからず、其所ニ留置、道中奉行へ可訴之、僉儀之上、荷物宰領人ハ不及申、請負人迄可為曲事、

一、道中宿々之者、不埒之儀有之歟、旅人ゟ其所之問屋年寄等、二日路三日路も召呼、又ハ訴訟之ため付添参り候儀有之由相聞え候、たとひ宿々之者、不届之仕形有之共、問屋年寄召呼候而ハ其宿人少ニ成、御用も指支申事ニ候間、向後問屋年寄等召呼候儀ハ不及申、訴訟乃ため付添参り候儀も相止させ、其趣は道中奉行へ被申達、奉行所ゟ僉儀之上、急度可申付候、其心得可有之事

右之条々、近年道中之宿々、御定之外人馬多く掛り、旅人不法之事共有之、宿々ハ不及申ニ、助郷村々迄も及困窮候故、相訴候ニ付、委細穿鑿之上を以被仰出候、向後紙面之趣急度可相守候、たと

ひ組中支配并家来之不法有之共、番頭役所主人之越度ニ可罷成候間、其旨を可被相心得者也
右之通、正徳二辰年相触候所、近年猥ニ相成候様ニ相聞取候、自今右之趣猶又急度相守候様ニ可仕候、若此已後相背者於有之ハ、吟味之上咎可申付事

延享子四年卯三月

右之通、従江戸被仰下候条、三郷町中可相触者也

三月廿七日　　周防
　　筑後

覚

一、道中往還之面々、雇之人足共、惣而近年不埒之仕形多、就中御用ニ而往来又ハ在番之面々ゟ雇之節ハ、主人之権威を以、弥不埒致し、或ハ猥ニ手替り人馬を取、其人之方ゟ銭を出させ候て差ゆるし、或ハ自分ニ持候道具等人足ニ持せ、其身は馬駕籠ニ乗、賃銭を相払す、又ハ宿之者ニ対シ、非分を申儀共申掛ケ、若宿之者申旨有之候得ハ、種々之あたをなし候由、委細相聞え不届之至り候、向後江戸・京・大阪にて雇人足請負候度ニ、人足共へ急度申付、右之通之不埒仕らす、無拠子細有之手替り之人足取之、又ハ馬駕籠等ニ乗候者、御定之賃銭無相違払之、旅籠銭等もこれニ同じ、少も非分之義仕間敷候、道中宿々へも若不届之族於有之は、誰之雇之者たりとも、其所之押置、道中奉行へ早速可訴之候旨、申渡候間、僉儀之上当人ハ不及申、請負迄可為曲事事

一、京・大坂・駿府三度飛脚、近年貫目重く荷物等有之、其上猥ニ夜中も相通し、不埒之儀共有之由ニ而、向後在番荷物之外、商人等之荷物、堅ましへさる様ニ仕、無拠子細有之、夜通し之飛脚差出候ハゝ、番頭之証文を以可通由相定候、此旨所々飛脚請負人ニ申渡、昼夜共人馬賃銭等定之

通無相違相払候様、可有之候、道中宿々ニ而も改之、若貫目重キ荷物有之歟、又ハ証文無之夜通し之飛脚相廻り候ハヽ、其所ニ留置早速道中奉行へ可訴之旨申渡候間、僉儀之上飛脚宰領人は不及申、請負人迄可為曲事事

一、江戸・京・大坂町人、請負ニ而往来候御用之諸荷物、近年貫目も重く荷物も多、道中人馬大分相立、其上御用之儀申立候て、人馬賃銭不足ニ相払、其外不埒之仕形とも有之由相聞え、向後御定之外貫目重く不仕、尤荷数貫目ニしたかひ、相定人足賃銭無相違払之、少も非分之儀仕間敷候旨、御用達之面々ゟ念入被申付候、相改重く候歟、又ハ猥ニ荷物多不審之義も候ハヽ、たとひ御用之荷物たりとも継送らす、其所ニ留置、早速道中奉行へ可訴出之旨申渡候間、僉儀之上、是又荷物宰領は不及申、請負人迄可為曲事

右之条々、其所之奉行所并支配ニ与り請負人ともへ、急度可被申付者也、

右之通、正徳二辰年相触候所、近年猥ニ成候様に相聞え候、自今右之趣猶又急度相守候様ニ可仕候、若此已後相背者於有之ハ、吟味之上咎可申付事、

延享子四卯三月

右之通、従江戸被仰下候間、三郷町中可相触者也、

卯三月廿七日　周防

筑後

覚

一、旅人之内定を破り、無法有之蝕出之趣を以相改、若不相用候ハヽ、其所之領主之役人へ達し、役人其段旅人へ申聞、其上ニ而異議におよひ候ハヽ指留置、江戸表へ訴候様ニ可仕事

一、御代官所之義も右之趣ニ准し、取斗可申付事
一、町人へ会符をかし渡、武家之荷物ニ致させ候儀有之由相聞候、向後堅無用たるへき事
一、近年宿々悪党之者有之、飛脚之者共へ賃銭ねたり取、旅人之泊々へ相越シ、酒手等ねたり取候由、自今右体之者於有之は、其所之押置、御科ハ御代官、私領ハ領主地頭、早々可申出事
一、人馬賃銭之義、御朱印并御用之外可相払事ニ候条、宿々日〆帳ニ委細記置、宿中ハ勿論助郷村々へも勘定相立候様ニ問屋共常々可相心得事
一、泊体之儀、前広ニ日限相極候ハヽ勿論、指掛り約束致候分、縦軽キ旅人たりとも異変之無様ニ、本陣旅籠屋急度相心得可申事
一、此度相触候上、宿々之者共、旅人へ対し非儀を申掛ケ、賃入用多取候歟、又ハ旅人を滞せ候儀有之候ハヽ、急度可申付事

延享子四卯三月

右之通、従江戸被仰下候間、三郷町中可相触者也

卯三月二十七日　周防
筑後

馬方御仕置之事

一、駄賃銭如御定銭ニ而可取、銀子ニ而相渡者雖有之、壱歩壱貫之算用ニ可取之、増銭取候ハヽ、

御制札之通可申付事

一、堺・枚方迄駄賃馬ニ乗候者、宿可送届中途ニ而落次間敷候、替馬ハ馬方を可見知置候、如此申付上ハ、徒者ニ馬を借し、穿鑿之時先々於不知ニハ、曲事可申付事

一、手負其外不審成者、馬借候ハヽ、不嫌昼夜を早々可申来、増銭多取、馬を於借は、可為曲事事

一、御伝馬不嫌昼夜を可相立事

附、背御法度、駄賃銭たかはり、剰他之馬を妨ケ候由、可為曲事、

右堅可相守、此旨寛永弐年丑十一月、馬方共書上候手形之通、於相背ニハ、馬方ハ不及申、親方可為曲事事

寛永四亥四月四日

馬方中仕とも、荷物持はこひ之儀ニ付、去子六月及争論、荷主ゟ令出訴候ニ付、此度双方呼出、荷物持はこひ之儀は、遠近無差別、荷主之心次第たるへく由、令裁許、向後馬方仲仕、争論及荷主ニ難儀致させ候ハヽ、可咎旨申渡候条、三郷荷主へ寄々知らせ可置者也

延享二丑年四月

宝暦七丑年三月、馬持ハ御役相勤候は、仲仕ハ無役ニて、馬ニ荷物附ケ、障りニ成候物ハ、荷主勝手次第之事、其外箇物之類、可成たけハ馬ニ付、水揚浜出候、相隔り候所は勿論馬ニ付させ候様、被仰渡、

御伝馬年寄　相生町　塩屋助右衛門

馬持頭　釣鐘町　塩屋市郎右衛門
御伝馬惣数　四百十弐疋
御伝馬会所　備前嶋町
馬持住所　北久宝寺町四丁目
博労町
八軒屋
長町
相生町
野田
天満

貸シ乗馬
池田町　治部左衛門

朱座之事

一、朱之儀、朱座之外焼候儀并商売堅停止之所、近キ頃外ニ而も朱を焼、異名を付、似せ商売致候者有之、吟味之上御仕置申付候、弥前々相触候通相心得、朱座之外ニ而朱を焼、又ハ商ひ堅仕間

敷候、右之類有之は、吟味之上急度可令沙汰候

一、朱焼釜ハ常程之釜とは違、中蓋有之、上をせんニ而留、外之儀ニは決而用不申候由、右釜を薬釜と名付ケ売渡シ候処、似せ朱焼候者も有之旨、朱座訴出候、向後右之釜誂候ハヽ、売渡釜屋共番所へ訴出可申候、右之通三郷町中借屋末々并召仕之者共迄、令承知候様可触知者也

享保十七子年四月　日向

淡路

前々ゟ朱墨之儀、朱座ゟ朱同様ニ売出シ来り候所、近年脇々ニ而紛敷朱墨拵売出シ候之由相聞、不届ニ候、朱墨商売致候者は、前々之ことく朱座ニ而買請商売可仕候、自今紛敷朱墨拵候者於有之は、急度可申付候

右之通可被相触候、已上

寅四月

右之趣、従今度江戸被仰下候間、三郷町中可触知者也

享保十九年寅四月十二日　日向

淡路

朱座　本町壱丁目　朱座三郎兵衛

宝暦十辰正月、再御触

金銀銭札遣イ

金銀銭札遣有之所々、先年札遣相止候得共、向後は前々札遣仕来り候所々、勝手次第可仕候、
但、札遣致候ハヽ、御勘定奉行へ可被達候
右之趣可被相触候、以上
戌六月

右之通、従今度江戸被仰下候間、三郷町中可触知者也
亨保十五年戌六月十五日　淡路
日向

金銀吹替之事

年号改元
元文之由
亨保廿一辰五月十四日ニ被仰渡

一、吹替古金百両之代り、文字金百両
一、古銀拾貫目之代り、文字銀拾貫文
右之通ニ預ケ銀金商売物代等、無差別通用可致段被仰付候
一、座ゟ引替之事ハ、

古金百両之吹替ハ、文字金百六十五両ニ増
古銀拾貫目ハ、文字銀拾五貫目ニ増
右は金座銀座ゟ、吹替相増相渡り候趣被仰渡候
右座ゟハ増出候得共、
諸武家方或ハ為御替金銀を始、万端取引ハ前書ニ有之通、古金銀文字銀金共、百両之代り百両、拾貫目之代りハ拾貫文、古新無差別取引被仰付候事
元文元年辰七月　日向守様　御代
淡路守様

銀座会所
内両替町留主居　中富与治兵衛

御上納銀掛ケ改包所
鈴木町
大黒常是出店　手代　菅藤助

銀道具
国々ゟ出候、灰吹銀しほり出候銀并銀道具・潰銀等、前々ゟ銀座へ持来買入候所、近年世上ニ猥ニ売買致、質物ニ入、買込置候儀も有之由相聞え候、向後無滞銀座へ売渡可申候、銀座よりも改申出候様ニ申渡候間、隠置而相知候ハヽ、急度可申付候

右之通、従江戸被仰下候間、三郷町中可触知者也
元文弐年巳九月二日　淡路

吹抜鞴を立、灰吹潰銀類を南鐐ニ吹抜、売買致者有之様相聞候、吹抜鞴立候義ハ、前々ゟ停止之事ニ候、若相背者有之は、急度可令沙汰候、細工之吹抜銀入用之節は、灰吹屋内両替町長屋十郎右衛門方ニて吹抜せ可申候
但、細工向小鞴立候儀ハ格別ニ候

一、潰銀類買取候者、紛敷義無之ため、向後銀座下執替之者ゟ名札相渡買取候、潰銀類銀座へ売渡候様ニ申付候、外ニ而右之類之者有之ハ、執替候者道頓堀新難波町富屋九郎左衛門、釜屋町川崎や万四郎、高麗橋壱丁目富田屋庄左衛門方へ罷越、改を請、名札請取、買集潰銀類銀座へ売渡、外売一切致間敷事

一、細工向ニつかい候南鐐も、向後銀座ニ而買請可申候、銀座へ買請候元直段ニ而銀座ゟ売渡筈候

右之通三郷町中可触知候、以上
元文弐巳十一月

国々ゟ諸物登り候節、灰吹銀・諸潰銀・焼銀・潰銀道具持来、引請候ハヽ、多少ニ不依、銀座へ売渡外売致間敷候、并銀座下役執替等之者、相廻り様子可承候間、無滞様ニ可相心得候、以上

右之趣、諸国屋共へ触知へく候、以上
巳十一月

櫛・笄ニ銀かなく用候儀停止之旨、先達而相触候上ハ、右銀具之類、潰銀ニ相成候ニ付、不賄(ママ)置、銀座へ売渡可申候、惣而灰吹銀并潰銀、前々ゟ内々ニ而売買無之候、潰銀は銀座へ買入候事ニ候所、近来心得違猥ニ成候様相聞候、古来之通、銀座之外他所ニて売買之儀堅停止候、銀道具下銀入用之者ハ銀座ニ而可買請候、此旨急度可相守者也

右之通可被相触候以上

亥十月

右之通、従江戸被仰下候条、三郷町中可触知者也

寛保三年亥十月　美濃

河内

櫛・笄ニ用候銀具類停止ニ候間、右銀具之類潰シ相成候、并灰吹銀他所ニ而売買致、潰銀不賄(ママ)置、両品共銀座へ可売渡旨、江戸ニ而触出之趣、当十月当表相触候所、其以後櫛・笄・潰銀・灰吹銀共一向売渡不申、内々ニて他所へ売渡候筋も有之、又は銀櫛・笄之義は永々堅停止ニ候所、心得違候者も有之、今以賄(ママ)置候義と相聞え候間、其町内限り村限り取集候て、銀座へ売渡可申候、尤潰銀銀座可売渡候、如此相触候以後は、賄(ママ)置候類又ハ潰銀等迄も、内々ニて他所へ売渡候様子相聞候ハヽ、其持主は勿論、其所之年寄・五人組迄、庄屋等迄も、吟味之上可相咎候、此段急度可相守者也

右之通三郷町中可触知者也

寛保三亥年十一月

一、灰吹銀并潰銀、銀座へ買入銀座之外他所ニて商売之義、古来ゟ停止之事ニ候、右之趣、去ル亥

年相触候所、当時集り高少々ニ相成候由、畢竟内々ニ而商売致候儀ニ相聞え、不埒之候、且又江戸并諸国寺院ニは檀家ゟ納候銀具類、無拠貯置候儀も可有之候、檀家へ相対談致し、遠慮之品は格別、其外銀座へ差出、通用金ニ引替候ハゝ、修造等之手当ニも可相成事ニ候、内々ニ而売払候儀、致間敷候、此旨急度可相守者也

巳八月

右之通被仰出候間、三郷町中可触知者也

寛延二巳九月

一、灰吹銀潰銀等、銀座之外、他所ニ而商売停止候旨、前々相触、銀座ニ而下銀入用之者、銀座ニ而可買請候、去亥年も相触候所、又々猥ニ相成候段相聞え、且町方ニて銀櫛・竿(ママ)、其外銀器類専相用ひ候旨相聞え不埒ニ候、已来右程之無益之道具拵候義、一切致間敷候

右之通堅可相守候、若内々ニ而売買致候者於有之は、急度可申付候、此段三郷町中可相触候

宝暦三年酉七月三日

一、右再触有之候、宝暦四年戌十一月

古銀之儀、割合通用可致旨、去ル子年相触候所、通用も不致、銀座へ引替ニも不差出、貯置候者も有之由、別而西国・五畿内・北国・四国筋、多分古銀有之由相聞え候、遠国之義は引替後遣候、慶長銀・古銀・灰吹銀、貯置候も可有之候間、右国々銀座役人相廻、五割増之積りを以買入候筈ニ候間、慶長銀・古銀并灰吹銀之義、不貯置、定法之代銀請取、可引替候、尤銀座へ持出し引替之義は勝手次第たるへく候、但来々子五月迄、引替銀座へ申込候分ハ五割増ニ而引替、同年六月

ゟ古銀は潰銀ニ相成候、慶長銀・古銀拾貫目を文字銀拾壱貫弐百匁ニ買候間、此旨可相心得候
右之通急度可相守旨、三郷町中可触知者也
　宝暦四年戌十一月

古銀引替之儀、先達而相触候所、今以貯置候者有之、其上諸問屋ゟ、代ロ物之価ニ古銀専指加へ、相渡候様ニ相聞え候、右程之儀無之、銀座へ引替可申候、若心得違ニ而貯置候歟、又ハ内々ニ而代ロ物之価ニ他所へ相渡候ハヽ、其持主は勿論、所之年寄・五人組迄も可相咎候間、遂吟味、引替差出候様可致候、此段急度可相守候
右之通三郷町中可相触者也
　宝暦五年亥　六月

古銀之儀、五畿内・北国・中国・四国・西国筋、銀座役人相廻り、当子五月迄は五割増を以引替、当当（ママ）月ゟは潰銀之積り買入候旨、去々戌年相触候所、廻残候国々弐十五ヶ国有之ニ付、左之国々ニ付、来卯五月迄、五割増之積を以引替候様可致候
山城・河内・和泉・摂津・若狭・越前・加賀・越後・丹後・但馬・石見・はりま・備後・安芸・因幡・長門・紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊予・土佐・肥後・大隅・薩摩
　但、卯六月ゟは、潰銀之積り慶長銀・古銀拾貫目を、文字銀拾壱貫弐百匁ニ買入候筈ニ候
右之通相心得、古銀類不貯置、引替様可致候、此旨可相守者也
　宝暦六年子六月　丹後
　　安芸

水銀

一、水銀買入置候者有之由相聞え候間、直段高直ニ成、水銀払底ニ而手支之品も有之趣ニ候間、左様之輩は早々売出へく候、尤其外薬種之儀も前々買入停止候所、近頃猥ニ成、心得違多、買入置候者も有之様ニ相聞候、多分買入置候者は、売出可申候、此旨水銀之義は勿論、薬種類買入等致候段相聞え候ハ、吟味之上、急度可申付事

右之通三郷町中可触知者也

寛保三亥年六月

一、水銀其外薬種之儀、前々買〆停止ニ候所、近キ頃猥ニ心得違多候、分買〆置候者有之様ニ相聞え候間、左様之輩者早々可売出候、買〆等致候者は、吟味之上急度可申付旨、先達而相触候ニ付、代ロ物不捌ニ而、銀子等調達之差支ニ相成候故、長崎表入札難成候旨、右入札之本商人共申立候、触差出候儀は、惣程身上不相応ニ多分買入候者有之候ハヽ、買〆之仕形ニ相成候、然ル時は停止候事ニ候間、心得違無之ため、相触候、右商売之義ニ候間、身上相応ニ代ロ物買入候義ハ、指留候訳ニ而ハ無之候、向後買〆之節無之様ニ相心得、商売手広可致候、此段唐薬問屋共へハ申渡候得共、末々不行届趣ニ相聞候間、猶又右之趣可触知者也

水銀之事

近年水銀直段、格別高直ニ相成候ニ付、指支有之旨従江戸申来候、買〆ハ致間敷候得共、水銀賄(ママ)置候者有之は、此節早々可売出候、心得違候者有之は、急度可遂吟味候、先達而相触候之通、商売手広く可致候

右之通、薬種問屋之外町人共へ可触知者也

延享三寅十一月　周防
筑後

廿一

薬種之事

和薬之儀、形チ不分明成者、或ハ名目取違候もの有之候故、先達而和薬改会所被仰付候ニ付、問屋共は勿論、脇々薬屋共迄も、真物を覚可申間、自今和薬改所相止候、山方ゟ出候薬種、問屋ニ不限何方ニ而成共勝手次第売買可致候、右之通ニ候得共、薬種問屋共ハ勿論、脇々薬屋共も随分紛敷薬種売買不致様ニ致吟味、不分明之もの有之候ハヽ、丹羽正伯方へ相達し、差図請候上、売買可致候、若紛敷薬種、猥ニ売買致候ハヽ、吟味之上急度可申付候

右之通三郷町中可触知物也

元文三午五月廿五日　淡路

唐和薬種問屋
合弐百八軒　組頭五人
中買百二十四人
定行司十人

唐物之事

唐糸類ハ久敷貯置候而も損さるもの故買込置、又ハ右代ロものを内証ニ而相対致シ、質物ニ入、金銀ひそかに借り請候族有之旨、風聞有之候、諸色買〆之義ハ前々ゟ停止之候、尤右糸をかわりに請取、金銀を借し候者も買〆ニ相紛候、其筋之商買人之外無用ニ候、向後右程之儀有之候ハヽ、吟味之上急度可申付候

但、糸商売人并織屋共、売買質商売へ、無拠筋にて少々ツヽ糸類質物ニ遣候儀は格別之事ニ候右之通、京都・大坂・伏見・南都ニおゐて、町触有之由、京都奉行所ゟ被申越候間、於当表ニ前文之通急度可相守、三郷町中可触知者也

寛保弐年戌二月十九日

長崎表ニ而唐船渡り候俵物、請方之役人、今年ゟ当表備後町五丁目吉野屋庄左衛門借屋ニ会所を建、詰居申候間、向後当表より長崎廻り候煎海鼠・干鮑・昆布等之俵物、送り状ニ右会所之裏印を取可申候、若会所之裏印無之送り状ニ而、俵物積下シ候物有之は、其段長崎奉行所ゟ申来候ハヽ、吟味之上咎可申候

右之通三郷町中可触知者也

延享四卯五月十二日　筑後
周防

一、長崎ゟ当表へ登り候唐阿蘭陀糸端物類は、当地五軒之問屋共へ引請、問屋より外々へ買取可申候、右問屋共、手前ニ不有合品望候者有之節ハ、問屋共より京都問屋へ致相対、買取可申候、享保六巳年申渡候所、近頃呉服屋共之内、出所紛敷糸端物売買致候由風説有之、不埒之至りニ候、先年も申渡候通、右五軒之問屋之外ニ而買取申間敷候、若出所紛敷端物類売買致候は、有之者、急度可申付候、且又端物中買共も、先年申渡候通可相心得候

寛延元辰十一月　周防
筑後

唐阿蘭陀薬種并荒物類長崎落札荷物、当表唐薬問屋へ登り候分者、長崎へ相詰候当表糸割符年寄共相改、積登せ候儀ニ候所を、此右問屋共之外へ、紛敷荷物指登せ売買せしめ候趣風聞有之、不埒之至り候、薬問屋之外ハ唐阿蘭陀薬種荒物類不登筈ニ候、薬種中買ハ不及申、問屋之外へ右荷物買取候儀一切仕間敷候、若紛敷荷物売買致候者於有之ハ、急度可申付候、

寛延元十一月　周防
筑後

於長崎ニ唐船へ相渡候いりこ・干鮑并諸色、諸国ゟ近年長崎へ出方薄く相聞え候ニ付、長崎表俵物

請負人共、一手ニ買入申付、右請負共之内、左之者共、此度浦々相廻り候、依之浦ニて俵物出方致出情(ママ)、長崎へ買入候分ハ、請負之者共へ一手ニ売渡候之様ニ、浦々之者共へ申付可被置候、尤浦々出情(ママ)之上、出方相増候得ハ、双方勝手ニ可相成事ニ候、商売方ニて相廻り候所、万一御用筋之趣ニ相心得、心得違無之様可致旨、請負人共へ申付、為心得申渡置候事

長崎俵物請負人之内　岸八兵衛
同断　近江や庄兵衛代　西原市左衛門　手代利助

右之通従江戸被仰下候

寛延三午二月

長崎御用調会所
同阿蘭陀宿　過書町　為川五郎兵衛
長崎糸割符
人惣合　五百八十弐
大坂割符人　四十九人

唐和めうはん売所
安堂寺町壱丁目　大和屋利兵衛

一、唐和明礬会所之外ニ而売買仕間敷旨、宝暦十一巳正月被仰渡候

分銅之事

分銅之儀、数年すれ合、掛目減、用達不申分は、古道具屋ニて売買致し、銅鉛打込ニ、其上草紙を巻候分銅は、掛合ニ用ひ候由相聞候間、猥成分銅を不用ひ候様致度旨、後藤四郎兵衛願出候条、猥成紛敷分銅通用は勿論之儀、売買等致間敷候、向後古分銅、他所ニて一切売買不致、時之潰直段を以、後藤方へ買取候筈ニ候、古道具屋ニて売買不相成候、別紙名書之者共方ニて古分銅買請、尤新分銅も売出候筈ニ候間、此旨可得其意候

右之通三郷町中可触知者也

元文五申九月

三郷ニ釘口屋十四人有之

古分銅之儀、後藤方へ指出シ、掛目改請候様、当四月触知らせ候所、今以一切改不差出、猥成分銅用ひ居候族有之由ニ付、三郷町々会所へ後藤名代之者罷越シ、丁内ニ所持候分、分銅之分掛目相改、摺合候て掛目減候分、其外猥成分銅ハ、新分銅ニ引替度旨、願之聞届候間、後藤名代之者、町々会所へ参り候ハヽ、古分銅差出、掛目改請可申候

寛保元酉十一月

金銀掛合分銅、寛文年中改、以前之古分銅両替仲間ニ而遣候由相聞候ニ付、京・大坂・堺近郷之分

潰等迄外ニて売買不致、潰直段を以、後藤四郎兵衛方へ買請させ、目軽キ古分銅、内々ニて売買致間敷旨、度々相触候所、今以西国并長崎筋ニ而ハ、古キ分銅多売、買用候由相聞え、此已後内々ニて売買致候儀は勿論、不隠置、四郎兵衛方へ可相渡候、尤四郎兵衛方ゟ改役人相廻り、紛敷分銅は取上ケ候筈ニ候、其趣急度可相守者也

右之通、御料ハ御代官、私領ハ地頭より可被相触候

亥六月

右之通、従江戸被仰下候条、三郷町中可触知者也

寛保三亥年六月

古分銅潰買請、新分銅売出候儀、当地針口屋共為致取次候旨、五年以前申年後藤四郎兵衛申立之趣触知らせ、然所以来は針口屋共ニ売買不為致、五幸町河内屋清左衛門借屋を借り請、分銅売買候段、此度後藤四郎兵衛名代之者断出候条、此旨可相心得候

延享元年子十月

分銅売所　京後藤出店　五幸町

今度於江戸表ニ、後藤四郎兵衛分銅再改致度願ニ付、此度又々改ニ廻り可申之旨町触有

宝暦三酉年四月

一、分銅再改之義、町触有

同四年戌五月
一、町中分銅改有之宝暦九卯年改ル

秤之事

一、諸秤、神善四郎秤を可用之旨、先年相触候、然ル所近年猥成、悪敷秤を用、且又自分ニ棹・錘・緒なと取替、法かひ之者も有之由相聞へ不届ニ候、若悪敷秤、法かい申もの有之は、穿鑿之上急度可申付候、損候秤有之ハ、善四郎出見世へ持参、直させ可申候、此旨三郷町中可相触者也

丑閏二月十五日　美濃
甲斐

諸秤之儀、神善四郎秤を可用旨、先年ゟも度々相触候所、此頃猥ニ相成、悪敷秤を用ひ、忍之秤商売致候者、又ハ古道具屋ニ而買取候由を申立、新古ニ不限、悪敷秤を用商売ニも致者有之、其上秤直しと申、徘徊候ものも有之旨相聞え不届ニ(ママ)之至りニ候、此已後右程之者有之ハ、吟味之上急度可令沙汰候、尤損候秤ハ、神善四郎手代時々相廻り、紛敷秤有之候ハゝ取集度旨、善四郎願出候ニ付、勝手次第之旨申渡候間、其旨可相心得候
右之通三郷町中可相触者也

寛保三亥年二月

神善四郎秤相用候国々へ、善四郎方ゟ役人相廻し秤改候節、秤数多所持之者も不隠置、不残出し見せ、改請候様ニ可致候、尤紛敷秤は取上ケ候筈ニ候条、此旨急度可相守者也
右之趣、従江戸被仰下候条、三郷町中可触知者也
延享元子年二月

神善四郎秤改之儀ニ付、五年以前、従江戸表被仰下候御書付を以触知らせ置候通、此度摂州両国在町諸秤、相改度旨ニ付、別紙書付写善四郎差出候、右書面之通相心得、銘々所持之秤、不残置改請候様ニ可致候、右之通三郷町中可触知者也
寛延元辰年八月

一、秤改之義、町方ハ壱町切ニ、其町之年寄方ゟ何屋誰方ニれいてんく何挺、千木何丁と申事を遂吟味、はかり差出不申以前ニ家別ニ承合せ、惣壱町中之秤之高何十挺と申事書付、町々ゟ員数書付、無残請取申、以上何日持参と申事、日割刻付仕、壱町切ニ取集、持参候様ニ仕度候
一、れいてんく・皿秤・千木、善悪新古ニ不限、縦当分入用無之分をも差かへ、壱挺も取残不申、諸秤何町誰と持主銘々之名札を付、差出候様ニ仕度候、奉存候
一、町々ゟ諸秤持参、相改、能キはかりハ此度改印仕、相渡シ申候、尤ねし〆之軽重御座候分は、定之料物を請取、修復仕、相渡申候、且又紛敷秤御座候ハヽ取上置、皆済之上勘定仕、一同ニ御役所へ差上候儀ニ御座候

一、在中改之義、一村切庄屋方ゟ諸秤角数書相認、右庄屋へ差出、右庄やゟ一組合切員数書、集り
次第、此方へ請取申候上、町方同前ニ日割刻限仕、差出申度奉存候
一、右相改、町在共年寄庄屋方ゟ此方へ証文請取申候、則案文奉入御覧候
右之通被為仰付被下候様、奉願上候、尤京都へも右之仕形奉願上候、願之通被為仰付、相改申候、
以上
六月　　神善四郎

秤師　　高麗橋壱丁目　　神善四郎

諸秤之儀は、古来ゟ守随彦太郎役人相廻り相改候所、近年は私事之様ニ心得候哉、諸秤余多所持致候者も、秤少々出シ見せ、不宜秤は隠置、或は秤所持不致之申、改不請者も有之様ニ相聞え、前以相触候之通、守随方ゟ役人相廻り改候節、諸秤不隠置、不残出シ、改請候様ニ可致候、尤紛敷秤は取上ケ候筈ニ候、此旨急度可相守者也
右之通、東海道・東山道・北陸道、并丹波・丹後・但馬、都合三十三ヶ国、御料は御代官、私領は地頭ゟ可被相触候
右之通、先年相触候得共、近年又々私事之様ニ相心得候哉、不相用者も有之、取上ニ可相成秤も、守随方へ不相渡所も有之様ニ相聞え候、前々ゟ相触候通、西三十三ヶ国之秤は、東三十三ヶ国ニ而通用無之候、取上ニ相成候筋之秤ハ、守随方へ急度可相渡候、勿論諸秤新古之不限、守随方之外ニ而、一切売買仕間敷候、尤諸秤手前ニ而衡并錘取替、其上緒も手前ニ而取替候者有之候ハヽ、急度咎可申付候

右之通、先達而相触候向々へ、猶又可被相触候
右之趣、従江戸被仰下候間、三郷町中可触知者也
宝暦二申八月廿五日

一、宝暦七年丑五月ニ善四郎手代相廻、紛敷秤は取集度旨、願上候ニ付、御聞届有之趣被仰渡
一、同九卯年、再触之上、丁々差出改請候

廿四

升之事

一、当朔日被仰渡候升之儀、丁内吟味仕候所、釣掛ケ升之外、有来リ候升之儀、是迄相滞り候儀無御座候、為其書付を奉申上候、以上
享保十六亥年三月六日　何町　年寄

一、諸升細工仕候者、丁内ニ無御座候、以上
同断三月十九日　右同断

升座　京升売所
備後町壱丁目

暦之事

大経師暦之外商売仕間敷旨、先年ゟ度々相触候、然ル所、其年之大小を作り、文字ニ致し候内へ暦ニ有之候儀を書入、売買致者有之由相聞候、向後暦ニ有之儀を大小作り、文字之内へ書入候義仕間敷候、此旨三郷町中可相触候、以上

享保十九年寅十月

延享元子十一月ニ右之通御触有之候

大経師暦之外商売仕間敷旨、先達而ゟ度々相触候、然ル所当地ハ勿論、西国筋へ遣し売買致候趣相聞候、向後右程之義仕間敷候、此段三郷町中可相触者也

延享三寅年十一月

貞享暦以後、是迄貞享暦相用候所、違有之ニ付、測量被仰付、今度

於　京都　改暦

宣下、暦号定陳儀被　遂行、新暦号、宝暦甲戌暦と被相定候、依之来亥暦ゟ新暦頒行之事ニ候

戌十一月
右之趣可被相触候

右之通、従江戸被仰下候条、此旨三郷町中可相触知者也
宝暦四年戌十一月

宝暦十辰年八月、紛敷暦売買仕間敷旨、被仰渡候

廿六

丹之事

一、丹製法商売人、以前大坂ニ而鉛屋吉左衛門、福嶋や庄蔵、堺ニ鉛や市兵衛、以上三人ニ而致来候所、近年新規ニ製法人出来候而、製法麁抹ニ致し、下直ニ売出候ニ付、上品丹製法次第ニ悪敷相成候、自今大坂堺ニ而、只今致し候製法人、都合七人相極、右之外勝手次第製法致し候事不相成候、尤右七人申合、上品丹製法随分念入、麁抹ニ無之様ニ致し、且又銘々焼出候上中下品之位ニ応し、定直段極置、勝手次第高下致間敷候、若右鉛直段高下ニゟ、直段改候事有之候ハヽ、大坂堺七人之者一等(ママ)ニ申合、直段改候訳、両所和薬会所へ合届候上、直段改可申事

一、丹之義、此迄薬改会所ニ而改を請、商致し来候得共、自今改を請候ニ不及候、仲間之者申合、紛敷製法致し候者有之は、和薬改会所へ可相達候事

右之趣、従江戸被仰下候間、三郷町中可触知者也、
元文弐巳八月十一日　淡路

丹製法人之儀は、先年ゟ相定有之、焼出し候所、近頃紛敷丹取扱候由風聞有之、不埒之儀ニ候、紛敷丹一切商売仕間敷候、若右程之商売致候者有之ハ、吟味之上咎可申付候
右之趣三郷町中可触知者也
延享四卯年八月

丹改所　備後町壱丁目

廿七

銅之事、

銅ゟしほり出銀之義、向後銀座ニ而吟味致候間、諸国ゟ当表へ銅廻着之度毎ニ員数出所書付、早速銀座役所へ相届、尤売先も可相届候、且又絞銀試吹ニ銅買取出、相糺候之間、対談ヲ以無滞、銀座へ可売候、
但、当時此表ニ着有之持銅之合員数、是又早速銀座役所へ可相届候、
右之通、従江戸申来候間、吹屋問屋其外ニも銅請込候者共へ可触知候、以上
巳十二月

鉛之事

一、鉛買〆致間敷候旨被仰渡候

寛保元年酉十月

一、近年鉛直段、高直ニ成候ニ随ひ、諸商人猥ニ買取、直段を以せり上、おのすから買人等も有之様ニ相成、長崎御用銅吹方之差支ニも可成趣ニ付、此度御勘定奉行相談之上、当表へ国々ゟ廻着候鉛、古来之通銅、吹屋共斗入札ニ付買取せ、御用銅・くへ銅之分除置、其余り、当表鉛商売人共へ売渡させ候間、向後諸売人、鉛入札次第、吹屋とも買取可申事

一、廻着鉛吹屋共斗ニ入札致させ候ニ付、向後廻着之斤目聞置候間、荒鉛并屑鉛・潰鉛共、諸国ゟ廻着之次第、多少ニ不限、其度毎ニ問屋ともより出鉛之国所斤数書付、奉行所并銅座役所へ届可来候、届書は問屋一判ニ而、居町年寄奥判ニ不及候、尤廻着之分、有程書付断可来候、若不断来族於有之ハ、吟味之上急度可令沙汰事

一、吹屋ともゟ売出候鉛ハ、吉野屋丁銅吹屋会所ニ有之間、望之者ハ勝手次第、鉛多少ニよらす右会所へ罷越シ、吹屋共相対を以買取可申候、勿論直段之儀、荒鉛を吹屋共方へ買入候直段ニ、竿吹其外雑用を掛ケ候迄ニ而、高直ニ売不出様ニ候事

一、是迄竿鉛中買等致来候者共儀、向後吹屋共方にて竿鉛買取候上、仕似之得意等へ小売致候儀は、是迄之通勝手次第可為事

右之通三郷町中可触知者也

寛保弐戌五月

一、諸国ゟ当表へ廻着鉛近年無数、鉛商売人之差支ニ相成候、就中山元へ罷越、鉛買取候儀有之趣相聞、山元ニて買取候様成儀有之候而ハ、廻着弥無数成候間、縦竿鉛ニ而候共、山元ニて買取候義は致間敷候、尤先達而相触候通、弥鉛囲置候儀は無之様ニ可相心得候、此已後山元ニて鉛買取来候者有之候ハヽ、吟味之上急度可申付候

右之通三郷町中可相触者也

延享元子年六月

銅之事

七年以前、銅座被仰付候ニ付、荒銅之分、不残右之座へ買取、御用銅中買共ゟ地売指出候ニ付、銅座之外一切荒銅売買仕間敷候旨、相触置候所、向後銅座御用、銅入用高程ハ買取、其外は無構、銅問屋ヨリ勝手次第町売致筈ニ候間、荒銅望之者は可買取候、勿論質屋へ質物ニ取候儀も勝手次第之事ニ候間、右之趣心得違無之様ニ、三郷町中可触知者也

延享元子年七月

当表ゟ長崎へ銅器相廻候義、停止申付候様御勘定所より申来候間、向後何ニよらず、銅器物長崎へ相廻申間敷候、此段三郷町中可触知者也

延享二丑年六月

鉛之事

諸国ゟ当地へ廻着候鉛之儀、銅吹や共斗買取せ、御用銅・くへ鉛之分除置、其余りハ吹屋とも手前ゟ商人へ売渡させ候段、三年以前相触候得共、此段御勘定奉行相談之上、諸国廻鉛高之内、四歩通り御用銅・くへ鉛として、百斤ニ付代銀百六十目程銅座へ買取せ、其余りハ荷主勝手次第相対之上可買取候

一、荒鉛・竿鉛・くへ鉛とも、諸国ゟ廻着次第ニ、多少ニ不限、奉行所并銅座役所へ届来候儀、三ヶ年以前触置候通、向後とも弥相守、廻着之斤目其度毎ニ有程書付、可差出候、若隠置候族於有之ニは、吟味之上急度可申付候

右之通三郷町中可触知者也

延享元年子九月

一、諸国ゟ当地へ廻鉛之義、去年九月相触候通、荒鉛・竿鉛・屑鉛ともニ月番奉行所并銅座役所へも可相断候、若隠置、不相断者於有之は、可為曲事候、此旨三郷町中可触知者也

延享二丑年五月

廿八

両替屋仲間

合六百六十軒

本両替二十四人之内定行司十人衆

今橋壱丁目　天王寺屋五兵衛
同　弐丁目　鴻池屋善右衛門
同　壱丁目　平野屋又右衛門
高麗橋壱丁目　油屋彦三郎
平野町三丁目　泉屋新右衛門
道修町二丁目　泉屋助右衛門
尼崎町　天王寺屋六右衛門
今橋二丁目　天王寺屋久右衛門
右八人表御用相勤候分也

南両替仲間
合百軒　行司四人

三郷惣銭屋組
合三百軒余　行司五人

近年大坂表両替屋共之内、印金と名付、正金ニ而無之帳合金を致売買候者有之由相聞候、不埒之至候、以来右帳合金売買之儀、堅令停止候条、急度可相守、若令違犯ニおゐてハ厳科可申付者也
右之通、従江戸被仰下候条、三郷町中可触知者也
宝暦十一年巳十二月

北堂嶋

米両替

此度大坂堂嶋米両替株拾軒増、徳倉長右衛門へ被仰付候間、名代之者名前を以両替可相勤候条、有来五十軒両替仲間・米問屋并仲間之者、是迄有来候通ニ此度増被仰付候拾軒共ニ、米売買取遣、両替無障様ニ相対可致候、若差障り候者於有之は、急度可相咎候

閏十二月

右之通、従勘定所申来候間、三郷町中可触知者也

延享三寅年正月十一日　筑後　河内

堂嶋

米商人　米中買　千三百軒余

米売買遣操両替株五十軒

同取引場　天満船大工町

同拾軒　銀座徳倉長右衛門請負株

同拾軒　京屋八兵衛請負株

右は米売買相場中買株并遣操株等也

質屋

質屋株無之者共、不依何ニ諸代ロ物売上ケ証文を以銀子貸渡、質同前之仕形有之旨相聞え候、質屋之外ニ而ハ、質物取候義前々ゟ停止之事ニ候所、右之仕形ニ而銀子貸渡シ候段、不埒之事ニ候、右体之族於有之ハ、吟味之上、急度咎可申付候、此旨三郷町中可触知者也

寛延弐巳年十一月　周防
筑後

質屋南組四百軒余

北組

年寄　本町三丁目　綿屋市右衛門
道修町二丁目　紙屋吉右衛門
惣代　南本町四丁目　矢野彦右衛門

右同

天満組弐百軒

年寄　天ま二丁目　中村左近右衛門
今井町　今井喜左衛門

惣代　金屋町　阿波屋弥七
天ま五丁目　森本庄兵衛

三十一

賃かし

都而町中ニおゐて、着類・夜着・ふとん賃貸致候者、出入毎度有之候、其上借し主得心ニ而借り請候ものより質物ニ指入させ及出入ニ、却而借シ方之者仕方不宜、所之者迄及難儀ニ候類も有之、不埒之事ニ候、自今借シ借り之儀、証文又ハ請人を取、身元見届取引致候分ハ格別、左なく身分身貧之者へ不相応ニ衣類夜着ふとん賃貸シ致候儀無之様ニ可致候、万一此已後右之類及出訴ニ、貸シ方之者仕方不埒成ニおゐてハ、吟味之上急度可令沙汰候条、此旨可相心得候

右之通三郷町中可触知者也

寛延三午十月

せん年より御ふれふみ・二巻の内下

三十二

盗人

従先頃町々ニ盗賊徘徊致し、物騒ニ相聞え候ニ付、此方ゟも格別ニ廻り之者指出召捕候得共、町々ニ而も急度相図を定、隣町迄も兼(ママ)而申合、盗賊入候節ハ早速駈付集り、召捕候様ニ致し、勿論昼夜ニ不限、盗賊ハ不及申、胡乱者は捕置、月番之奉行所へ可訴出候、若見遁聞逃、後日ニ外ゟ相知候ハヽ、其所之年寄丁人ハ不及申ニ、隣町迄も可為越度候、捕違候分ハ不苦候、此旨相心得、隣町とも申合、無油断可取斗事

右之通、三郷町中端々迄不洩様ニ可触知者也

寛延元辰年九月十三日　周防
筑後

三十四

古金買仕置

古金買候者、堂塔橋其外古金物盗人共はつし、売候物を買候ニ付、小盗人出来候間、古金売候事法度申付候所、衆中致詫言候間組頭五人組を極、仲間へ不入古金買候者は、見合ニ捕、致穿鑿、五人組仲間を吟味仕、悪者有之ハ可申聞候、侍屋敷并町中へ古金買ニ罷出候時、弐人ツヽ可参候、行かけニて買申間敷候、宿へ持来候ものハ両隣五人組へ見せ候而買可申候、不審成物ハ買申間敷候、仲

間壱人悪事候ハヽ、五人組可為同罪事

正保弐壬五月十六日

古手買

仕置右同事、両様共朝ハ四ツ晩ハ七ツ迄商売仕、橋ニて売買、辻売買も同断、御法度之事

古手商売之者ハ仲間組合を極、前々ゟ申渡候趣可相守旨、証文申付置候、然ル所仲間へも不入、商売致候者有之由、古手仲間ゟ訴出候間、向後仲間へ不入者ハ古手商売堅仕間敷候、若相背於有之ハ、見合次第可捕来候

右之趣、享保十四年酉年閏九月相触候所、猥ニ商売致候類も有之旨、古手組年寄訴出候間、弥先年相触候通相守、猥ニ無之様ニ可致候、此段三郷町中可触知者也

寛保元酉九月

古鉄買

古かね古道具商売之者ハ仲間組合を極、古来ゟ申渡候趣可相守之旨、年々証文申付候、然ル所古鉄古道具買之仲間へ不入、見世店を出シ、又ハ道橋ニ而も猥ニ商売致し、并柄巻拵屋も右之仕形有之由、古かね仲間ゟ訴出候、向後右之族有之ハ、見合次第訴出候様申渡候間、此旨三郷町中可触知候、以上

亥九月

右之通、享保十六年亥九月相触候所、近年猥ニ成、刀脇指拵候者も、或鏡屋鍛冶屋抔之内ニも店を出候旨、古かね仲間之者共訴出候条、弥先年相触候趣を守、猥ニ無之様可致候、此旨三郷町中へ可触候、以上

寛保元酉十一月五日

古手

古手商売之者ハ仲間組合を極、前々ゟ申渡候趣可相守旨、証文申付置候処、仲間組合へも不入、猥ニ致商売候者有之趣相聞え、以来仲間へ不入者古手商売致候ハヽ、急度可令沙汰候条、此旨三郷町中可触知者也

延享三寅年五月

古手仲間ニ無之者、素人ゟ古手買候儀は不致定ニ候所、心得違候哉、古手仲間ニ而無之呉服屋・毛綿屋・貸物屋、素人ゟ古手買取、又ハ古手を下タ物ニ取候者有之由、并古手仲間を退、其侭古手を買、同様之商売致候者有之由相聞え候、左候得ハ吟味之節差支ニも相成候間、此已後右程之者有之ハ、急度可令沙汰候、勿論新物商売之呉服屋・毛綿屋并古手類ニ而も、古手屋ゟ買取候而貸物いたし候ものハ、可為勝手次第事

右之通三郷町中可触知者也

延享五辰年六月　周防

筑後

古鉄古道具仲間
中買分三千弐百四十三人
年寄　北久宝寺町壱丁目　刀屋佐兵衛
組頭九十弐人、但壱番ゟ九十弐番迄
惣代　道具や庄右衛門
小役弐人

古手中買
合千六百人余
年寄　七人有
組頭　四十三人
会所　鰻谷弐丁目　松嶋屋喜八

合千人余
年寄　四人
組頭　三十九人
惣代

中買組
七百人余

年寄　六人
組頭　廿四人
惣代
本町組
塩町組

三十五

酒株之事

一、酒ニ酔、心ならす不届仕候者粗有之候、兼而より大酒仕候儀停止ニ候得共、以酒給候義、人々相慎可申事
一、客等有之候而も、酒給候儀無用之事
一、附酒狂之者有之ハ、酒給させ候者も可為越度事
一、酒商売仕候者、連々減候様ニ可仕事
右之通急度可相守、於令違背は可為曲事者也
　子八月
右之通従、江戸被仰出候間、三郷町中可触知者也

元禄九年丑九月九日　美濃
甲斐

一、当辰年酒造り米之儀、去々寅ノ年造高ノ員数半分之積可造之候、前々相触候通、寒造之外新酒弥堅停止候、定之外隠候而酒造候者、無之様ニ急度可被申付候
辰九月

右之通、今度従江戸被仰出候間、此旨堅相守候様ニ三郷町中可触知者也
元禄十三年辰九月廿八日　半右
甲斐

町中請酒屋・焼酎屋・醤油屋・味噌や共類、其外町人共、酒密々ニ造り、売買仕候者有之様ニ及御聞被成、不届被思召候、向後左様之者於有之は、急度可被仰付候、常々五人組切ニ吟味致可申候、違背之者御座候ハヽ、組中迄越度ニ可被仰付旨、御意ニ候事
辰九月廿八日

前々も酒猥ニ給申間敷旨、被相触候得共、近年ハ米払底之儀ニも候間、婚礼又ハおし立候祝儀之外、客来有之候共、酒出し候儀可為停止、然ル上ハ祝儀之取かわしも酒は致無用、樽代可用之者也
十月

右之通、今度於江戸御触御触有之候間、婚礼其外おし立候祝儀之節たりといふ共、猥ニ酒給申間敷候、尤音信贈答は樽代ニても取かはすへし

此旨急度相守候様ニ三郷町中へ可触知者也

元禄十四年巳十二月十六日　善太
半右

寛延改

酒株六百三十六株

北組　百八十四株
南組　三百十二株
天満　百五十株

右之内五十人撰出し、五十人之内ゟ年行司五人宛年替り勤ル

三十六

大工之事

一、家持有之大工、家役之火事手桶ハ致無用、三郷申合方角ニ無構、大坂天満三郷之内何方ニ而も火事出来候ハ、組頭三人大工三十人刃鋸を持せ、両人馬を立有之所へ可参候事

右之通町中相心得、火事出来之時、早速可被出候、不参候ハゝ可為曲事事

承応二年巳二月十八日　隼人
丹波

三郷町中戸大工共提札之儀、此度中井主水ゟ相改申候ニ付、来ル十日ゟ十五日迄、新札相渡候間、依之主水ゟ戸大工共へ先達而渡置候提札、戸屋年寄方へ令持参、新札ニ引替可申候、且又雇方ニも今度改候札、不所持致之者は不雇様ニ可致旨、主水相断候条、此旨相守、右日限之内無滞提札引替可申候、右之通三郷町中可触知者也
寛保三亥年八月七日

三郷町中へ無役之大工共数入込相働候ニ付、組々役大工共妨ニ成令迷惑候、依之此度相提札所持不致大工は、町中之者不相雇様ニ致度旨、中井主水願之、右改札印鑑差出候間、右改札無之大工は自今決而相雇ひ申間敷候
延享元子年四月

一、三郷大工提札、此度天満分ハ提札ニ目印致候由、中井主水印鑑差出候間、七ヶ年以前四月申渡候通、右改札無之大工は、自今弥雇申間敷事
右之通三郷町中可触知者也
寛延三午二月十八日

御城内御大工　御弓町　山村助治郎

百俵五人扶持
手代棟梁弐人
小棟梁七人
惣大工合百七十人余

中井主水殿支配
大工合四千八百人
年寄　三人有
組　二十三組
組頭　二十三人
船大工
川船大工　五百人
海船大工　千五百人余
〆弐千人余
年行(ママ)壱人　十二組ゟ年替りニ勤ル

戸大工仲間、是迄壱と組ニ而候所、此度戸大工仲間弐組申付、年寄相増候、戸大工共へ中井主水焼印札相渡置候間、右提札所持不致戸大工雇不申、素人共戸大工職不致様仕度旨、中井主水申立候条、以来此旨可相心得候
右之通三郷町中可触知者也

宝暦四年戌十二月

大坂三郷町中ニおゐて、おうこ細工之者は、御仕置者有之節、役相勤来り候、近来右定候職人之外、枌細工致し合渡世候者有之、及難儀ニ候由、枌職廿六人之者ゟ願出候、右渡世之儀、樫屋は勿論、外職人とも決而致間敷事ニ候条、心得違無之様三郷町中可触知者也

宝暦五年亥四月　安芸
遠江

三十七

十人材木会所支配之事

一、大坂三郷町中、家材木屋組・板屋組・船材木屋組・杉材木屋組・中買材木や組・桧材木屋組・家根木材木屋組・土佐問屋・尾張問屋・日向問屋・竹中買・竹問屋・舟板中買・梶木中買・帆柱中買・木挽板屋・同家根木屋問屋・井戸ヶ輪中買組・外中買組

右之者共、是迄公役并御仕置は、入用之竹木、材木会所掛り物等、割符指出来り候所、近年商売止候者、新規ニ商売取付候者有之、材木会所へ名所不相達候ニ付、入除キ猥ニて、竹木被盗物吟味之節も、十人材木やより触知候儀、名所不分明ニて難行届趣ニ候、向後は右組々商売之者、名所書付入除之度毎ニ十人材木屋会所へ相達、帳面ニ名所記之置候様ニ可致事

右之通三郷町中可相触者也

元文四未十二月

材木屋共、川中へ材木積出シ、并筏等日数を重、指置間敷旨、前々ゟ申渡候所、近キ頃猥ニ成、川中へ材木夥敷積出シ、筏等組指置、船往来相障り候趣相聞え、不埒之事ニ候、前々ゟ申渡候通可相守候、若令違背、川中へ積出有之候ハヽ、急度可令沙汰候、此旨三郷町中可触知者也

延享元子年七月

右未年御触書之通ニ而、壱ヶ年ニ壱度宛十人材木会所ゟ可相改候間、猶又組々商売之者、名前書付、入除之度毎ニ、無遅滞十人材木会所へ達、帳面ニ名所記置候様ニ可致候

但、問屋材木中買も以来右之趣可相心得候

右之通三郷町中可触知者也

寛延四未十月　遠江

周防

十人材木屋

会所　七郎右衛門町弐丁目

会所守　庄七

木挽

当町中ニ致住宅候大鋸木挽之分、家持借家之者共、如先規、万事中井主水下知を相守可申候、若承引仕間敷と申候大鋸木挽於有之は、主水支配之外之国へ可参候、但職を替候者、其侭差置可申候、右之通大鋸木挽、居申候町々ニて相改、主水下知相守可申と申分ハ、棟梁吉田五郎兵衛手前ゟ、自今以後書付を取、町々置可申候、主水下知ニは附不申、其侭ニ而大鋸木挽可仕と申候者、当所不差置候間、町を払可申候、此旨三郷町中可触知候、以上

元禄九年子九月廿一日

木挽仕置

一、大坂天満木挽共、破仲間を定、材木屋并致引板候者を弟子ニ取候ニ付、木挽共迷惑仕由、訴状差上候間、相背仲間之定を、弟子を取候儀、曲事ニ候条、向後双方共破仲間之定已来、於弟子取候ニは可申来、急度可申付候

一、唯今迄弟子ニ取候材木屋、板引候者、弟子をはなし可申事

一、右下人共、只今迄之主召仕候内ハ、板を引せ可申候、主人暇遣身を侭ニ致し板を引候者、木挽仲間へ入可申候、仲間ニも不入、自分ニ手間賃を取、板を引候者於有之ハ、従木挽仲間致穿鑿可（ママ）可申来事

一、材木屋召仕候者、譜代ハ勿論、年季又ハ一季居ニ而も、召仕候内板を引習候者、引せ可申事
一、材木屋下人、暇を遣候已後、手間賃を取候而ハ勿論、前廉召仕候好ニ而奉公振ニ候者、木挽板引候共挽せ申間敷候、但木挽仲間へ入候者ニは挽せ可申事
右之通相定、材木屋ニ而下人ニ板を引せ候儀、唯今迄之通ニ引せ可申候、木挽手前ニ而板を引候儀も可為同前者也
丑四月廿一日

一、三郷材木屋・船大工、其外職人共、他国木挽を雇ひ、或ハ手木挽致、役木挽を雇不申、役木挽共妨ニ成候旨願出候、前々ゟ相触候通相守、役木挽之外、他国木挽を雇、又ハ手木挽等致候儀無之様、三郷町中可触知候以上
享保廿一辰年二月

一、三郷材木屋・板屋、其外職人共、他国木挽を雇ひ、或ハ手木挽致し、役木挽を雇ひ不申、御役相勤候木挽とも妨ニ成候旨願之候、段々前々ゟ相触候通、大鋸前挽等用ひ候儀は木挽職ニ限りたる事ニ候、且又他国木挽を雇ひ手木挽致させ候義仕間敷候旨、去寅九月相触候所、又々猥ニ成候由、今度中井主水ゟ相断有、度々相触候事ニ候間、弥触書之通相守、向後猥ニ無之様ニ三郷町中可触知者也
卯十月廿二日
右之通、九年以前相触置候所、猥ニ他国木挽を抱、又ハ手木挽致候族有之、役木挽働無数、及難儀候旨、此度又々木挽共願出候、他国木挽抱又ハ手木挽致候義、不埒之事ニ候、先年ゟ申触候通、弥

相守可申候、此已後他国木挽抱、又は手木挽致族有之ハ、吟味之上急度可申付候条、此旨可令承知候、以上

右之通三郷町中へ可触知候以上

亥二月

寛保三年

三郷木挽仲間、職法不致、一同仲間提札相改候所、引替滞、古札新札と相争ひ、仲間半端ニて令騒動候、依之仲間札相改、当月十九日ゟ同廿八日迄、惣仲間之新札相渡儀ニ候由、勿論此度改候札、不致持参候者ハ、無役木挽ニ候間、材木屋等へ不雇様ニ致度旨、中井主水相断候間、惣木挽共木挽会所へ越シ、無難渋提札引替可申候、尤此度改候札所持不致木挽ハ、材木屋ニ不限、一切雇間敷候、前々ゟ相触候所、都而木挽職は主水指図を違背申間敷事ニ候間、其旨相守、仲間作法猥ニ不成様ニ可相心得候

右之通三郷町中可触知者也

寛保三亥年六月

又延享元子七月、右之通御触有之

又々延享三寅八月ニ被仰渡候

又々寛延四未八月ニ被仰渡候、右同事

又々宝暦六子十二月被仰渡候事、同事

大鋸木挽
合千六百七十五人
年寄五人ツヽ　年替り勤候
会所五幸町

中井主水支配大坂三郷木挽共へ、前々ゟ渡置候焼印札、猥ニ相成候ニ付、此度焼印札改、下地之札与引替候旨、主水ゟ申越候間、向後右新札を不致所持木挽共、雇間敷候
右之通三郷町中可触知者也
宝暦四戌年十一月

三十九

日用
左官　之事

大坂三郷町中ニおゐて日用働候者、左官同前之致働、左官仲間之妨ニ相成候由、右棟梁并組頭とも願出候条、向後日用働候者、左官職仕間敷旨、三郷町中可相触候、以上
亨保十九年寅八月

又延享四卯年四月ニ被仰付候

文言右同事

左官

合三百五十人余

但竈数也

頭壱人　組頭廿八人

竈屋

合五十人

組頭壱人

屋根ふき

合四百五十軒

頭　壱人

組頭廿七人

四十

瓦葺之事

大坂三郷寺社町方等、表立候普請之節、瓦屋根葺候儀、寺嶋藤右衛門ゟ支配之瓦葺ニふかせ可申候、併繕普請等ハ是迄之通勝手之者ニ雇候儀、其通之事ニ候、去年相触候所に今表立候普請も藤右衛門支配之者ニは瓦葺せさる由有之候、弥去年相触候通可相心得候、猶又急度三郷町中可相触候、以上

享保十九年寅八月

一、大坂町中ニて前々ゟ他国瓦商売不仕筈ニ相定り有之、自然ニ瓦之問屋等致し候得ハ、先年も急度指留メ候、然所近年他国瓦売買猥ニ相成、当表瓦師共渡世減、御瓦御用之節も指支ニ相成候旨相願候ニ付、向後町中他国瓦売買致間敷候、尤寺社家ニおゐても右同事ニ申渡候条、可得其意候右之通三郷町中可触知者也

元文四未十二月

先達而も度々相触候、他国瓦当表ニ而売買之儀停止申付候所、今以他国瓦又ハ泉州在方之瓦を売買致、家作候族有之、又ハ右瓦商候者有之段相聞、不埒之事ニ候、他国瓦并泉州在方瓦、弥売買致し申間敷候、若相背族於有之ハ急度可申付也

寛保元酉年五月

一、他国瓦商売致間敷候、瓦葺も表立候普請ハ寺嶋藤右衛門支配之瓦葺ニふかせ可申旨被仰渡候、

繕普請之義ハ是迄之通勝手之者雇候儀、其通り之事ニ候趣、延享五年辰五月廿三日被仰渡候

一、宝暦九年卯十月右同事再触

御城内御瓦師
南瓦屋町寺嶋藤右衛門
瓦焼竈三十余
瓦師　三十軒余

医者之事

一、向後医者宅替或ハ新規医者ニ成候者、或ハ代替り、或ハ家主替り有之ハ、御月番之宗旨御役所へ御断可申上候、尤丁代罷出可申上旨被仰渡、尤御役所へは其時々ニ申上、但町名之上ニ郷分可致候

一、惣会所へ御断ハ、毎月朔日ニ、其訳丁代名印ニ而相断、其時々ニ而無之筈ニ被仰渡候

宝暦二申九月朔日

医師陸尺

陸尺小者等、我侭を致、於病家何角と貪かましき有之、不届之由ニ候、前々ゟ申触候所、今以不相止、其上主人之申付をも用ひす候旨相聞え、重而不届ニ候、左様之者於有之は、急度曲事ニ可申付候事

附、陸尺乗物を舁、町中罷通り候節、前後を争ひ、乗物当あひ候事、度々有之候由相聞候、急病人有之而罷通り候医師、病家早々馳付候事本意ニ候、左様之時分、互ニあたりあひ不申様ニ可仕候、行違候節も同前ニ可相心得候、理不懸成仕形於有之は可為曲事事

元禄八年亥六月十八日　玄蕃

船之事

一札

此度御改被仰付候御書付之趣、慥ニ承知申候、私共手前ニ上荷船・茶船・剣先船・砂船・土船・屋形船・勧進小船、惣而川内ニ而働候船、壱艘も所持不仕候、勿論他之船を賃銀ニ而預り乗働不申候、若不寄何船ニ隠置申か、又ハ他之船を賃銀ニ而預り乗働申候而、後日ニ相知候共、年寄・月行司之御難懸ケ不申、我々共如何様共越度ニ可被成候、為後日判形仍如件

元禄七戌年三月八日　丁中連判

条々

一、廻船作法、寛永十三年亥八月二日之日付ニて、従江戸大坂迄之浦々へ被遣候御制札之旨、堅可相守事

一、逢難風候刻、たすけ船を頼儀、近所ハ成程情(ママ)を出シ、破損無之様ニ可仕事

一、船破損之時、其浦々之者を頼、情(ママ)々入荷物を取上ヶ、其上ル荷物之内、取揚ヶ候者ニ御定之通無異儀可遣之事

一、沖ニ而荷物をはね候時は、其所ゟ近湊へあかり、如御制札、代官庄屋へ相断、穿鑿を請、船ニ相残荷物之分書付証文を取り可参、証文於不分明は、荷主可申来、吟味之上急度可申付事

一、船頭浦々之者と申合、荷物を盗取はね候由於申ハ、船頭は勿論、加子壱人も不残可為死罪事

一、沖ニ船をかけ有之而、船ゟ船へ荷物売候儀、可為曲事、若令違背売買候者も可為死罪

但、穿鑿之上、軽重可有之事

附り、自分之荷物ニ而も船中ニて一円売買仕間敷事

一、於浦々御制札之旨令違背、破損船難渋致は、鳥羽より下は江戸へ申上、同所より上方は帰帆之刻、此方へ可相断事

一、順風無之、船中ニ而日数を送り、粮米ニつき候時ハ、何事ニ而も其湊へあかり買可申、但其所ニ売米無之時ハ、船中之米を遣、荷物上ル所ニ至りて可致返済事

一、難風ニ逢ひ、船致破損、荷物はまり候由偽、船頭荷物売候儀於有之は、其船之加子、其所之代官・庄屋方へ早速訴人可致候、然ル上、縦同類たりと言共、其咎を免し、褒美可遣事

右慶安五年八月十四日ニ書出、通廻船中致相談、浦々御制札之旨、船頭加子申含、堅可相守此旨者也

追加

一、江戸廻船之荷物、於大坂兵庫両所ニ可積之由致約束、不残大坂ニて積立、於川口ニ破損有之儀、為曲事、向後ヶ様之不届有之ハ、船頭・楫取・水主等、先令牢舎、穿鑿之上死罪可申付候条、廻船仲間此旨相心得、無油断吟味致し、若舟主私曲有之ハ勿論、不可遁其咎事

一、大坂川口出船以前ニ破損船出入之事、穿鑿之上、船頭不届ニ而令破損は其割符荷主へ相懸へからす、運賃其侭遣、取あくる荷物ハ大坂伝法其外廻船中として右約束之所迄積可届、自今以後川口ニおゐて舟頭不届有之ハ、其割符廻船中可相掛事

一、公儀御用ハ不及申、諸大名衆并商売人荷物、材木以下、江戸廻船之船頭・水主、川口ハ勿論、泊々ニ而も、浦々御制札之通不相背様念入相届へし、若徒を工ミ、滞儀有之ハ、可為曲事

附り

他国之船頭・水主ハ、大坂舟宿之者、此趣可申合、穿鑿之時不存と申者有之ハ船宿可為越度事

一、廻船荷物、船問屋請取置、船之善悪并船頭・水主等之儀、荷主ハ不知之、問屋吟味仕、船積致させ候上ハ、皮(ママ)船之船頭・加子(ママ)、荷物を盗取令紛失ハ、其品々問屋ゟ荷物主方へ可弁償之、勿論右之悪とく、依科軽重、或死罪、或牢舎可申付事

附、問屋請取置荷物、出船聞立、早速積、可廻候、廻船無之由偽を申、久々荷物を預置ニおゐてハ、可為曲事事

一、解船商売之者共、船を買取、其侭船ニ而致売買ニ付て、常船を不致所持者、彼船を買取、少々繕之、問屋と相対致、荷物を請取、積送ニ付而、破損船多有之由其聞有、向後ハ当座ニ船をときほとき、板ニ而可売買、若如此之船を求置於商売致ハ、遂穿鑿、双方可為同罪事

万治二年己亥正月十一日

一、火事之節
船ニ而荷物於積来候ニは、先々ニテ其町年寄・五人組、立会相改之、相背之儀於有之ハ可申来事、
但過書・上荷・茶船・剣先、其外小船共、火事場之者頼候ハヽ、荷物を積、火事場之近辺ニかけ
置、火事鎮候而、荷主差図次第可相届事
慶安二年五月十九日　隼人
丹波

一、上荷船、従一洲大坂中船宿迄、米壱斗五升
一、伝法并木津川之よしはつれゟ大坂中船着迄、同八升
一、木津川之番所并小道ゟ大坂中船着迄、同六升
一、土佐堀・江戸堀・京町堀ゟ
上堀川中　米四升五合
京橋迄　同　五升
天満町中　同　四升
北浜中　同三升五合
一、七郎右衛門堀西橋筑前橋ゟ
上堀川　四升
京橋　四升五合

天ま中　三升五合
北浜中　三升
一、梅檀木上下ゟ
上堀川　三升
天ま中　三升
京橋　四升
一、上堀川中ゟ
天満中　米三升
京橋　同三升五合
一、長堀川ゟ
天ま中　五升
北浜中　四升五合
上堀川中　四升
京橋迄　六升
七郎右衛門堀中三升
土佐堀中　四升
一、上堀川中ゟ　下荷物
博労迄　五升
伝法迄　六升五合

一、北浜中ゟ　　下荷物
博労迄　　四升五合
伝法迄　　五升
一、大坂中ゟ　堺津迄　　銀三匁
一、同所ゟ　尼崎迄　　銀弐匁
一、壱艘之荷物、所々ニ有之共、荷主次第積可申事
一、於川口并大坂町中ニ、壱番船・弐番船之差別なく、荷主可為相対次第事
一、田舎船、川口へ入候刻、大風吹候時、無油断上荷船可出之事
一、船破損之時分は、無油断上荷船を出し、人を助ケ、并荷物を取揚、荷主へ可相渡候事
一、同破損之時、荷物隠置間敷事
右上荷船運賃直段可相守、此旨仍如件者成也
寛永四正月十一日

定

一、過書船伏見ゟ夜船ニて下り候時、大坂ニ而夜明候而船を着、荷物致穿鑿、船ゟ可揚事
一、船中ニ不実成者有之ハ、加子共相改、大坂八軒屋何方ニ而も船を着、所々之者出入留置可申来事
一、加子共致盗ハ、同船之加子共穿鑿致、可捕来、之(ママ)於取逃ハ、舟主其者を可尋出事
右可相守、此旨若令違背、夜中船を着、盗人於有之ハ、其船之加子籠舎可申付事、依而如件

慶安弐年十二月　隼人
丹波

上荷船御仕置之事
条々

一、上荷船・茶船、運賃其外可申事、御制札之旨於違背ハ、或は籠舎、或可為過料事
一、当地町中并伝法・三軒屋・木津・難波・野田・福島、其外何方之船ニ而も於盗取ハ、後日聞候共、如御制札其者ハ死罪、其所ハ過料家毎ニ銭百文つゝ可出之事
一、上荷茶船之者、組中ニ而荷物盗取候者、見聞次第可申出、於隠置は家壱軒ニ銭百文つゝ可取之、中間ゟ於申出は、其科人斗御制札之通可申付、組中過銭可免之事
一、夜中上荷茶船を借り、悪事仕者有之ニおゐてハ、舟主可為同罪事
一、上荷茶船賃をたがはり、剰他之船を妨之儀可為曲事事、借り候者相対次第可仕事
一、楽仲ニ船をかけ有之而、船ゟ船へ荷物売候儀可為曲事、若令違背於売買致候者も買候者も可為同罪事
一、於浦々御制札之旨令違背、破損船有之付、助船を不出、礼物を取、令難渋者帰帆之刻可申聞、鳥羽ゟ上方其所へ此方ゟ相断、同所ゟ下ハ江戸へ可申上事
一、順風無之、於船中日数送り、糧米ニつまり候付、何方ニ而も湊へ上り買可申、但其所ニ売米無之時ハ船中之米を取遣、荷物取上之所ニ可致返弁事

西国年季

右船宿手形

一、私共船宿仕候ニ付、船頭加子年季之男女乗せ下候者御座候ハヽ、其蔵屋敷へ申断、蔵元衆之手形を取、差上可申候、蔵屋敷へ無断年季之者差下シ候ハヽ、船宿者不及申、五人組共曲事ニ可被仰付候、仍如件

寛永二十申七月廿二日

覚

大坂天満町中ニ近年川御座船多出来、淀川筋伏見迄人を乗上り候ニ付、過書中思惑申之由、今度木村惣右衛門、角倉与市被申聞候、右川筋之儀は御朱印有之而、過書船之外運賃船猥ニ不上筈ニ候所、密ニ人を乗上り候儀不届ニ候、向後不依侍ニ、何者伏見へ之川御座舟一切借し申間敷候、但過書中ゟ借候ハヽ、可為相対候

右之通於相背ハ、穿鑿之上、急度可申付者也

延宝弐五月朔日　石見

大坂天ま中

一、大坂川口ニて極印無之船ニ荷物積候儀、前々ゟ停止之所、比日猥ニ荷物積候由相聞は不届ニ候、向後極印無之船ニ荷物積候ハヽ、縦蔵屋敷所持之船たりといふ共、見合次第無用捨可申付候間、此旨町中可触知者也

正徳四午三月廿一日

右之通先年先奉行相触候、弥無相違相守候様、三郷町中可触知者也

元文三午七月廿九日　淡路
美濃

諸国ゟ大坂へ廻船弐百石以上之廻船、何連之国之船・石数・船主・船頭之名弁、江戸へも相廻り候哉、不相廻候哉之訳相尋、壱ヶ月切ニ帳面ニ書記、翌月六日廻船会所へ可差出旨、享保十二年未七月相触、問屋船宿ゟ書出来候所、此節ニ至り右断不沙汰ニ相聞、不埒ニ候儀ニ付、弥念入相改、無違様ニ帳面ニ誌置、船問屋・船宿名印并其町年寄加印ニて、月ニ廻船会所へ可差出候

一、大坂三郷ニ有之諸国廻船船問屋・船宿、何町誰・何連之国船問屋・船宿仕候訳書付、其町年寄名印来ル十八日廻船会所へ可差出候

寛保弐戌六月十一日

米穀京都へ積登せ候上問屋廿壱人、外ニ拾三人上積組合仲間ニ申付候間、右之外之者・上積致候義仕間敷候、米上積致度者者、廿壱軒之上問屋ニ頼可積送旨、享保廿卯十二月申渡置候所、近来猥ニ成、外・・会直積又ハ当地・近在へ米出シ置、其在・・上積致候族も有之様ニ相聞、不埒之至りニて、以来右程之義於相知者、急度可令沙汰候条、弥先年申渡置候儀可相守之旨、三郷町中可触知者也

寛保三亥年九月十二日

於当地ニ御払米京都伏見鳥羽辺へ専積登売捌候事ニ候所、享保二十卯年上積問屋極候以来米屋共直積難成ニ付、入札之者上積口銭程は下直ニ相積り、其上米屋共直積難成候故、御払米捌方指支ニ成

候条、向後は御払米之分斗上積問屋ニ不相拘直積可為勝手次第候、米屋とも其旨を心得、御払米入札可仕候
右之通三郷町中可触知者也
延享二年丑四月

覚

一、田舎船・地廻船并他所他国船共、当地名代ニ而相働せ候者有之候、町々弐百石以上之分入船有無之書付、毎月六日十六日廿六日三度つゝ御断申上候様、先達而従御番所被仰出奉承知仕、是迄有無共毎月御断申上候、然ル所私丁内ニ問屋御座候得共、弐百石以上之廻船着候問屋船宿尤廻船持も無御座候、毎月三度つゝ御断之儀御用捨被成下候様奉願、自今以後弐百石以上之廻船着候歟、又ハ所持之者ニ而も出来仕候ハゝ、早速御断可申上候、勿論年寄代り抔有之候ハゝ、是又早速御断可申上候間、願之通御聞届被下候様奉願上候、以上
延享二年丑五月十六日　何町年寄何印
廻船御年寄中

浦賀船積通船之儀、先年被仰出有之相止候品も此度前々之通通船、左之通
一、石手水鉢・石磨・燻七輪・乃ほり・甲・菖蒲・刀・破磨・雛・数寄屋道具、但右之品々通船是迄之通
一、湯風呂炉・土付之芝・庭石・砂利・植木類・鼓・太鼓・笛・琴・三味線・碁盤・将棋盤・双六盤・鳥籠類

此類ハ享保五年以来通船相止候所、向後武器之外は、古来之通何ニ而も可致通船事
右之趣、従江戸被仰下候条、三郷町中可触知者也
延享四卯年四月九日　周防
筑後

覚

一、去午年中、大坂へ到着候弐百石以上之廻船之分、荷物・から船共、船主・船頭之名書付、可差出事
一、大名衆諸荷物積候廻船、并手船ニ而も、弐百石以上之廻船、去午年名代丁人ゟ可書出事
右之通書付、廻船会所へ来ル十五日迄持参可仕候、此旨三郷町中可触知者也
未五月　飛騨
日向

諸国ゟ大坂へ廻着弐百石以上廻船、何連之国之船・石数・舟主・船頭名、并江戸へも相廻候哉、不相廻候哉相尋、壱月切帳面ニ書記、翌月六日廻船会所へ可差出事
一、大坂三郷ニ有之諸国廻船之船問屋船宿、何町何連之国之舟問屋船宿仕候訳書付、来ル十日迄ニ廻船会所へ可差出事
右之通三郷町中可相触者也
未七月　飛騨
日向

右之通享保十二未五月、同七月、触書指出候、其後心得違相改候所ニ、年月経候ゆへ心得違候類も有之趣ニ相聞候間、先年相触候通心得、町々年寄遂吟味、不洩様ニ廻船会所へ可断出者也

宝暦元未十一月　遠江
周防

今度渡辺民部・奥谷半四郎方ニ而、地廻船田舎船とも、当着入津船高、壱ヶ月ニ三度つゝ改有之候間、諸国ゟ当地入津之分、向後毎月六日・十六日・廿六日、三度宛廻船会所へ相断可申候、尤前月迄之入船、壱町限り相改有無共書付、壱町切町年寄印形致し、丁代可有持参候様ニ三郷町中可触候、以上

延享元子年十一月

大坂惣川船支配
過書役所　大川町
木村宗右衛門手代　今村定右衛門
角倉与市手代　広瀬源右衛門

大坂年寄九人有

平田船番所役人　弐人

枚方船番所　木村　手代　弐人
　　角倉
同所過書役　壱人
同組頭　　弐人
伏見番所　木村　手代　弐人
　　角倉
同　過書役人　三人
同　組頭　　六人
淀船番所　　同断

過書船弐百石ゟ三十石積迄
　惣船数　七百四十艘
　外、淀住船持廿石積船　五百七艘
　　但淀上荷之事也
　伏見船　弐百艘

御極印上荷茶船
　会所　富島二丁目
　　天満桶上町

七村上荷船　九百廿艘
組頭二人　筆頭有之

中船上荷船　六百七十弐艘
組頭十四人　筆頭有之

茶船　千三十一艘
組頭二十人　筆頭有之

新上荷茶船　上荷　三百艘
茶船　弐百艘

堀江船　五百艘
上荷茶船仲間支配

上荷茶船惣合　三千六百廿三艘

剣先船　会所　天満瀧川町
鳥居筋会所守七郎兵衛

古剣先　弐百十一艘

新剣先　百艘
井路川剣先　九十艘
組頭筆頭五人

柏原船　会所　天ま堀川
七十艘
年寄組頭弐人

屋形船　百艘　内淡路町壱丁目
扇屋平助
年寄組頭有

土船　廿六艘　年寄壱人
砂船　百六十八艘　同
石船　十八艘
勧進船　三十艘
水茶船　五艘
伝法船

尼崎船

伏見伝船　百二十五艘
渡シ船　十石ゟ十五石迄
五十六艘
猟船　五百十八艘
田舎ちよき船　卅五艘
生魚船　十艘
船数合九百六十四艘

西宮
廻船　六艘　四十石ゟ百九十石迄
網船　七艘　廿石・廿五石迄
大坂渡海船　三十三艘
一艇船　廿五艘
合七十五艘

兵庫
廻船　三艘　百五十石ゟ六百石迄
上荷船　百九十五艘　卅石ゟ百石迄
大坂渡海船　二十七艘
田舎生魚船　三十七艘

猟船　　五百十九艘
〆七百八十一艘

廻船　大坂年寄
　島町　　升屋九郎右衛門
　堂島四丁目　大嶋長兵衛
　天ま十一丁目　桑名屋仁兵衛
　せと物町　大津屋長兵衛
　新戎町　唐金や助九郎
　権右衛門町　顕屋庄太郎

廻船会所　阿波町ニ有
　惣代　治助
　　平助

廻船往来手形ハ
　船主住所之
国主領主地頭
御代官所
　御内御役人連判手形、廻船壱艘に壱枚宛、船頭所持致し、往船致スとの事ニ候

一、川面遊山船へ、橋之上・浜側ゟ礫泥抔打掛ケ、悪口致間敷との被仰渡、宝暦三酉年七月

一、通イ船を借し舟ニ致間敷段、被仰渡
　右同年九月

一、両川口諸船入津出船之度毎ニ、舟之石数壱石ニ付三銭之石銭相納候様ニ被仰渡、宝暦六年子正月ゟ

一、川面遊山船へ礫泥抔打つけ、悪口狼籍仕間敷旨、先達而之通御停止之旨
　丑三月被仰渡

一、通ひ船を借船ニ致間敷旨被仰渡
　丑三月

一、筏之儀拾間を限、間数延し筏之上ニ荷物積候儀、致間敷旨被仰渡
　宝暦七丑年四月

西国年季仕置

一、男女共年季者、国元へ抱下シ候儀御座候は、蔵屋敷罷有候我等共ニ申断、召連参候様ニ国元へ申合、無断不抱下候様ニ可申付事

一、年季者抱国元へ召し連れ罷下リ候ハヽ、奉公人ハ不及申、町人・百姓・船頭・加子ニ至迄、我等共請人以下穿鑿仕、年季拾年之外、抱不申様ニ致吟味、差下シ可申候事

一、我等共ニ不申聞、年季之もの抱下候ハヽ、縦従公儀御穿鑿無御座候共、聞付次第可申上事

右之通違背不仕様ニ可申付候、我等替リ罷下リ者、代リ之者ニ此趣慥ニ可申渡候、仍如件

寛永二十申七月廿三日

右同船宿手形

一、私共船宿仕候ニ付、船頭・加子、年季之男女乗せ下候者御座候ハヽ、其蔵屋敷へ申断、蔵屋敷衆之手形を取、差上可申候、蔵屋敷へ無断年季之者差下候ハヽ、船宿ハ不及申、五人組共曲事ニ可被仰付候、仍如件

申七月廿二日

川筋之事

一、川中ニ竹木船板等差置申間敷事

一、川中水口船繋出し申間敷事
一、橋柱并舟繋柱・同綱ニ流掛リ候芥、其町々又ハ船之者共、早速取払可申事
一、浜側納屋境ニ水たゝき、石垣際迄垣を結切候所々有之由、取払可申事
一、浜側納屋下ニ何ニ、而も積置申間敷事
右之通、前々相触候得共、頃日猥ニ成候由相聞へ候、川筋役人相廻シ、可相改候間、常々油断不仕様ニ三郷町中可触知者也
宝永二年酉六月十五日　大隅
泉

浜側
浜納屋

大坂浜側之町々へ被仰渡候ハ、向後浜ニ家作致し、火をたき候儀、其外万事本家同時ニ御赦免之由、依之壱坪ニ付めうが銀指出候儀、町人共勝手不勝手之訳明四日四つ時迄ニ浜側申合、御返答申上候様被仰渡候、以上
延享元子年二月三日

三郷川筋浜納屋之儀、往古ゟ致住宅、竈居へ火焼候儀、御停止ニ候得共、向後御差免、所々善悪随ひ、一坪ニ何程之冥加銀差出候様被仰付候、納屋持町、人勝手不勝手之儀、様子承糺、申出候様被仰渡候
右浜納屋之儀は、元来公儀御地面之事ニ候得共、度々願人有之候、願人へ被仰付、其者へ致相対候

様ニ有之候而は、納屋持町人不勝手ニ可有之候、然共公儀御益を申立、相願候者有之、於江戸御聞届被仰越候上ハ、町人不勝手筋ニ而も御用捨難被成事ニ候、冥加銀差出置候得ハ、此已後何用之願人有之候而も御取上無之、左候得は、納屋持町人永々安堵致候為ニも可相成思召候趣、御役人中此方共被仰聞、尤此度新規ニ冥加銀差出候儀、難儀之様子ニ相聞エ候共、浜納屋住宅御免候得は、本家同前ニ相成候、納屋持町人勝手ニ可相成筋ニ候、右之意味相老候得は、難有思召ニ候間、此段とくと可被申含候、尤当時有来浜納屋計之儀ニ而は無之、浜先物干場は勿論、商売物差置、明キ有之所ニ而も住宅御免之積リ候、右之返答之趣、書付此方共三人宛名致し、年寄・月行司印形ニて、明四日四つ時、南組惣会所へ年寄可有持参候

子二月

住吉屋籐左衛門
安井九兵衛
中村左小右衛門

右之通、浜側町々へ計被仰渡候所、難有と申返答申上候様聞及候

一、去ル子年、両川口普請ニ付、出入石ニ付三銭ツヽ石銭被仰付置候所、今宝暦九卯五月限り御差止

一、川々かせ場と唱ヱ、上荷茶船働及争論、御吟味之上、以来互ニ差障リ無之様ニ、舟乗・荷主互ニ是迄之通ニ可致之趣、今宝暦十辰年四月被仰渡

家請人之事

近年借家人家賃銀滞候家持之儀訴多、其外不埒之品共有之候ニ付、此度大坂町中家請人之儀、別紙五十三人之者共依頼を申付候、仕形之義は別紙之通ニ候間、此旨三郷町中致承知、尤家請商売之者共、右五十三人之外、一切無之様ニ可申渡候

子正月

日向守様
淡路守様　御時代

差上申一札

一、大坂町中借家請人之儀、此度私共願上、願之通被仰付、借家明ケ退、私共方へ引取候者入置候ため、大坂町中ニ而小屋場壱ヶ所、私共ゟ借り請、右小屋ニ引取人共入置候義、御聞届被下候事

一、家請之義、親類又ハ懇意之間柄ニ而請判仕候分、私共少も差構申間敷候事

但、判賃取候斗家請商売之様ニ仕候者ハ、私共之外御差留被下候事

一、請判形致シ刻、親類有之者ハ不及申、無縁之者もしるへ之者ゟ下請合を取、是迄判形到来り候、弥向後相改下請合を取、紛敷儀無之様ニ可仕候、私共所々ニ組合を極置、互ニ吟味仕、諸事不筋之儀無之様ニ可仕事

一、家主ゟ借家明させ、借家人当地ニ所縁無之、老人・病人・おさなき之類、当日を送り急候者は右小屋ニ入置、惣家請として盲可申候、尤親類又ハ下請等有之者ハ、其方へ相渡シ可申候、然共万一親類下請等も当分指支有之、及難渋候ハヽ、先私共方へ引受、小屋入置、重而其者勝手次第

借家致させ、何分借家明之御願請不申様ニ可仕事

一、惣而家明候願可申儀、改来候ハヽ、組合之請人共立会、何方へ来共引越させ、家明御願受不申様ニ可仕事

一、家主ゟ借入用ニ付、家明之義申来候は、早速家明させ可申候、自然借や人、家主へ対シ不埒之品抔有之ニ付、家主ゟ家明之儀申来り候ハヽ、依品ニ家主へ相詑遣し、家主改心候ハヽ其侭差置、不改心ニ候ハヽ家明之願請不申様ニ、家明させ可申候事

一、家賃銀相滞り、家明之義申来候ハヽ、家賃銀は其請人ゟ相弁可申候、若不埒ニ候ハヽ、相残ル惣仲間之者共ゟ急度相立、借家人は勿論私共方へ引請、家主ゟ之願請不申様ニ可仕事

一、惣而小屋へ引取入置候者之儀、憐愍之加へ養育仕、不仁之仕形仕間敷事

一、私共家請ニ相立候借家人より請候判銭之儀、表店借り相応ニ暮シ居候者、壱節季ニ四十文宛、壱ヶ年ニ弐百文、表店ニ而も軽暮シ候者は壱節季ニ弐十文宛、壱ヶ年百文、裏店ニ居申候者ハ壱節季ニ十六文宛、壱ヶ年ニ八十文、請取之来り候、此外ハ其者心任せ次第請来り候、貧暮候者ハ、判銭ハ用捨仕来り候、此已後も右之通ハ請取、右之外一銭も貪りヶ間敷儀、曽而仕間敷候、且又只今迄右書面ゟ判賃無数渡シ来候者は、此分ハ只今迄之通判銭請取之、少も相増申間敷事

一、私共方へ引請候者、小屋へ入置候者共、万一御尋之義御座候節ハ、早速召連、罷出可申候、為其小屋支配人付置、引取候者共帳面ニ記置、先々へ引請渡シ候者は行先付ケ置、又ハ他所へ引裁候者ハ御断申上、御番諸引裁帳ニ付ケ可申事、仲間仕形不埒之者有之候ハヽ、互ニ吟味仕、御改申上、仲間除キ可申候事、

右之通、少も違背不仕、勿論貪りヶ間敷義仕間敷候、自然相背者有之候ハヽ、如何様之裁度ニも可被仰付候、為後日連判仍如件

享保十七子正月
五十三人連判
名有之
御奉行所
右正月晦日ニ町触有之候

又右五十三人と一同ニ御願ニ可出請商売之者弐十八人、家請家業ニ致候義を段々御願申上候ニ付、御聞届ニて、五十三人之内ゟ加印を以家請商売可致之御免ニて、此弐十八人も相加り諸事仕形は同前ニ候趣之御触書、右同年四月ニ町触被仰出候

右五十三人
又弐十八人
会所は
亀井町ニ有

右会所へ当番之請人詰居申候
一、家明届度家主、口上書致、其明させ度者之家請状相添へ右会所へ指出シ、以後ハ則廿日切家明候趣、指紙を家主ニ指せ戻シ申候
則家明届之口々、毎日登板之請人立会、右会所ニて認、毎日切ニ御番所へ帳面上ル、御公儀公事訴訟日ニは、家明届ケ会所ニて聞届ケ不申候、御用を除外之日は毎日四ツ時迄
家明弐度届ハ十日切、三度目ハ五日切、其上ニ而も明ケ不申候得ハ、請人より御番所へ御改申上、

御指図有之候

金銀出入訴状、相手之方へ遣候節、家主家明之儀、家請会所へ届ケ置候由申立、訴状不請類、遂吟味候所、借家借り直シ家明届ケ致置候族有之候、家入用ニも無之内、外金銀出入を不引請ため馴合、右之仕形致置候と相聞え候、不実之事ニ候、借家借り無間、家明申届候類、向後吟味之上、先訴ニ不相立候条、急度可相心得候

右之趣、三郷町中可相触者也

寛保元酉十月

家持之町人存知寄書

何町

一、家持之町人共、借家貸候ニ付、家請人有之方、勝手宜候歟、又ハ一向無之候共、差支無義之哉、之訳、御尋被為成候ニ付、左ニ奉申上候

一、家主共ハ是迄之通、家請人御座候方、家明等之節、勝手宜奉存候、併借屋人ゟ家請人へ取集候判賃、向後下置ニ致、借屋貸借り其外家明等之節、家主手支不致之様ニ、やはり是迄之通家請人へ致仰付被下度奉願上候、以上

右之通、宜被仰上被下度奉願候、以上

何町丁人不残

連判

宝暦九年

卯三月九日

惣御年寄中

借屋人存知寄書

何町

一、此度家請之願有之、借屋人ゟ出銭減少致し、下請をも取申間敷旨御願申上候故、やはり家請人有之方勝手宜候哉、又ハ一向無之候共差支等無之哉と御尋ニ御座候ニ付、左ニ奉申上候

一、定り之家請人御座候方宜奉存候、一向無之、往古之通ニ而ハ、可頼知音之者、早速才覚難仕者ハ、宅替之砌差支之程難斗奉存候、然ハ只今迄之家請人、以来下請不取判賃減少ニ成候様被為仰付被下、やはり是迄之家請人御座候方、借屋人共勝手宜御座候

右之趣、乍憚宜敷被仰上被下候様奉願上候、以上

宝暦九年卯三月九日

借屋人不残

連判

惣御年寄中

四十七

床髪結之事

合百六十人　但組頭拾人有是ゟ惣仲間支配致ス

番頭廿人有

昼夜七人宛、牢屋敷へ詰、牢舎人朝夕給物はこひ、拷問之働、又は囚人御役所へ参候縄取、又ハ棒突、并訴人ニ出候縄取等相勤候事

一、牢屋破損修復有之付、諸職人願ニ依テ、科軽キ牢舎人御免候例也、牢舎人三月廿日ゟ八月廿日迄、御精進日毎ニ行水被仰付、此節見申四人罷出、又牢屋敷之掃除毎月六日宛、穢多村共罷出相勤申候、又御仕置者有之節、穢多共取捌仕候事

一、大坂三郷町中ニ抱置候髪結之外、賃銭を取、内仕事致候者有之、床髪結共渡世之妨ケニ成、難儀之趣願出候、前々ゟ度々指留申渡候之所、不相止族有之段相聞え不届ニ候、此已後ニも右之類有之候ハヽ、急度可申渡事

右之趣、三郷町中へ可相觸者也

元文五申六月十六日

床髪結并三郷町々ニ抱置候髪結之外、内仕事と名付、髪月代致候者有之ニ付、床髪結共仕事無数、及困窮ニ、毎度願出候ニ付、内仕事致間敷段、度ゝ相触候得共、今以不相止族有之不届ニ候、依之向後髪月代内仕事致候者有之は、見合次第召捕可来候旨、床髪結共へ申渡候間、吟味之上、家主年寄迄も急度越度ニ可申付候、町々并裏借屋等迄此旨可申聞候

右之通三郷町中可觸知者也

寛保元酉年七月六日

又寛延二巳正月ニ、右同様之被仰出ニ候

又内仕事之無用旨宝暦九卯年四月

床髪結
本株百七十軒
又野床十五軒
一組十七人の内壱人（ママ）頭　壱人　番頭　弐人
外ニ堀江床廿軒
本番七人宛相勤ル

旅籠屋

一、八軒屋・長町旅籠屋之外、町中ニ旅籠を致、人宿仕候儀、先年ゟ御法度之旨、丁々承罷有之事
一、近年八軒屋・長町之外、表向は商売之見世を出シ、内証は旅籠仕候而人宿致者御座候様ニ此頃被聞召上、曲事ニ被思召候間、左様之者御座候ハヽ、年寄・五人組・家主、何様ニも曲事ニ可被仰付候事
一、隠候而旅籠宿仕候者御座候は、八軒屋・長町之者共見出候様ニ被仰付候由、奉得其意候事
右之通相背申間敷候、向後夜昼ニよらす旅籠ニて人宿仕候ハヽ、其身之家屋敷御欠所、借屋之者は財宝并其家主之家御欠所被仰付候、旅籠仕候者は大坂御払、五人組・年寄は御籠舎可被仰付旨奉畏候、為後日仍如件

万治二巳亥年四月六日

旅籠屋仕置之事

一、壱人者、奉之人ニ而も町人ニ而も、一夜は宿を可借之、壱人者一日も逗留致させ候ハゝ可為曲事事

一、雖為弐人三人、不審成者来ハ、宿を借置、此方へ宿主壱人ひそかニ可申来事

一、手負之者来ハ留置、急度可申来事

右之通申出候上ハ、壱人者ニ宿借シ、雖為其者科人、一夜之宿は宿主可令赦免、為致逗留候ハゝ、不可遁其科、飛脚其外壱人ハ往還為自由、如此申出者也

丑八月四日

一、帯刀之者、旅籠屋ニ一宿之儀ハ、是迄之通相心得、不念無之様ニ可致事

元文三午九月御触書之内ニ被仰出候

四十六

芝居仕置之事

一、奉公人、木戸銭を不出者、芝居へ入間敷候、奉行所之名を借り理不尽ニはいるへきと申者は、侍ニ而も小者ニ而も可捕来、但手むかひ候ものハ留置、可致注進事

一、御城番衆之目付ハ芝居之者能可見知置、其上主人之札を持参候間相改、札も無之目付之由申者ハ押置、御定番衆目付之方へ早々可注進、又札ニ不審有之は可為同前事

一、御定番衆・御加番衆之目付、是も芝居へ用之儀有之時ハ木戸銭を不取之、其外木戸銭を不出入り候者ハ狼籍者之条、可捕参事

右此方之目付を出候間、芝居之者見のかし令用捨は、不残芝居可払之条、狼籍者有之時は隣之芝居之者出入可情(ママ)出者也

辰六月五日

右同断差上手形之事

一、勧進能桟敷を借り候ハヽ、改申上、其上御意次第借し可申事、

一、あやつり大坂ニ従前々有付罷有候ものハ、芝居借し可申候、他所ゟ参候者ニハ芝居を借シ申間敷事

一、勧進相撲之桟敷、一円借シ申間敷候

右之通、相背候ハ々私共屋敷を可被召上候、為後日仍如件

慶安元五月二日

大坂

芝居数拾八軒

銭湯之事

三郷町中ニおゐて銭湯渡世候者多、湯屋株之者差構ニ相成、及難儀候段訴出候、湯屋株無之者、人集致し銭を取、湯ニ入候事仕間敷候旨、四年以前寅十一月相触候所、又々猥ニ相成、湯屋株之者及難儀候由訴出候、不埒之事ニ候、湯屋仲ヶ間之外、右渡世不相成義ニ候間、此段年寄丁人令承知、末々迄心得違無之様可取斗事

右之通三郷町中可触知者也

寛延二巳十二月

湯風呂株
合弐十弐
年寄壱人　玉屋町
扇屋源兵衛

宝暦十年辰正月再御触

町方家作

一、家主ニ出入有之家并地形築上候普請之儀は、断来差図を請、作事可仕事
一、格子之下おたれ下ニ壁を付、又ハ竹垣かこひ抔ニいたし、屋敷之内へ仕込申間敷事
一、附り、格子幅ハ間中三つ折、おたれ幅ハ通り筋四尺八寸、横町ハ四尺五寸之定ニ候事
一、有来本家并借屋つふし、桁行長キ土蔵又ハ物置抔を建、壁をぬり切候普請ハ断来へし、吟味之上可申付事

右之趣、先年ゟ町中へ申渡といへ共、近年猥ニ有之様相聞え、向後普請以前急度申来へし、相背者於有之は、普請之場所をつふし、普請主は不及申、町之年寄越度可申付候条、此旨三郷町中可触知者也

元禄十丑二月朔日

一、町人屋敷を買、又ハ譲り請候者、町之年寄申合、水帳持参、番所之水帳ニ引合、可致名判候、但他所他国之者ハ、家守可罷出事

右同年月日

一、三階仕間敷事、并身上ニ過結構成作事。仕間敷事

慶安元子年四月五日御触ニ有之

一、町人家作致、軽少たけし、杉戸・付書院・くしかた・彫物・組物無用、床・縁・さん・かまち

塗候事、并唐紙張付停止之事
附、遊山船金銀之紋・床敷之内、絵書申間敷事
一、嫁取娶之刻、万事軽可仕事
附、刀脇指出候儀、無用事
一、町人衣類上下、雖其分限、倹約を相守可着、毛織之羽織弥堅無用之事
附り、召仕之者其外軽職人、麁相成衣類可着事
右ハ寛文十三丑年正月十一日
其後　正月十一日御触ニ有之

一、町屋普請仕候内、表かへ付、土竹木指置候共、道せはき様子ニ仕間敷候、普請仕舞候後ハ早速取除ケ可申事
天和貞享年中　伊予

一、町中家作之儀、軒下ニ柱を建、又ハ壁を付、竹冊等致候儀は無之筈之所、近来猥ニ相成、右之類有之由相聞え候、弥右之類無之様ニ可仕候、於有之は、連々ニ取払可申候、尤以後致普請候者、右之通相心得、猥之儀無之様ニ可申渡候事
享保十六亥二月　日向
淡路

一、町中家普請之節、家下斗地形を築上、大道ハひきく、水道悪敷成、雨降候得ハ水溜り、雨止候

而も乾兼、往来之もの難儀致し候由相聞候間、溝をさらへ、大道地形をもならし、水溜さる様ニ致、往来之者難儀不致様ニ可仕候、右之通三郷町中可触知者也

享保十六亥四月　日向

淡路

一、町中家作之儀、御定法を以被仰付置候所、近年猥ニ相成、家造之節、大道ニ不構、家下之地上ケ致し候家、片側はひきく、片側は高く相成候所相見得候、且又軒下ニ柱を立、壁を付、駒寄・竹囲等致候所相見得候、町並見苦敷候、軒下之義も右之類仕間敷之由兼而被仰付、先年も御制禁致成候所、心得違、右之類多候間、向後御定法之通相心得、是迄有来候分ハ急々ニ取払直シ候ニ不及、連々ニ直シ候様ニ可仕候

但大道等直シ候共、前々之通一分ニ仕間敷候、尤可訴出事ニ候

一、十五年以前町中大火迄は、町境木戸悉ク有之候所、大火以後年久敷木戸不致指置候町々有之、不埒之候間、木戸無之町々は木戸可仕候

一、町中魚青物商売之者、庇ゟ外へ莚抔ニ而目覆致候義、凡相応之致方可有之候、両側一ツニ続候様ニ仕、一向往来難成、妨ニ相成候趣ニ候間、向後ハ指構ニ不成様ニ可仕旨、右商売之者へ可申渡候

一、町中ニおゐてきせるくわへ歩行仕間敷由、前年申渡置候所、此節猥ニ相成候様ニ相聞候、弥先達而申付置候通、可相守候

一、町中家々ニ井戸有之分ハ、門口ニ井之字之印致し置可申候、出火等之節、水汲せ候ため二先年申渡置候所、此節井之字之印張置候儀、不相見候得、先年申渡候通、家々之門口ニ張せ可置候

一、火事場へ役人之外、帯刀之者并町人共脇指をさし、出間敷由、前々ゟ申渡置候所、此節猥ニ成候様ニ相聞え候、急度可相守候

一、都而町人衣類之儀、御定法有之、七夕・八朔白帷子等着仕間敷候、結構之衣類を着候儀、并下女奉公人共不相応之衣服を着致不申様、前年申付置候所、猥ニ相成候風聞も有之間、弥相守可申候

右之通、三郷町中不洩様ニ可触知者也

元文三年午六月

町方家作之儀ハ、先年ゟ度々相触候事ニ候得ハ、格子下又ハおたれ下ニ壁を付、竹垣・板囲抔ニ致、屋敷之内へ仕込有之様ニ相見得候間、弥取払可申事

一、軒下駒寄堀込ニ致し指置候故、火事等之差構ニ相成候間、先年も相触候、弥堀込ニ致し有之は相直シ可申候、向後は堀込ニ不致、土台ニ仕、取置ニ成候様ニ致シ可差置候、尤駒寄致度者ハ可願出候、其品ニより吟味之上可申付候事

元文五申八月

町人作法　　家之事

五十二

一、町人召仕候者、絹布着申間敷事
一、町人刀脇差、金鍔を掛ケ結構成拵、無用之事
　附り、長脇差同前之事
一、町人羅紗之類合羽無用之事
一、町人振舞、二汁五菜酒三度、不断之寄会一汁三菜可為事
一、蒔絵之家具并木具無用之事
一、聟取嫁取、身体ゟ物毎軽可仕事
一、衣類万事可致麁相事
一、乗掛ふとん、細毛綿・毛氈之外無用之事
一、作事ニ付金銀之箔の類、少も付ケ申間敷事
一、町人乗物之事、但六十以上可為事
一、五月甲結構成立物致間敷事
一、絹布之小簇仕間敷事
一、七月灯籠・つくり物、其外結講ニ仕間敷事
一、足袋・せつたニ箔を付申間敷事
一、葬礼美麗を好、金銀ちりはめ、結講成儀式仕間敷事
　但、日中葬礼無用ニ以、日暮時分可致事
一、門立チ致、道を通ル女ニされことを申掛ル者於有之ハ、急度牢舎可申付事
一、夜更町をあるき、門を明させ、夜番遅ク出候とて打擲仕候者、見合次第ニ捕可来候、穿鑿之上死罪又ハ穿舎可申付事

一、従先年御法度之通、町中ニ不審成者罷有候ハヽ、町々年寄・月行司、無由断借屋末々迄相改、早速可申来、隠置脇ゟ相知候ハヽ、年寄・月行司・五人組可為曲事事

一、町々借屋之者ニ寺請状、并借屋請状、念入取置可申事

一、顔をふかく包隠候者、見合に捕候得と申付候間、丁人・子共并召仕、下々迄申合、可相守事

一、傾城町ニ而致喧嘩、被切殺候者、死損可為間、改申来間敷事

慶安元子四月五日　孫大夫

丹波

一、袴摺之事、惣年寄ニハ無之事ニ候、左候上ハ惣町中ニ居年寄持為候上は、町中ゟ夫々ニ見合、祝儀令迄も有之事ニ候ハヽ、其分ニ被仕、尤ニ候、年寄も祝儀請可被申候、但シ過分之儀は斟酌候而可然候事

一、家売買帳切銀・顔見世銀、年寄手前ニ願不申、町中へ相渡可申事

一、町々入用銀は、其町中年寄・月行司立会、算用可被致候、年寄壱人之請払被致候事、可為越度事、右入用銀請払算用之儀、明細ニ致させ候様ニ年々申渡候得共、弥以為念申渡候事

慶安元子四月五日　孫大夫

丹波

一、町人若者武芸を嗜、家職を疎略ニ致候者可為曲事、法兵居合修業人、他所より来り弟子を取候者有之ハ、不可借宿住宅之、町人師を致ニおゐてハ、年寄五人組早々へ可申出、牢舎可申付事

未五月六日

一、嫁娶之刻、万事軽可仕事
　附、刀脇指出候儀、無用事
一、町人衣類上下、随其分限倹約を相守可着、毛織之羽織合羽弥無用之事
　附り、召仕之者其外軽職人、麁相成衣類可着事
一、町人振舞成程軽すへし、縦雖為有徳、二汁五菜不可過之、家督又ハ嫁娶之時は、年寄ニ可請差図事
一、金銀之唐紙・破魔弓・羽子板・雛道具・五月甲、金銀を押箔一円ニ無用之事
一、祭礼之渡もの結講ニすへからす、軽可仕事
一、葬礼仏事、雖為有徳之輩と、目ニ立さる様ニ成程軽可仕事
右之通、寛文十三年丑正月十一日申渡候趣、町中弥可相守者也
　辰正月十一日　壱岐

一、町々他町持銀并月行司銀取申事、向後無用、御宗旨御奉行衆ゟ可申渡旨、被仰渡候
一、家名代替之儀、去年八月廿八日、町々へ觸聞申候通、我家ニ而も無之を、我家之ことく仕候もの御座候分ハ、宗旨御奉行衆へ断可申候
一、町々ニ而私之法度を定申事、向後無用可致旨、宗旨御奉行衆被仰渡候
一、何軒役も家を買せ申間敷と申儀、向後無用致候、心得次第買せ可申候、但シ様子有之候ハゝ御広間へ窺可申候、其時之御差図向被成旨、被仰渡候事
　辰正月十一日　惣会所

覚

一、鉄砲之玉薬売買之儀ハ不及申ニ、預り置候儀も可為無用、但焔硝・硫黄致売買不苦候事

一、病人并酒酔有之節、町送りニ仕候ニ付、其者養生成兼、行先ニ而相果候も有之間、初之所ニ指置、正気付次第宿承届、其町ゟ彼者之宿へ申遣、請取ニ来次第相渡可遣事

一、町々年寄、家屋敷沽券状加判之儀、先年ゟ申出候、無之事ニ候、向後隣家之町人弐人并月行司可可（ママ）致加判事

附、書置状之加判も右同断

一、住宅之家主、十五歳以下之男女等代判之時可申事

一、代判有之家屋敷、質ニ入候共売候共、代判ニ而ハ証文仕間敷事

元和貞享年中　伊予

一、町中家屋敷買論之儀、先年申出ことく、年寄五人組へ早相断候者ニ買せ可申候、年寄五人組於前後依怙、穿鑿之上可為曲事事

一、直段之儀、売候者ハ身体ならす候ニ付、家屋敷を令沽却、所を立退キ候義ニ候間、少ニ而も高直ニ買候方へ売せ可申事

一、其丁内ニて直安ク売候家有之と言共、其例を不可引、其時之買主・売主可任相対、年寄五人組下直成家之例を申立妨ケ候儀、可為曲事事

右自今以後家之売買、年寄五人組并丁中妨候義有之ハ、急度牢舎可申付候条、家は相対ニ売せ、売券之判形無異儀調之可遣候、但買来ル輩何卒悪敷様子有之ハ、番所へ罷出其子細可申者也

巳七月二日　丹波

一、町人旅之外、大坂中ニ而昼夜共大脇指刀さし申間敷候、并召仕之若者・さうりとり、大脇指さし候儀、従此已後度々申付候、見合ニ捕籠舎可申付事

一、町人召仕之者、天鵞絨又ハ何ニ而も絹布之衣裳、并絹布之帯仕間敷候、度々相触候得共、違背之者有之は、見合ニ捕籠舎申付、其上主人ニ過料可申付事

一、町人乗物之年は六十以上之書出ニ候得共、惣年寄は五十以上、并法体之者乗可申候、其外平ノ町人は番所へ断来、其上乗可申候、無断猥ニ乗候者見合ニ過料可申付事

慶安元戊子年四月五日　孫太夫

丹波

一、町人馬ニ騎歩行候儀、前々ゟ御停止ニ候処、弥相守候様ニ、猶又此節被仰付奉畏候、私丁内急度申聞相守せ可申候、若於相背有之ニは急度越度ニ可被仰付旨、奉畏候、為後ハ町々年寄判形仍如件

元文三午二月十六日

一、都而町人衣類之儀、御定法有之、七夕・八朔白帷子等着仕間敷候、結講（ママ）之衣類を着候儀、并下女奉公人共不相応之衣類着致し不申様、前年申付置候所、猥ニ相成候風聞有之間、弥可相守者也

元文三午六月

一、於町中ニ家売買之節、売主・買主相対迄ニ而手付銀等相渡置、帳切之節、彼是難渋致候族有之様ニ相聞え候、向後手付銀相渡候節ハ、年寄・五人組加判証文を、以右銀相渡候様ニ可致事

元文三午六月八日

町中家作之儀は先年ゟ度々相触候事ニ候得共、格子之下又ハおたれ下ニ壁を付、竹垣・板囲ひ抔致、シ屋敷之内へ仕込有之様ニ相見得候間、弥取払可申事
是ハ家作之所ニ有

近来人馬と申様之曲致シ候、人集候ニ付真似候者多、其内ニは人柄宜からさる者も仕習ひ候ハヽ、不埒成儀も出来可申候間、向後人馬并人馬ニ付候軽業等之曲致候儀、停止可申付事
右之趣、於江戸被仰出候旨被仰下候ニ付、当表ニ而停止申付候、三郷町中可相触者也
元文五申九月　河内
美濃

一、丁人女房呼迎ひ候節、水あひせ又ハ右之儀ニ事よせ振舞致させ、或ハ金銀をねたりとり候者有之由相聞、不届ニ候、毎年申付候得共、弥相守可申事
一、町人女房呼迎候節、礫打候儀、前々ゟ停止申付候所、是又不相止不届ニ候、向後急度停止ニ申付候事
右之通、元禄八亥年相触候所、年久敷儀故覚違候哉、猥相成、近比右体之儀数度有之、不届之至ニ候、此以後相背候ハヽ、礫打候者之町年寄・家主へも急度咎可申候、尤石打候者有之節は、被石打候丁内之者立合、召捕可来候、みのかし聞のかしニ致候ハヽ、品ニより被石打候町中へも、急度可令沙汰候、此旨三郷町中可相触者也
寛保元年酉六月

家質之儀ニ付
不届者御仕置
聞書

覚

農人橋材木町　年寄
木屋武兵衛
泉屋八郎兵衛
大塚屋八郎右衛門
尾張や新右門家守
宇須や惣兵衛
河内屋八右衛門事
宗鑑
同　悴　徳右衛門
丁代　市郎兵衛

右七人ゟ預り銀并買掛リ預リ物等之儀、丁内家持・借屋吟味仕候
但何屋何右衛門ハ他国仕候
右之外家持・借屋ニ預り銀并預リ物買掛リ一切無御座候、以上

寛保元酉九月十六日　　年寄　名印

惣年寄中

聞覚書

右之者共申合、自身家屋敷ハ不及申ニ、右町之内、人之家を我家と申偽り、似せ巻を拵候而弐千四、五十貫目程家質銀借り取、此儀相顕候而牢舎被仰付候て、御吟味有之所、金山木山稼ニ右之銀入込、損亡之段申上、依之年寄木屋武兵衛・泉屋八郎兵衛・宇須屋惣兵衛・河内や八右衛門事宗かん、此四人酉三月廿三日、とひ田之墓所ニて

御仕置　　はり付ニ成

大塚屋八郎右衛門儀ハ右宗かん悴之由、元来親宗鑑仕業ニて八郎右衛門儀、木山稼ニ行候跡ニ而、得心なき八郎右衛門印形を親宗かん致置、山ゟ八郎右衛門罷帰り、親宗かんニ異見指加へ候得共、止事を不得して、親之儀故其侭ニ打置、我身退キ候由故、此八郎右衛門ハ

御仕置　　摂河御払之由

同徳右衛門儀ハ、親宗かん指図ニて右八郎右衛門ニ成代り、此事相顕候迄、無是悲印形致したる罪ニて、徳右衛門儀

御仕置　　流罪之由

丁代市郎兵衛儀、元来此不埒成事ハ親市兵衛と申者、右之人数申合せたる事ニ候所、市兵衛ハ三、四年以前ニ相果候、右悴市郎兵衛、当時丁代相勤居候所、右人数之者指図致候故、無是非右不届之

仕形と存知なから取計居候由風聞、市郎兵衛如何致たる事か、去申九月ニ我家ニ丁中と宛名之書置を残シ置、ちくてん致したる由、是より右之悪事相顕申候趣、町中之風聞ニ候、丁代市郎兵衛行衛不知由

口入之者余多有之上町之者壱人

御仕置　流罪之由

其之外色々之御仕置と申候

右之通ニて家質銀ハ弐千貫目余、不残銀主損ニ成、右之者共家屋敷は勿論、諸色負せ銀万事被召上候由

右之悪事ニて大坂町中そうとふ言語ニ難尽事ニ候

可嗜〳〵

寛保元年酉年三月

発ハ前年九月此之由申候

不届成ル

こわひ事

世上葬礼之節、金銀銭或ハ六道銭土中へ埋候事、無益之儀ニ付、兼々相止かたく可有之ニ付、其所

之寺院より右無益之道理、寄々旦方共へ説聞せ、土中へ埋候事相止させ候積りニ候
　戌四月
右之通、従江戸被仰下候条、三郷町中可相触者也
　寛保弐戌五月十三日　河内

丁人長キ脇指を帯候儀停止之旨、度々申渡候所、近比は猥ニ長キ脇指を帯候族有之様相聞え、不届之事ニ候、弥前々ゟ申渡置候趣相守、長キ脇指帯候儀、致間敷候、以上
右之通、三郷町中へ可申渡候、以上
　寛保三亥年五月

近来面体を隠し候頭巾を拵、途中ニ而かふり候者数多有之、奉行所ゟ尋者ニ紛敷候之間、前々ゟ有来候丸頭巾・角頭巾之外、一切かふり申間敷候
右之通、於江戸表ニ而も御触有之候条、此旨三郷町中可触知者也
　寛保三亥年十二月

先年ゟ町人馬ニ乗候儀停止申付置候所、近比猥ニ相成候段相聞え、不埒成儀ニ候、已来右体之者於有之ハ、急度可申付候、三郷町中可相触者也
　寛延二巳四月十九日

一、御番所へ丁人共ちりめん之羽織着致間敷候、此段兼而丁人共へ申聞置候様、惣年寄へ被仰付候、

寛延三午六月八日

一、女之櫛笄、大形成時花作候者も有之、鼈甲之善悪を令吟味、価高直ニ売出し、或は金銀之金物高蒔絵致し、其上前々は無之かんさし・櫛押抔と名付拵出シ、江戸国々迄差越シ候旨相聞え、不届之候、向後櫛笄古く之小形を可相用、其外之品は堅令停止候間、不可拵出、勿論有合候分は不可売出、此已後美麗ニ作候分も不可売出候、若有之ハ早々奉行所へ可訴出候、若相対ニ而売渡候者有之於相顕は、可為曲事候、此旨堅可相取者也

右之通、従　江戸被仰下候条、御書付之趣急度相守、心得違無之様ニ可致候、自然美麗之櫛笄作成候者於有之ハ、其所ニ而置奉行所へ可訴出旨、三郷町中裏店等之者ニ至迄、不洩様ニ可触知者也

寛保三亥年五月　河内
美濃

惣年寄中并町年寄

三郷町々へ懸り候人足賃銀其外出銀等、近年段々相増、町人共及難儀候趣ニ付、右出銀致減少候様ニ此節取斗候ニ付、惣年寄共随分相改、郷掛り銀余程減候、就中前々之惣年寄風俗儀不宜儀抔も有之趣ニ付、役儀勤候身分ニ而ハ有間敷事ニ候間、此度慎之義急度申渡候、若此已後、未熟之取斗ひ抔有之候ハ、町々年寄共無遠慮可申出候、尤町々年寄共儀も不筋之義は勿論、貪りヶ間敷義抔無之様ニ可得相心候、不埒之者於有之は急度可令沙汰条、此段可相心得候

右之通申渡候間、組合町々年寄共不洩様ニ可申通者也

延享二丑年七月

高津新地町数九丁々割南組郷ニ加り候間、古町同前ニ相心得候様ニ惣年寄口上ニ而被仰聞候、以上

延享二丑十一月六日

嫁取聟入

一、小田切喜兵衛様、三郷惣年寄被為召出御意候は、先年より度々被仰出候へ共、此頃町々猥之段ニ為聞召上、嫁取聟入之刻、石うちあはれ候ニ付、此度町々家持借屋下人等迄、判形取可申旨、急度被為仰付候

一、町内嫁取聟入石うち候事

一、隣町へ参りあはれ石うち候

一、他町ゟ踏込石うちあはれ候ハヽ、早々御番所へ召連可参候事

一、嫁入之砌、於路次雑言あはれに申候ハヽ、何町之者ニ而も其町ゟ出合召連、早速御番所へ可参候事

一、下人之儀は、主人ゟ急度可申渡候事

右之通被為仰出候、自今違背之輩於有之は本人は不及申、年寄共曲事可被仰付候、為其判形仕候、万一相背如何様被仰上候共、一言之御恨申上間敷候、以上

貞享四年卯七月八日

五十三

自身番之事

一、惣年寄壱丁之年寄如有来、自身番可致用赦事
一、老人幼少之者并後家名代赦免之事
一、医師其外法体之輩、可為名代、但其身覚悟次第、自身可仕事
一、居住之外他所ニ家有之は、其家之名代可為自身事
一、当番之者病人并他行之輩、勿論可為名代事

右之通従前極月一日ゟ正月十五日迄自身番有之候上は此書付之外名代可為無用、当番之刻急用於有之ハ、年寄五人組ニ相断、親子兄弟其外親類之間、又ハ手代ニ而も可指置、此旨令違背は、或過料或は籠舎可為事

慶安元戊子年十二月十六日

孫太夫
丹波

博奕諸勝負

一、町中家内并町はつれ辻ニ而曲物ニ木札を入、博奕かましき様ニ仕候由被聞召上、不届キニ被思召候、向後左様之勝負仕候ハゝ急度曲事ニ可被仰付旨被成御意候間、町中借や下々迄念入可被申付候、自然相背者於有之は、其者ハ勿論、其町年寄迄越度に可被成旨、可被相心得候、以上

天和弐年戌正月十三日

口上之覚

俳諧前句付褒美と名付、博奕同前之儀、致ス与しニ付、先年停止ニ申付候所、今以右之通ニ有之由相聞へ不届ニ候、向後左様之儀致者於有之ハ、急度曲事ニ可申付候、此旨三郷町中可相触候、以上

亥八月七日

一、博奕其外懸之勝負為停止、若相背者於有之ハ、先年如相触候、其衆中并宿主家屋敷可為欠所、親ニ懸り候者ハ親之家屋敷令欠所、親子共大坂を追払、但シ親申出候ハヽ親之家屋敷不可為欠所、然ル上ハ子可為牢舎事、附宿之両隣五人組可為牢舎間、見合聞次第早速可申出事

慶安元子四月五日　孫太夫

丹波

一、辻ほうひき度々籠舎申付候、弥見合ニ捕可申付事

慶安元年子四月五日御触ニ有之

先達而隠遊女博奕之儀相触候得共、猶又御仕置筋之儀、下々迄為心得之左之通可相触候

一、博奕打候者并宿

一、三笠付点者・金元并宿

一、富博奕仕候者・金元并宿

右之通於召捕僉儀之上過料は金五両以上、其金高ニ応し如何程ニ而も取上、日数十五日切ニ其当人一丁之者ゟ為致催促、日限ニ過料不指出候ハヽ、当人は四ヶ所長吏共へ預ケ置、親類店請人迄相掛り不足金為出、夫ニ而も及難渋候ハヽ、其者身体限り取上、不足金は当人一丁之者ゟ十五日限り可為指出候、惣而諸博奕打候者ハ、為過料身代限り家蔵迄可取上候、家屋敷蔵無之者ハ、右ニ准し過

料可申付候、宿ハ両隣五人組并年寄迄も過料可取上之事

一、諸博奕打頭取金元并宿致候者、科之品ニより屋敷家財取上、或流罪或ハ死罪可申付事

一、隠遊女指置候者、当人も勿論家主も品ニより身代限り家蔵迄も可取上候、借屋家持共ニ外ニ家蔵有之ハ、悉ク取上、品ニゟ其町之年寄・月行事・町人ニも可相掛事

右之通御仕置申付候条、町々年寄・月行事ハ不及申、家持・借屋人へ五人組相互ニ常々無油断吟味仕、右之族無之様ニ急度可相守候、此方ゟも遂吟味、相背者ハ可召捕候条、町中裏店之者ニ至迄御仕置筋疾と致承知候様ニ、三郷町中可触知者也

戌十二月

右之通可相触旨土岐丹後守殿被仰聞候間、三郷町中可触知者也

享保五年戌十二月廿八日　日向

淡路

一、取退無尽と号し、三笠博奕同前之儀有之由、相聞候ニ付、停止之旨前々ゟ相触候所、今以不相止、近頃寺社建立講と又ハ品々之講を名付、取退無尽致し候ニ付、右当人相顕候分は召捕、此度御仕置申付候、向後右態之義有之ハ武士方・寺社方・町方・在方ともニ遂吟味、当人ハ不及申、地主家主五人組各々町内之者迄、三笠博奕同前咎可申付候条、常々心掛ケ吟味致し疑敷者有之は品々可訴出候

酉四月

右之趣於江戸ニ被仰出候旨被仰下候ニ付、当表ニ而も停止申付候条、三郷町中可触知者也

寛保元酉五月　河内

於町々福引給合と名付板行拵、勝負ヶ間敷義仕候ニ付、右板木并摺出し候板行共、不残被召上、以来右体之儀仕候者有之候ハヽ、急度御咎可被仰付旨被仰渡、奉承知候、私共丁内末々迄不洩様申聞、勝負ヶ間敷儀仕せ間敷候、為其町々年寄判形、仍如件

宝暦六年子正月廿一日

久離之事

一、父相果、母後夫を求、或母相果、父求後妻、或入堉養子ニて出生、彼女房相果、後妻ニ子出生、継母継子を追出可申工、或後家求密夫、密通難成、実子たりといへとも久離願候事、此類ハ御取上ケ無之、依之父母双方之親類并年寄町人同統ニ、願出候様ニ被仰付、子不届ニ相極り候得は、被仰付候事

久離之御願申上、五三ヶ月過、久離御免之願申上候得は、御取上ケ無之、或親類大病又ハ子大切相頓死ニ及候様之義、無拠子細有之は、久離御免被仰付候事

一、子ニ家屋敷商売等譲り置候所、子不行跡ニ而、借金出来候時、家屋敷負せ方へ渡間敷工ニ、久離願上候族有之時、彼子不届者ニ相極り候得ハ、久離被仰付彼者之借銀ハ、親方ゟ相捌候様ニと被仰付候事

自害首縊之事　并行到(ママ)者之事

生死ニ無構、昼夜共早速御断申上候得ハ、御検使被仰付、家内并親類丁人口書御取被成候、不審無之死骸ハ、願候得ハ勝手次第ニ被仰付候、奉公人ハ請人、旅人は宿又ハしるへ之者死骸土葬ニ仕置、国元へ早々可申遣旨被仰付候

但、他国之者ニ而も、町人百性(ママ)自害刃物ハ被召上候

一、手負他所ゟ来らハ留置、早々申可来、於隠置は可為曲事事

附、所之者あやち(ママ)ニて少之疵たりと言とも、早速申来、手負帳ニ可付、隠置自然手負穿鑿之刻於相知は、依科軽重可申付事

慶安元子四月五日、御触ニ有之

一、病人并酒酔有之節、町送りニ仕候ニ付、其者養生成兼、行先ニ而相果候も有之間、初之所ニ指置、正気付次第宿承届、其町より彼者之宿へ申遣、請取ニ来り次第相渡可遣事

天和貞享年中　伊予

一、町々ニ而自然手あやまち、或ハ変死之者、其外品替りたる願事、丁内ニ有之節ハ、月番惣年寄中へ断書差出候様ニ被申渡候

寛保元酉二月朔日

自然自害人又ハ首縊等仕損之者有之、検使を不相待、医師をかけ、療治手当可致候、近来右体之者

有之時心得違候而、検使を相待医師ニもかけさる趣侭有之候、其所之者早速出合療次(ママ)手抜ケ無之様可致候、且又途中ニ而相顕行到(ママ)之者有之ハ、弥念入養生致し可遣候
右之趣先年も申渡義ニ候得共、猶又心得違無之様ニ可触知候、以上
寛延三午六月八日

捨子之事

一、捨子之儀申上候得ハ、町々養置、貰手有之次第遣可申上候由被仰付候、貰手有之申上候得ハ、御聞届被成候
附、前々ハ貰手も一所ニ御番所へ罷出候得共、左様ニ而ハ貰手無数故、丁人斗罷出申上候而、御聞届被成候
又其後ハ貰手ニ請人召連、其捨有之丁ゟ年寄罷出申上候ハ而ハ、御聞無之候
一、捨子致候事、弥御制禁ニ候旨、江戸ゟ被仰下候御書付之趣、頃日触聞候、急度可相守候、養育難成分ケ有之候ハヽ、其町之年寄五人組へ其品可申出候、向後町中ニ而子共致出生候は、早速年寄方之帳面ニ付置可申候、只今迄持候当歳ゟ七歳迄之子共も帳面ニ付置可申候、若帳面ニ付置候子共相果候か、奉公ニいたし候か、養子ニ遣候か、他所へ引越候か、又は他所ゟ町之内へ引越候ハヽ、其段年寄方へ相断、帳面ニ委細ニ付置可申事
一、家持之子ハ年寄へ相届可申候、同召仕之者之子ハ主人へ申聞せ、主人より年寄へ可相届、借屋

店かり地借り出店衆之子ハ家主へ申聞せ、家主ゟ年寄へ相届可申候、同召仕之子ハ主人ゟ年寄へ可相届、右何れも年寄方之帳面ニ付置可申候事

一、丁内へ捨子致候者有之候ハヽ、番所へ可申来候、勿論辻番之者も無由(ママ)断見逃ニ不仕様ニ、兼而可申付候

右之通堅可相守之、若相背者於有之ハ、急度曲事ニ可申付者也

午十一月日　土佐

一、捨子致候者御制禁之旨、御書付之様、其節被相触候処、今以毎度捨子致候段、不届至極候、自今以後町中申合、夜番之者ニ申付置心掛、捨候もの召捕候様ニ可仕事

元禄十年丑正月廿三日　美濃

甲斐

一、往来之者相煩候ハヽ、早速致看病置、番所へ可申来候事

一、牛馬其外生類相脳候体ニ候ハヽ、是又於其所ニいたわり可致養育候事

元禄十丑年正月廿三日　右同断

一、子おろし薬売候事

向後堅不仕様、町々ニ而可被申付候、勿論かんはん出し申間敷事

但、子おろし候者有之ハ、以来左様之義不仕旨、可申付候

未五月六日

一、捨子養育申付候後、令病死候段訴出候節、検使差遣し家内之者等口書取之、年寄丁人召連出、於公事場ニ口書読せ、無別条候得ハ片付申渡、且又死捨子有之節も右同様ニ候得共、向後ハ右検使相止候、見届月番之同心壱人指遣し見改させ、無別条候ハヽ、直ニ片付申渡候様可申渡候、万一疵付、或ハ疑敷事も候ハヽ、死骸其侭指置、一応見改候、同心罷帰り其段申届候上、東西同心立会之検使指遣、定式之通可取扱事

寛延三午十一月十四日

於町々ニ捨子有之節、片付遣し候砌、非人体之者へは不遣筈ニ候義、尤養育仕候者も非人体之者へは不遣事ニ候、先達而も此義被仰渡、町々承知之事ニ候得とも、猶又念入、右体之義無之様、町々へ申渡候様被仰渡候

宝暦五年亥八月十六日

飢人救之事

一、御公儀より金三千両代銀百七十九貫百目、三郷町中志銀四十四貫八百十六匁九分、二口合弐百廿三貫九百四十六匁九分、

三郷飢人五万弐千百十九人

内壱万九千百六人　借屋并相住共

三万三千十三人　父母兄弟妻子

一、借屋かり主并相住、壱人前ニ七匁四分ツヽ

一、父母兄弟妻子、壱人前弐匁五分ツゝ
右救銀の内ニ而、町々ニ諸事入用ニ壱銭ニ而も遣申間敷候、町々ニ而銭を買、明日中ニ不残可被相渡候
卯十月廿五日

人数六百七十弐人

右之分借屋ニ居申候得共、給物も無御座、飢及候者共、町中致吟味、少も相違無御座候、以上
十月八日　勧四郎町年寄
いつミや善兵衛
月行司　誰々

覚

一、今度売買高直ニ付、丁内借や人へ、丁内家持町人并他町持之町人申合、施行仕候銭高合六十三貫百文
一、表借や四千五軒　但壱軒へ鳥目三百文
〆十三貫五百文
一、裏借や百廿四軒　但壱軒四百文ツヽ
〆四十九貫六百文
右之通ニ御座候、以上
享保十八年丑正月九日　年寄　大和や五兵衛

八木高直ニ付、町中住居之者別而難儀ニ及候者も可有之候間、飢候者へ為御救米弐千石被下候、町々年寄致世話、一日ニ男ニ弐合、女ニ壱合の積を以相渡筈候、尤町々年寄随分正路ニ取計可割渡候、若私曲之儀も候ハヽ、奉行所へ町中ゟ可申出候、遂吟味可為罪科事、右可存此旨也、右之通今度従江戸被仰下候間、三郷町中可相触者也

丑正月十九日　淡路
日向

八木高直ニ付、町中住所之及飢候者共へ、為御救米、弐千石被下候之事ニ候、有徳成者ハ不及申ニ、其外之者共も、志次第右体之者をハ救ひ候様ニ宜敷取計之者は、追而御褒美も可有之間、飢候者共へ為御救米、弐千石被下之、町々之年寄世話致し、一日ニ男ニ弐合、女ニ壱合之積りを以、相渡シ申筈ニ候、尤町々年寄随分正路ニ取計可割渡候、若私曲之儀も候ハヽ、丁中ゟ奉行所へ可申出候、遂吟味可為罪科、可存此旨者也

享保十八丑正月十九日　淡路
日向

米高直ニ付而、住所之及飢ニ者共へ、為御救米弐千石被下候、有徳成者ハ不及申、其外之者共、志次第右体之者をハ救候者ハ宜敷取計候ハヽ、追而御褒美も可有之間、左之者共ハ丁中ゟ奉行所へ可申出候、右之通今度従江戸被仰下候間、三郷町中可相触者也

享保十八丑年正月十九日　淡路
日向

一、米弐升六合　弐合　男十三人
一、同壱升四合　壱合　女十四人
〆弐十七人
五日分弐斗
せに四百廿壱貫
右之通割渡シ申候ニ付、御断申上候、以上
丑二月廿七日　年寄　大和屋五兵衛
野里屋四郎左衛門殿
安井九兵衛殿

乍恐口上

南組廿壱丁年寄共

一、去冬ゟ米穀段(ママ)高直ニ罷成、町中困窮之飢人多御座、極貧之者ハ餓死ニも及可申候所、御慈悲を以御救米并鳥目等被為下置候町々も御座候て、急難を遁れ、難有奉存候
一、銘々町々所持之家屋敷、七八歩ハ家質ニ差入申候、然所冬年ゟ借屋住之者家賃銀相渡シ不申候故、家賃銀可相済様も無之仕合ニ罷成、ヶ様ニ成行候而ハ此已後諸役出銀等も難仕様ニ相成可申

哉と、歎ヶ敷奉存候、家賃銀ニ而渡世仕候丁人も多御座候ニ付、家賃銀滞リ申候而は渡世難成、尤極貧之借家人ハ家主・町ゟ救候程之義ニ而御座候故、勿論家賃銀ニはかゝわり申義無御座候得共、暮兼さる者共も、極貧之者同前ニ家賃銀滞り候者多御座候而、家主共迷惑仕候事

一、借家人、貧窮之者ハ家主町人へ引請、相救申町々も御座候得ハ、家明之儀ハ御願不申候、然ハ家主ハ、勝手ニより家入用ニ付、家明させ申度義も御座候、貧窮ニ而飢ニも及申者の外、前々之通家明被為仰付被下候様ニ奉願候

一、前ニ申上候通、極貧之者ハ御慈悲之御救を以急難遁候得共、尚去冬ゟ当春ニ至、弥米穀高直ニ罷成、難儀一統之内、中分之者家持町人別而迷惑仕候品、左ニ申上候

一、右中分之町人、難儀仕候と申上候義は、去冬ゟ困窮ニ付、諸国通用之諸商イ無之、御当地之義も是ニ准シ、仲間取遣之商ひ迄も無御座、勿論小売筋迚無之、其外諸職人諸細工迄も買取候者もおのつから無之、諸事ニ通し難儀仕候、搗米商売仕候者も、元手銀ニ手支候ニ付、少々掛ケ売も不仕、平日金銀手廻り不申候、諸色共ニ限銀ニ而相調候儀難計、必至と難儀仕候、中分之者共くつろき申上、其以下ハ自然と潤ひ可申様ニ可罷成候、ヶ様ニ困窮仕候而ハ中分之者痛候上。段々衰、極貧同前之難儀ニ及可申哉と奉存候、極貧之者ハ一向ニ此節之急難を遁申候得ハ、中分之者共難儀仕候、乍恐御意光（ママ）を以、何分中分之者共相潤申様ニ御恵被為成被下候ハゝ、難有奉存候、旧冬ゟ御拝借米之義も一統ニ奉願置候、前々段々申上候通、至極難儀ニ罷成候、尚麦秋迄之取続之義、人々無覚束奉存候、先達而奉願候通、乍恐御拝借米被為　仰付被下候様ニ、銘々町人共も願上候、乍恐御慈悲之上被為仰付被下候ハゝ難有可奉存候、以上

享保十八丑二月十八日　　年寄連判

御奉行所

右之通御番所御広間ニ上ル

一、難波御米蔵新堀、御救として老人幼少之者ニ而も罷出候様御触有之、士持運被為仰付、銭被下候

覚

一、私共、貧窮人之者へ銘々救仕候為御褒美、此度従　御公儀様御銀被下置候ニ付、三郷救仕候惣人数壱万千七百七十七人へ御割付、壱人前ニ壱匁九厘五毛三弗五宛ニ相当リ候ニ付、此度惣年寄中ゟ右之御銀御割渡シ、銘々頂戴奉請取候、以上

丑十二月

何町丁中
連判

惣御年寄中

一、三郷町中飢人高、凡弐万五千人
おそるへし〳〵
豊年之時より嗜事、かん要〳〵

五十九

鉄炮改之事

大坂町中、鉄炮所持之者於有之は、筒数長并玉目改、書付共町々年寄来月十日迄之内ニ番所へ致持参、帳ニ付可申候、但鉄炮ハ不及持参候、勿論今度改之節帳ニ不付隠置、以来鉄炮所持之儀於相知は、其身ハ不及申町々年寄五人組迄可為曲事旨、可相触者也

午九月廿八日

六十

火事之事

一、火事出来之時、兼而定置候方格之者、手桶を持可来候、怠不参候ハヽ或ハ牢舎或過料可為事、武士之奉公人火事場ニ出向事、如御制札一切停止たり、并町人ハ脇指を帯出へからす、若相背族は見合可搦捕之事

一、町中夜番之事、先年如定、亥刻以前ハ往還自由たるへし、四ツ以後ハ門を立、往還之者相改町送り可通事

慶安元子四月五日　孫太夫

丹波

一、火事出来候ハヽ、小火之内其町之者早速馳付消候得ハ、大火ニなり不申候、然共火之元ニ不構、

先銘々道具等取除ル心入致候故、大火ニなり候間、小火之内随分精出消留候様可相心得事
一、火事場へ火消人足ニ紛、見物人多相見得候間、令吟味召捕、急度曲事ニ可申付事
天和貞享年中

一、町中火事出来之刻、荷物を於持参候ニは、不依遠近何方ニ而も持来候所ニ致吟味預置、預候者申分と火事場之者申様を聞合、預ケ候儀於紛なきニ相渡候、相違候儀有之ハ可申来事
一、船ニ而荷物於積来候ニは、先々ニ而其町之年寄五人組立会相改、相違之義於有之は可申来候、但過書上荷茶船釼先其外小船共、火事場之者頼候ハヽ、荷物を積火事場之近辺ニかけ置、火事鎮候而、荷物差図次第可相届事
慶安二年五月十九日　隼人
丹波

一、火事出来之刻、御定之方格之者手桶持風下へ可罷出候、致不参候者、其家主可為曲事
一、火事之節加勢之事、兼而御定手桶を其方角之惣代を召連罷出、可請差図事
一、家を持有之大工、家役之手桶ハ致無用、三郷申合せ方角ニ無構、大坂三郷之内何方ニ火事出来候共、組頭三人、平之大工三十人に鋸を持せ、両人馬立有之所へ可参候事
右之通町中相心得、火事出来之時分、早速可罷出候、不参候ハヽ可為曲事
承応二年巳二月十八日
隼人
丹波

火罪之者

淡路町心斎橋御堂筋之間ニて、中船場町大黒屋半兵衛借や炭屋清兵衛と申族、七郎右衛門町之近辺町々へ度々火を付たる科ニより、元文弐年巳閏十一月廿五日ニ、鳶田墓所ニて火罪被為仰付、依之町々ゟ家役ニ薪壱本宛柴壱抱、右前日朝六ツ時ニ、右御仕置場へ丁々丁代持行候様ニ被仰付候

一、火事場へ役人之外帯刀之者、并町人脇指をさし出間敷由、前々ゟ申渡置候所、此節猥ニ相成候様ニ相聞候、急度相守可申候

元文三午六月

一、手あやまち有之候ハヽ、方格月番之惣年寄中へも断書出シ候様ニ被申渡(ママ)

寛保元酉二月朔日

火事之節、火消之外火事場へ見物ニ不出様ニ、先年ゟ相触候所、近年猥ニ成、火消之外、見物之者罷出、火消之妨ケニ成候者有之候、以来見物之もの見合次第ニ、何者ニ不寄搦させ候間、此旨急度可相心得候事

延享二丑年正月

惣年寄中口上ニて　是迄火事之節、火消役人中ニ用場として隣町之会所を明ケ置候様ニ申付候、向

後ハ其儀ニ不及候、火消場ニて仮絵図を致し、口書は御番所ニおゐて被仰付候段、町々年寄へ兼而申聞置候様被仰出候、右同年正月十二日

一、火之見やくら釣撞屋ニ建、町中ニハ四間之梯子七十弐ヶ所被仰付候、宝暦九卯年三月

六十一

線香之事

子共翫ニ致し花火線香ハ格別、大形成花火翫ひ間敷旨、先達而申渡候所、心得違申者有之哉、此節大形之花火翫候趣ニ相聞、不埒之事ニ候、已来右体之義有之歟、又ハ線香花火之外花火商売仕候者有之候ハヽ、吟味之上急度可令沙汰候条、其旨可相心得候

右之通三郷町中可相触者也

延享元子年七月

所々川船ニ而花火上ケ候儀、大川筋場所広キ所ニ而は其通り之事ニ候得共、川幅狭く町家へ近キ所ニ而ハ、花火高く上候事、火之元之ため悪敷、或ハ公儀橋へ向ケ間近火を上候儀、可致遠慮事ニ候、曽而指留候儀ニ而者無之候、川幅広キ所ニ而者、是迄之通ニ候得共、大形之花火ハ無用事ニ候

此段両御奉行様御口上ニて被仰渡候間、町々年寄心得ニて間違無之様取計可有之候

寛延三年午七月六日

此頃御城并奉行所近辺、又ハ川幅狭キ所ニ而花火上ケ候者有之、不埒之事ニ候、向後御城近辺諸御役所辺、其外内川家近キ所ニ而花火上ケ候事、堅仕間敷候

宝暦二申七月廿四日

同五亥年七月廿一日再触

六十二

干鰯
油粕　之事
下屎

近年干鰯并油粕直段高直ニて、百性(ママ)勝手不勝手ニ候旨、依之様子相尋候之所、右商売人又ハ右之外商人共、直段高下を見合せ候ため、買溜置候者も有之様ニ相聞え候、不漁不作ニて高下ニ成候義は格別、無左候て買〆等致候者有之、高直ニ成候ハヽ、吟味之上急度可令沙汰候

右之通三郷町中可触知者也

元文五申十月

一、町中下屎百性(ママ)直相対之場、中買共直段付ケ上ケせり取候ニ付、百性(ママ)直請差支難儀之旨、此度摂河村々百性共訴出候、廿八年以前九年以前申渡候通、下屎掃除之義、百性(ママ)可為相対事ニ候得共、

百性(ママ)計之掃除ニ而ハ急掃除致度節、差支ニも可有之事と、中買共差置候儀ニ候間、右之趣を以百性(ママ)共へ随分致相対候様ニ可相心得候、且又中買之外ニ下屎口入致候者有之、直段せり上候様ニ相成候ニ付、先奉行ゟ口入之儀は度々差留候得共、今以口入有之様ニ相聞え、不埒候条、口入之相対申間敷候

右之趣三郷町中年寄共へ申含、不差支様ニ可致者也

元文五申十一月

下屎之事

寛保弐戌年十二月十二日ニ右再御触

弥相守候様被仰付候

近年段々干鰯高直ニ相成、百性(百性直)共農業差支令難渋候旨、摂河村々ゟ訴之候、当地干鰯屋共を始、外商売之者迄、直段高直ニ成候を見合候ため、干鰯買〆置候族有之由相聞、不埒之至りニ候、就中外商売致候者、干鰯買〆置候得ハ、干鰯屋へ引請候干鰯無数、別而高直ニ相成候趣相聞候間、右体之義於相顕は、吟味之上急度可申付候間、此旨三郷町中可触知者也

寛保三亥年十月

町中下屎之儀ハ百性(ママ)共可令直相対旨、前々申渡置候所、此度摂河村村百性(ママ)共并三郷下屎中買、直請之為目印之腰札提度旨願之、右腰札差免候、其旨相心得、腰札無之者へは下屎之義相対仕間敷候

延享二年丑四月

宝暦六子閏十一月再触

同九卯十二月再触

油

油樽屋

三郷油樽屋とも、細工ニつかい候杉、材木問屋ゟ買取来候所、近来川口ニ而繋船ニ而油樽屋とも直買致、其上同職之者へも売出、杉材木屋問屋渡世妨ニ相成候段訴出候、他国ゟ積廻シ候材木、樽屋共川口へ出買致し、同職之者へ売渡シ候儀、不埒之事ニ候、以来右体之儀堅仕間敷候、相背者有之ハ急度可令沙汰候、右之通三郷町中可触知者也

寛保三亥年十二月

一、下屎口入御停止之旨、又々御触有之候

寛延二巳九月

一、灯油直段高直ニ付、諸人痛ニ成候、菜種綿実買ゞ致間敷段、御触有之候

寛保三亥年正月

一、菜種綿実問屋之外商売致間敷旨、質物等ニも取申間敷旨、御触

同年三月

灯油直段高直ニ付、諸人痛ニ成候、菜種綿実買〆候族、并正油之外時々相場高下を以損徳致候商人有之、油相場引上ケ候趣ニも相聞え候ニ付、右体之儀無之様ニ相心得へく旨、当正月町触差出候所、店かり之者ニは右触書之趣不存者相顕候ニ付、遂吟味候所、借屋人へは家主ゟ直ニ不申聞、夜番を以触知らせ、或は当人致他出居候得ハ、妻子ニ申聞置候様ニ致候類有之、此等之儀家主不埒之事ニ付、此節咎申付候、都而触さセ候儀は、町々会所へ丁人共呼寄せ、年寄ゟ委細申聞、承知致候趣印形取置、或は書記渡置候様ニも致し、触書之趣末々迄行届候様ニ可致事ニ候、如斯為触候上は、自然此已後年寄家主不念之義有之ハ、急度可相咎候条、此旨三郷町中可触知候、以上

寛保三亥年四月

種しほり油屋

合弐百五十軒余

年行司七人有

綿実しほり油屋

合二十七軒

年行司弐人

今度従江戸表依御下知、菜種問屋弐十人綿実問屋十人相極申付候、依之向後当地へ廻船之菜種綿実

ハ、右三十人之者共ニ限り引請、絞油屋へ売渡候筈ニ候間、其旨可令承知候、若三十人之外ニて両種物売買有之段相聞候は、吟味遂、当人ハ勿論年寄五人組迄急度可相咎候
但、有来候問屋方へ菜種綿実所持候ハヽ、此度申付候三十人之問屋へ早々可売渡候
右之通三郷町中可触知者也
宝暦十年辰正月

一、国々近在ゟ絞り候油、大坂三郷十三軒之出油屋へ差出候定ニ候、外ニ而売買仕間敷旨被仰渡候
宝暦十一年巳十二月

六十三

糠商売人

当表三郷於町中ニ、糠中買令渡世候者之内、糠ニ交物致し問屋共へ売出候族有之由相聞、不埒之事ニ候、以来右体之儀相聞候ハヽ、吟味之上急度可令沙汰候、此旨右渡世之者へ不洩様ニ可申聞事
延享五辰六月

宝暦七丑年十二月、再触

簿屋之事

一、薄(ママ)屋共所持仕来候看板薄(ママ)屋へ致持参、薄(ママ)座之焼印を取、向後出し置可申候、若薄座打止候ハヽ、右之焼印薄座へ返し可申事

一、薄(ママ)打申候者共、薄(ママ)出来候ハヽ不残薄(ママ)座へ致持参、御運上ハ差出之薄(ママ)座極印を取、其上売買可仕事

一、打薄(ママ)屋共、向後上澄買申候ハヽ上澄屋方へ参、上澄包ニ仕、薄(ママ)座封印無之上澄一切買申間敷事

一、上澄屋共、向後下金買申候ハヽ下金屋方へ参、薄(ママ)封印仕置候下金買取可申候、薄(ママ)座封印無之下金一切買取申間敷候、上澄打立候ハヽ薄(ママ)座へ致持参、御運上差出シ、薄(ママ)座差図之通包分ケ、封印を取請、其上薄(ママ)屋共方へ売渡可申事

一、下金屋、薄(ママ)下金打立申候ハヽ薄(ママ)座へ致持参、御運上差出シ、薄(ママ)座差図之通包分ケ封印を取、上澄屋共方へ売渡シ可申候、封印無之下金一切売出申間敷事

一、粉梨子地金銀下金吹立候ハヽ薄(ママ)座へ致持参候而、御運上差出極印を取、薄(ママ)座差図之通売出シ可申候

付り、金具屋・白銀屋・銀屋共方へ売出申候下金、可為同前候、極印無之下金一切売出申間敷事

一、粉梨子地屋共、金銀粉梨子地下金買取申候ハヽ、下金屋方ニ而薄(ママ)座極印致シ置候下金買取可申候、極印無之下金一切遣申間敷候、粉梨子地出来候ハヽ薄(ママ)座へ致持参、御運上差出シ薄(ママ)座極印を取、塗師蒔絵師共方へ売渡シ可申事

一、京都ゟ下り申金銀薄(ママ)・唐薄(ママ)・粉之梨子地之類致請売候者、早々下り次第薄(ママ)座へ致持参、御運上

差出、薄(ママ)座添判をとり売買可仕候事、以上

子六月

右之通江戸御勘定所ゟ申来候間、得其意違背仕間敷旨、三郷町中可触知者也

元禄九年子七月十二日　甲斐

玄蕃

一、金銀薄(ママ)細工致候者不及申、惣而薄類買申候ハヽ、薄(ママ)座極印致置候薄(ママ)、買取可申候、印無之薄(ママ)、一切遣申間敷事

一、塗師・蒔絵師・金銀粉梨子地屋、すりこ類買取可申候、封印無之粉梨子地一切遣申間敷事

一、金具屋白銀屋銀屋、惣而金銀細工仕候者共、薄(ママ)座極印致置候下金、買取可申候、極印無之下金、一切遣申間敷候、つふし金銀類買取申候者有之候ハヽ、何程買取候由薄(ママ)座へ相断可申事

子六月

右之通江戸御勘定所ゟ申来候間、得其意違背仕間敷旨、三郷町中可触知者也

元禄九年子七月十二日　甲斐

玄蕃

一、打薄(ママ)屋　一、上澄屋　一、下金屋

一、梨子地屋　右之品々請買之者

一、金具屋　一、さうかんや　一、白銀屋

一、銀屋　一、塗師蒔絵師

一、仏師絵師　一、惣而金銀之細工仕候者
右職人商売人丁内ニ有之候ハヽ、何屋何右衛門と名書付、上ニ、薄(ママ)屋ニ而候ハヽ薄(ママ)屋と其品書付、
来ル十五日惣会所へ年寄判形ニ而、丁代可有之持参候、以上
子七月十三日

一、金銀箔之類、遣捨之道具其外、わらへ子之遊ひ物抔ニハ遣不申候筈ニ候、前々被仰出候所、唐
箔と申候而、銀をふすへ金箔之色ニ直し、右之類ニ遣候由ニ候間、向後唐箔不抔出候様ニ可仕候、
近年真鍮箔錫はく抔出候ニ付、遣捨之道具わらへ子之持遊ひもの類は、右真鍮箔・銅箔・錫箔を
以、抔候様ニ可致事
右之通此度従　江戸申来候間、堅可相守之旨、三郷町中可触知者也
宝永弐年酉六月十五日　大隅
和泉

六十五

堺たはこ庖丁

堺たはこ庖丁之似せ銘を打、当地ゟ他国へ売出シ候類有之由、堺たはこ庖丁鍛冶屋共訴出候、遂吟
味候所、右似せ銘を打候者、紛敷庖丁他国へ売次之者、此度は無之候、以来似せ銘を打候儀、并他
所へ売次遣し候分、念入紛敷義無之様可致候、堺たはこ庖丁之義、近年堺極と添印有之義ニ候間、

右之外堺庖丁と名付ケ他国へ売次遣シ候義、仕間敷候、相背候ハヽ、吟味之上急度可令沙汰候
右之趣鉄釵鍛冶中買共は勿論、三郷町中可触知候、以上
享保十七子年五月廿七日

一、宝暦十一年巳十一月、再御触有之

六十六

殺生人仕置

一、今度盗人之内、餌指共弐三人御座候、大坂町中殺生仕候もの御改被成候所、町惣年寄ゟ改と申、北・南・天満三郷ゟ人数五十一人被書上候所、重而御吟味之上、以来殺生仕間敷と申者御座候ニ付、相残者三十六人相極、五人組被仰付書上候事
一、右人数之外、町中ゟ殺生ニ罷出候者御座候は急度申上、我等共殺生ニ罷出候刻、五人組之外、他所之者壱人も同道仕間敷候、親子兄弟ニ而も、別家ニ居候者同道仕間敷候、同家ニ居候親類兄弟間之儀は同道可仕旨、奉得其意候事
一、鳩・鶉・雲雀其外小鳥ハ取可申候、八月ゟ明三月迄、雁・鴨之儀は不及申、何ニ而も田鳥を取申間敷候、但四月ゟ七月迄ハ、鴫・千鳥なとは田ニ而取可申候事
一、大坂ゟ奉公人衆殺生ニ被罷出候ハヽ可申上候、但八月ゟ明三月迄之儀、見届可申上事
正保弐酉九月廿六日

六十七

諸職人

大坂三郷町中ニ、おふこ細工之者は、御仕置者之節、役相勤来候、近来右定候職人之外、枴細工致し令渡世候者有之、及難儀ニ候由、枴職廿六人之者ゟ願出候、右渡世之儀、枴屋は勿論、外職人とも決而致間敷事ニ候、心得違無之様三郷町中可触知者也

宝暦五年亥四月　安芸
遠江

六十八

茶屋風呂屋之事、煮売之事

本茶屋煮売屋共譲り度之旨申出候得ハ、御聞届有之候、并風呂株譲りハ、度々御断不及申上、内証ニ而証文取かわし、御奉行代りニは罷出御断申上候、風呂株売買ハ御聞届無之候

堂島新地・新堀・新川・堀江・曽根崎新地之茶屋風呂屋、古町へ譲り出候事不罷成候、先年ゟ茶屋株ハ何方へ譲り可申も勝手次第ニ御聞届、売買御取上ケ無之候

一、株有之茶屋煮売屋之外、食物種々出し置商ひ候見世有之而、あやしき者相集候様ニ聞及候、其

所々支配人町人不吟味故ニ候、茶屋年寄無油断相改可申事

元禄十丑年正月廿三日　美濃
甲斐

一、茶屋之雑用科理代等之出入、不取上候事

一、茶屋壱軒ニ茶立女弐人、風呂やニ髪洗女弐人可差置候、定之外数多置候者有之、先頃御仕置申付、茶屋年寄并町年寄油断故ニ候、向後致吟味、弐人之外指置不申様ニ可仕候、此方ゟ組之者相廻シ、改出候は、其者は不及申、家主・年寄・茶や年寄迄可致沙汰候、此旨可申渡候、定置候場所之外、遊女之類差置不申様ニ可仕候、此方ゟ組之者相廻シ、見出シ候ハヽ、其者は不及申、家主・丁年寄・五人組迄も急度可致沙汰候、此旨三郷町中年寄共へ疾と可申聞置候、以上

茶屋御仕置之事

一、昼夜共女を置、人集致し候ハヽ、家主五十日令籠舎、其上所を可払事

一、博奕其外何ニ而も勝負宿致候ハヽ、死罪申付可令欠所事

一、於盗人宿致ハ可為同罪事

丑七月

揚屋御仕置

一、傾城も男も一夜宛ニ而返し可申候、日夜つゝけ申間敷事

一、町人子共手代欠落仕、隠居候而御穿鑿候ハヽ、不依誰ニ早速見せ可申事
一、不審成者宿仕間敷事
右之通可相守者也
慶安元四月六日

堀江・富嶋へ御赦免被為成候茶屋株一札

一、堀江・富嶋へ御赦免被為成候茶屋株六十八軒之内、銘々借り請罷有候事
一、茶屋株上前銀十五匁宛、毎月廿五日無滞急度差上可申事
一、茶屋御制法之趣、古町茶屋へ被仰付候通承知仕、常々堅相守可申候事
一、茶立女御定之外一切抱申間敷候、勿論御法度之衣類着せ申間敷候事
一、茶立女往来之儀、御城近辺ハ不及申、他所へ一切往来為致間敷候事
右之趣急度奉相守、少も違背仕間敷、万一相背者御座候ハヽ被為仰上、如何様共越度ニ可被仰付候、為後日判形仍如件
享保五子年

茶屋株預り主
銘々預り主印形

茶屋年寄行司三人へ

堀堀茶屋并茶立女人別改連判差上帳面之事

覚

一、堀江南北・幸町・富嶋・古川町之茶屋株六十八軒、茶立女弐人宛可差置候、衣類は布毛綿之麁

相成を可着事

一、隣家たりとも茶立女を外へ雇遣候儀、停止ニ候、勿論町家へ一切往来仕せ間敷事

一、茶屋ニ自今娘有之者は、其わけ年寄へ明白ニ申達、吟味之上可差置候、少ニ而も紛敷仕方致候ハヽ可為曲事、茶立女之外十二歳以上之女子、客之前へ出シ候者有之は可為曲事

一、茶屋ニ客を寝泊り致させ間敷候、夜中は亥ノ刻以後を不可過、勿論火之元等可入念事

一、諸茶屋之分、家作道具等は不及申、其外万事分際ニ過、大者かましき仕方有之ハ急度可申付候、勿論客人ニ対し慮外かましき或喧嘩口論、惣而重高成義致させ候者、吟味之上越度可申付事

一、あはれもの又ハ盗賊之類参候ハヽ早々可捕来候、縦慥ニ徒者ニ不見届とも、怪敷風体之者徘徊致候ハヽ押へ置可申来候、品ニより御褒美可被下候、左様之者見のかしニ致し、脇ゟあらハれ候ハヽ可為越度事

一、博奕其外諸法度之儀、会合之者寄せ集候ハヽ可為越度事

一、茶屋ニ外之女を預り置紛敷仕方、又ハ外ゟ遊女かましきもの連来候を宿仕候ハヽ、越度可申付事

一、町中ニ怪敷女を抱置、人を寄、或は外へ遣し遊女らしき身過有之は、向後茶屋仲間ゟ常々心掛ケ、見届早々可申来事

一、茶屋茶立女は勿論、惣茶屋家内、毎月霜月家別ニ一々改之明白ニ記、年寄組之者無相違との判形致、方格惣会所へ可差出之候、茶屋年行司度々寄合、惣茶屋中吟味致、法度を可相守候、若仲間ニ不届者有之候ハヽ早々可申来候、隠置外ゟあらわれ候ハヽ越度可申付事

右之通申付候儀、脇々ニ放逸之身過仕候者多有之様相聞候ニ付、向後急度為可相改、茶屋之分へ加用捨、令沙汰候間、惣茶や共申合、自分之作法を正し、紛敷義候ハヽ早々可申来候、勿論茶屋仲間

少も猥ニ成行候儀、相聞え候ハヽ、当人は不及申、惣茶屋之者可為越度候間、可得其意者也

子十一月

右御書付之条々奉承知仕候、茶や六十八軒ニ茶立女弐人宛御赦免被遊之旨、難有奉存候、因茲茶屋家内十弐歳以上之女之分、人別相改判形仕指上候、若此外隠女有之歟、御制法之趣相背申候ハヽ、如何様之曲事ニ可被仰付候、勿論家主五人組年寄常々遂吟味、少も為相背申間敷候、若隠置脇ゟ露顕仕候ハヽ、家主・五人組・年寄迄越度ニ可被仰付候、為後日連判仕差上申候、以上

享保五子年十一月

御定之場所

北組

北堀江壱丁目　橘通弐丁目
同　二丁目　同　三丁目
同　三丁目　同　四丁目
同　四丁目　同　五丁目
同　五丁目　同　六丁目
同　七丁目

〆

南組

南堀江壱丁目　幸町壱丁目
同　弐丁目　同　弐丁目

同　三丁目　　同　三丁目
同　四丁目　　同　四丁目
同　五丁目　　同　五丁目
〆　　橘通八丁目
天満組
御池通壱丁目　　橘通壱丁目
同　弐丁目　　富嶋壱丁目
同　三丁目　　同　弐丁目
同　四丁目　　古川壱丁目
同　五丁目　　同　弐丁目
同　六丁目
〆

煮売株

指上申手形之事

一、堀江南北并富嶋町・古川町ニ、煮売払(ママ)三十壱軒御赦免被為仰付候ニ付、私共借り請商売仕候上、自今以後新規之煮売屋之義不及申、何ニ而も手前へ人集、物を給させ候商売仕候者出来仕候ハヽ、私共為仲間早速可申上事

一、人集仕寝泊致させ申間敷候、給物を仕廻早々出シ可申事
一、切々煮売を給ニ参り候而、不審之体之者御座候ハヽ心を付、兼而五人組年寄へ申合、捕候而御番所へ可罷出事
付り、衣類道具等ハ不及申上、何ニよらす少之者も預り申間敷事
一、暮六ツ以後、煮売仕間敷事
右之通相背候ハヽ、其時之品ニゟ本人ハ死罪、五人組は煮売屋ニ而無之様も、煮売屋之科ニ而牢舎可被仰付候之旨奉得其意候、少も違背仕間敷候、為後日煮売屋五人組共連判指上申候、以上
右之趣慥ニ承知仕候、自今以後不念之仕方有之候ハヽ、本人ハ不及申、五人組迄如何様共越度ニ可被仰付候、為後日銘々判形仍如件
享保五子年十一月

一、右堀江南北・幸町・富嶋町・古川町ニ有之茶屋株・煮売屋株共、先例御赦免被為遊候作法之通、御書出之趣、相違無之候、以上

古町茶屋御赦免御定之場所

北組
長町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目

南組
道頓堀御前町
同　布袋町
同　宗右衛門町
同　久左衛門町

同　五丁目　　同　九郎右衛門町
同　六丁目　　同　吉左衛門町
同　七丁目　　同　立慶町
同　八丁目　　玉屋町
同　九丁目　　南塗師や町
元伏見坂町　　南笠や町
〆　　南畳屋町
　　菊屋町
　　西高津町

茶屋数合百七十七軒
外ニ壱軒ハ被召上候株、西高津町茶屋壱軒、此牡丹屋いや儀、西高津町之外へ罷出候儀、御停止ニ被仰付候茶屋ニ而御座候
又十九軒ハ安次(ママ)川ゟ元伏見坂町へ預り株

風呂株之事

一、先例ゟ古町風呂株十四軒、堀江南北・幸町・富嶋町・古川町ハ堀江開発ゟ御赦免ニ而、髪洗女弐人宛被定置作法之儀、古町風呂屋同然可為事

茶屋仕置之事

前ニ有

煮売屋

大坂三郷煮売屋之儀、貞享三寅年十月四十八軒ニ相極、右之外宅ニ而、何ニ不依令煮焼、人を寄せ、商売一切致間敷旨申渡置候所、近頃猥ニ相成、右四十八軒之外ニも煮売屋出来、株有之煮売や渡世薄ク成、令難儀之旨訴出候、已来無株之者宅へ人を寄せ、右令商売候儀相知候ハヽ、吟味之上咎可申付候

右之通三郷町中可相触者也

延享四卯年十一月

惣茶屋株合四百七十一軒

年寄四人有

外ニいろは茶屋五十八軒有

風呂屋

堂嶋新地三ツ

道頓堀拾六

傾城町

但、外町々ニ而隠遊女之御仕置事

夜見世之儀ハ三月朔日ゟ十月晦日迄、其刻限商売可仕旨、延宝三卯三月、石丸石見守殿・彦坂壱岐守殿御免ニ而、其後天和三亥十二月、堂藤(ママ)伊与守(ママ)殿・小田切土佐守殿、傾城町ゟ願上、正月・二月両月之夜見世壱ヶ年限御免に今十二月ニ御願ニ出証文被仰付御免之事

一、傾城町之外怪敷女を抱置、遊女宿同意之身過仕、又ハ奉公人女を肝煎なとと申なし、其外色々ニ事よせ猥成仕方之者数多有之由、一々相聞え候、町々ニ而借屋末々迄組切ニ明細ニ可相改事

一、女子ニ芸を教へね徘徊致させ候類之者停止之由ね前年も申渡候、弥堅可相守事

一、万一女を抱へ、遊女らしき身過致させ候者有之は、何時も其女早々番所へ可申出、身之代を主人之損ニさせ、女は親元へ送り返すへし、少も女之とかに致間敷候間、無遠慮可申来事

右之通従前々傾城町之外放逸之身過仕間敷旨、度々申渡候、町々ニ月次判形まて致なから、不吟味ニ而次第に法度を背もの有之由相聞へ、不届千万ニ候へ共、此度急度可致沙汰候得共、加宥免候、自今猥ヶ間敷身過仕候者有之を隠置、脇ゟあらわれ候ハヽ家持ハ両隣向共ニ本人同罪、借屋之者ハ家主・借屋・両隣本人同罪ニ申付、勿論其所之年寄組中可為越度之間、借屋之裏々迄人別ニ相改、怪敷者候は、其時も早々可申来候、但此度人別相改候ニ間も可有之候得は、毎月十五日迄は令用捨候間、其内ニ一々被吟味、怪敷ものハ其所を追立、又ハ番所へ伺之可埒明候、此上ニ而も町中ニ而放逸之身過仕者有之を不斗儀ニ致置候ハヽも無用捨、急度可申付候条、可得其意候者也

右之通三郷町中へ可触知者也

戌七月十九日　大和

一、前々も申付候儀ニ候得共、町中遊女ケ間敷者多候由相聞、不届ニ候、町々年寄町内を無油断相改、借屋ハ家主細々見廻り、身過不見届者ニは家をかし不申様ニ致し、紛敷者無之様ニ可仕事
一、玉造稲荷門前を初、惣而茶屋風呂やニも、紛敷女一切差置申間敷事
右之趣堅相守、向後若相背者有之は不時ニ相改、於顕ニハ穿鑿之上遊女抱置候者、家持ニ候ハヽ五人組、借屋之者ニ候ハヽ家主迄本人同罪、町之年寄も依品ニ、急度可申付候条、委細此旨三郷町中裏借屋等迄可触知者也
卯十一月十日　半右
甲斐

傾城屋仕置

一、傾城ニ縫白加の子金入之巻物着せ申間敷事
一、乗物ニ乗せ申間敷事
一、揚屋ニ一夜之外、おき申間敷事
一、致身請候女、先々ニ而傾城於仕ハ、見出聞出可申上候、并傾城町之外傾城置候ハヽ可申上事
一、年季之女、拾年之外抱申間敷候、其内も任約束、無違乱暇を遣し可申事
一、同町喧嘩之事、可為死損、相手を切殺其場を立退キ候ハヽ、御穿鑿有間敷事、留置候ハヽ同心衆可被遣之由、奉得其意候事
一、同女年季明暇出かね候ハヽ、女訴状可差出、主人非分有之ハ可為曲事、無依怙贔屓可仕候事

右之趣相守可申者也
慶安元四月六日

揚屋仕置

一、傾城も男も一夜宛ニ而返し可申候、日夜つゝけ申間敷事
一、町人子共手代欠落仕、隠居候而、御穿鑿之(ママ)候ハゝ、不依誰ニ早速見せ可申事
一、不審成者仕間敷事
右之趣可相守者也
慶安元四月六日

茶屋仕置之事

一、昼夜共女を置、致人集候ハゝ、家主五十日令籠舎、其上所を可払事
一、博奕其外何ニ而も勝負宿致候ハゝ、死罪申付可令欠所候事
一、於盗人宿ハ可為同罪事
丑七月

隠遊女之御仕置

一、隠遊女指置候者、当人ハ勿論、家主も品ニより身体限、家蔵迄も可取上候、借屋・家持共ニ外ニ家蔵有之ハ、悉ク取上、早々ゟ其町之年寄・月行司・町人も可相掛事
右之通御仕置申付候条、町々年寄・月行司ハ不及申、家持・借屋へ五人組相互ニ常々無油断吟味仕、

右之族無之様ニ急度可相守候、此方ゟも遂吟味、相背者有之ハ可召捕候条、町中裏店之者ニ至迄、御仕置筋之儀疾と致承知候様、三郷町中可触置者也

戌十二月

右之通可相触旨、土岐丹後守殿被仰聞候間、三郷町中可触知者也

享保五戌年十二月廿八日　日向

淡路

傾城町之外町中ニ遊女ヶ間敷者指置間敷旨、前々ゟ申付候所、近年端々遊女ニ似寄候者なと有之、并茶屋ニ極之外、茶立女多差置候様ニ相聞、不届之事ニ候、前々申渡候通弥相守、猥之儀無之様ニ可仕候、於相背は急度可令沙汰候、以上

元文弐年巳十一月七日

町方所々隠遊女指置、遊女同前之儀有之、其上茶屋ニも茶立女人数多、茶屋・風呂屋ニ白人と名付指置、所へ往来致させ遊女同前ニ致し商売候者有之ニ付、傾城町衰微ニ相成候旨、傾城町より訴出候、右之通不埒之仕方無之様、毎度申付候所、猥ニ相成候趣ニ相聞候、隠売女ハ不及申ニ、定之外茶屋・風呂や女多抱置候者有之ハ、急度可令沙汰、尤右之通相触候上ニも猥之風聞候ハヽ其品ニより傾城町之者改候様ニ申付候儀も可有之候、三郷町中并茶屋・風呂や者へ急度可触知者也

元文五申八月

又々延享元子二月ニ右御再触有之候

又々延享三寅五月ニ御触有之候

又々寛延四未四月ニ隠遊女之義御触有之候

宝暦六子十二月隠売女之儀御再触

寛延改

傾城町

くつわ　二百五十人

くつわ　二百五十二人

揚屋　五十二軒

茶屋　三十八軒

太夫　廿七人

天神　六十九人

かこひ　八十九人

端傾城　千人

傾城合千弐百人余

かふろ　五百五十人

やりて　六百廿人余

町々門きわニ有之穢多村ゟ埋置候小便桶

七十

一、穢多村年寄共御願申上候は、小便たご町々之辻々ニ指置申度願上候ニ付、助成ニ候ため御聞届被成候、依之村之年寄共辻々ニ小便たご指置可申間、組合町々へ申達候様ニ、宗旨頭町へ被仰渡候

一、辻門際川端ニ埋置候小便たご、出火之節構ニ成候間、つり出置可申由被仰渡候

享保十六亥十一月廿日　宗旨組頭町へ被仰渡、夫ゟ通達候

七十一

大坂　三郷町名
天満

北組
北浜壱丁目
同　弐丁目

過書町
梶木町
大川町
今橋壱丁目
同　弐丁目
尼崎町壱丁目
同　弐丁目
高麗橋壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
上人町
四軒町
大豆葉町
本鞘町
本天満町
伏見町
呉服町
道修町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目

同　四丁目
同　五丁目
古手町
平野町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
善左衛門町
亀井町
淡路町壱丁目
同　弐丁目
北鍋屋町
中船場町
淡路町切町
津村北之町
瓦町壱丁目
同　弐丁目
百貫町
南鍋屋町
三郎右衛門町
同　弐丁目

津村東之町
同　中之町
同　西之町
備後町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
升屋町
御堂前町
津村南之町
安土町壱丁目
上魚屋町
安土町弐丁目
同　三丁目
浄覚町
北渡辺町
南渡辺町
七郎右衛門町壱丁目
同　弐丁目

浜町
長浜町
椹木町
西笹町
五幸町
上中之嶋町
肥後嶋町
築嶋町
久保嶋町
向子嶋町
宗是町
本五分一町
西信町
常安町
同　裏町
治郎兵衛町
小倉屋仁兵衛町
庄村新四郎町
塩屋六左衛門町
湊橋町

玉水町
白子町
土佐堀壱丁目
同　弐丁目
船町
斉藤町
白子表町
布屋町
江戸堀壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
玉沢町
鞠町
櫂屋町
道空町
山田町
雑喉場町
福井町

籃屋町
屋根屋町
茶染屋町
新淡路町
坂本町
小右衛門町
兵庫町
石津町
京町堀壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
同　六丁目
両国町
南浜町
瀬戸物町
剣先町
新天満町
海部堀河町

新鞆町
油掛町
信濃町
海部町
是崎町
鋪屋町
奈良屋町
阿波町
衽町
箱屋町
豊嶋町
釘屋町
三右衛門町
船坂町

上博労町
西浜町
下博労町
伏見屋四郎兵衛町
弐本松町

玉手町
松本町
宮川町
桑名町
葭屋町

江之子嶋東之町
同　西之町
戎嶋町
木津川町
九条村町
寺嶋町

油町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
本伏見町
長町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目

同　四丁目
同　五丁目
同　六丁目
同　七丁目
同　八丁目
同　九丁目

野田町
網嶋町
備前嶋町
本相生東之町
同　西之町
本堺町
東京橋壱丁目
京橋弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
同　六丁目
石町

弥兵衛町
嶋町壱丁目
同　弐丁目
内両替町
内平野町
釣鐘上之町
釣鐘町
近江町
北革屋町壱丁目
同　弐丁目
船越町
亀山町
大沢町
内平野町弐丁目
内淡路町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
錦町壱丁目
同　弐丁目
折屋町

豊後町
内骨屋町
南革屋町
松尾町
北新町壱丁目
同　弐丁目
徳升町
常盤町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
伏見両替町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
谷町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
江戸町
和泉町

聚楽町
粉川町
神崎町
駿河町
越中町二丁目
同　三丁目
紀伊国町
菱屋町
仁右衛門町
橦木町
西伊勢町
丸葉町
八尾町
拐屋町
半入町
是山町
国分町
北堀江壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目

同　四丁目
同　五丁目
橘通弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
同　六丁目
同　七丁目
新京橋町
新堀町
吉原町
本相生町

南組
本町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
南本町壱丁目上半

同　下半
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
唐物町壱丁目
同　弐丁目上半
同　下半
同　三丁目上半
同　下半
同　四丁目
雛屋町
北久太郎町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
南久太郎町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目

同　四丁目
同　五丁目
同　六丁目
北久宝寺町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
南久宝寺町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
伝馬町
源左衛門町
金沢町
金田町
茨木町
博労町
上難波町

順慶町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
浄国寺町
初瀬町
安堂寺町壱丁目
同　弐丁目上半
同　　下半
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
北勘四郎町
南勘四郎町
塩町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
車町

長堀茂左衛門町
同　橋本町
同　治郎兵衛町
同　心斉町
同　拾丁目
同　平右衛門町
同　宇和嶋町
同　富田屋町
同　白髪町
同　橘町
同　高橋町
同　清兵衛町
新平野町
出口町
小浜町
山本町
吉田町
西国町
百間町
薩摩堀納屋町

同　中筋町
同　阿波堀町
同　東之町
立売堀北側壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　南側西之町
同　南裏町
同　南側中之町
同　鉄町
同　中橋町
同　阿波橋町
同　古鉄町
同　帯屋町
同　助右衛門町
日向町
讃岐屋町
伊達町
神田町

権右衛門町
孫左衛門町
藤右衛門町
魚谷壱丁目
同　弐丁目
高間町
尾上町
九之助町壱丁目
同　弐丁目
錺屋町
大宝寺町
炭屋町
吉野屋町
松原町
柳町
周防町
南毛綿町
三津寺町
菊屋町
関町

南米屋町
白銀町
山崎町
南紺屋町
木挽町北之町
同　中之町
同　南之町
南塗師屋町
南畳屋町
南笠屋町
綿袋町
岩田町
中津町
南綿町
常弥町
酒辺町
南鍛冶屋町壱丁目
同　弐丁目
石灰町
道仁町

高津町
卜半町
小西町
玉屋町
南竹屋町
南問屋町
高津五右衛門町
西高津町
道頓堀宗右衛門町
同　大和町
同　御前町
同　布袋町
同　久左衛門町
同　立慶町
同　吉左衛門町
同　九郎右衛門町
同　湊町
同　金屋町
新難波東之町
同　中之町

同　　西之町
徳寿町
新戎町
新大黒町
内本町橋詰町
同　　弐丁目
同　　太郎左衛門町
同　　上三丁
北新町三丁目
南新町壱丁目
同　　弐丁目
同　　三丁目
大津町
与左衛門町
松江町
小倉町
鑓屋町
錫屋町
北谷町
南谷町

農人橋壱丁目
同　弐丁目
同　橋詰町
同　材木町
南農人町壱丁目
同　弐丁目
藤森町
追手町
住吉屋町
内久宝寺町
具足屋町
松屋表町
同　裏町
松山町
丹波屋町
尾張坂町
南瓦屋町
はりま町
内安堂寺町
坂田町

玉木町
万年町
立半町
柏原町
生駒町
宮崎町
因嶋町
龍蔵寺町
桜町
鈴木町
上堺町
上本町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目北半
同　南半
札之辻町
山家屋町
上清水町
上木綿町

稲荷新町
同　禰宜町
同　門前町
玉造柏木町
同　左官町
同　中之町
同　平野口町
同　下清水町
同　大和橋町
同　伏見坂町
同　森町
南堀江壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
橘通八丁目
幸町壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目

同　四丁目
同　五丁目
瓢箪町
佐渡屋町
九軒町
西高津新地町数九丁、壱丁目ゟ九丁目迄
天満組
南北町
天満壱丁目
同
旧屋町
同二筋有
天満弐丁目
同
今井町
同
長柄町
同
鈴鹿町

同
源八町
同
友古町
同二すし有
天満三丁目
同
空心町
同二筋有
天満四丁目
南北丁
金屋町
同三筋有
典薬町
同
板橋町
同二筋有
信保町
東西
岩井町

南北二筋有
天満五丁目
南北
唐崎町
同二筋
龍田町
同断
天満六丁目
南北通
右曲屋町
同二筋
天満七丁目
南北木挽町共言
高嶋町
南北帯屋町共言
河内町
同二筋有
瀧川町
同
天満八丁目

同
同　農人町
同　椋橋（くらはし）町
同　市之町
同　天満九丁目
同　同　十丁目
同　宮前町
同　又次郎町
同　摂津国町
同　綿屋町
同　夫婦町

同　池田町
東西　五筋有
東西　藤原町
同　鳴尾町
同　東樽屋町
南北　地下町
東西　天神筋町
南北　魚屋町
同　南森町
同　北森町
同　旅籠町

同
越後町
同
堀川町
同
有馬町
東西三筋
樋上町
東西
西樽屋町
同
源蔵町
南北
伊勢町
東西三筋
天満十一丁目
東西
小嶋町
南北
北富田町

同　南富田町
同　北木幡町
同　南木幡町
同　下半町
東西　老松町
同　舟大工町
同　堂嶋舟大工町
同　裏壱丁目
同　裏弐丁目
同　弥左衛門町
同

承来町
安次（ママ）川上壱丁目
同　上弐丁目
同　北弐丁目
同　北三丁目
同　南壱丁目
同　南二丁目
同　南三丁目
同　南四丁目
堂嶋新地壱丁目
同　弐丁目
同　三丁目
同　四丁目
同　五丁目
同　中壱丁目
同　中弐丁目
同　中三丁目
同　北町
同　裏町
曽根崎新地壱丁目

同　　弐丁目
同　　三丁目
御池通壱丁目
同　　弐丁目
同　　三丁目
同　　四丁目
同　　五丁目
橘通壱丁目
富嶋壱丁目
古河壱丁目
富嶋弐丁目
勘助嶋臼井町
川本町
船津町

北組

町数合弐百四拾九町
家数六千八百八十八軒
役数合八千七十一七分一厘六
内

四百廿七半三歩　無役
　此役
弐役　北組惣会所付屋敷共
壱役　地下樋上屋敷
弐役　橘播通弐丁目仁徳天皇宮屋敷
壱役　御伝馬番所
壱役　銀座屋敷
弐役　惣年寄屋敷
弐百十六半　丁々年寄屋敷
壱役　廻船仲間会所屋敷
三役　同年寄屋敷
壱役　釣鐘屋敷
九十弐半　傾城屋
残七千六百四十三半四分一厘六毛役

南組
町数合弐百五十弐丁
家数合八千九軒
役数合八千八百卅八五厘役
内五百五十三半三歩無役

此役

弐役　いせ上人屋敷
四十一役　伝馬町
三役半　惣会所屋敷付屋敷共
七役　八幡宮屋敷
壱役　安井九兵衛由緒屋敷
弐役　寺僧藤右衛門屋敷
五役　御瓦御用相勤候寺僧藤右衛門手代五人
弐役　瓦葺同断
壱役　質屋会所屋敷
七役　惣年寄屋敷
弐百卅弐五厘役

町々年寄屋敷

百八弐歩五厘役

同会所屋敷

壱役　松之辻町御預ケ屋敷
弐役　質屋年寄屋敷
百四十弐役　傾城屋
残八千弐百八十四役
又高津新地町数九丁増

役数
家数

天満組

町数合百四丁
家数三千五百廿壱軒
役数合三千七百五三歩三厘九毛役
内
百卅八三分五厘役　無役
此役
壱役　惣会所屋敷
五役　惣年寄屋敷
八十五三分五厘　町々年寄屋敷
四十六役　同会所屋敷
壱役　舟惣代屋敷
残三千五百三十六半四分八りン九毛役

町数三郷合六百五丁
又高津新地九丁
家数壱万八千四百十八軒

役数弐万六百十五壱分五厘役
　内
千百十九半四分五厘役　　無役
残壱万九千四百九十五壱分五厘五も役
　しかし此役之事ハ年々増減有之候

大坂惣橋数弐百四十四ケ所
　外ニ算盤橋御城内ニ有之

大坂三郷家借家
竈数拾万弐千廿四軒
人数三十九万七千六百四十人
　内弐千九百七十人　傾城屋茶屋役者
〆
又　七千八百人　垣外
　七千八百人　小家之者
　弐百七十八人　聖
　六千三百人　穢多

大坂橋名

大和橋
平野川
鴫野橋
鱠江川東ゟ
野田橋—備前嶋橋
古大和川筋
京橋
淀川筋
天満橋—天神橋—難波橋
堂嶋川東ゟ
大江橋—渡辺橋—田蓑橋
玉江橋
同川筋并蜆川落合
船津橋
土佐堀川東ゟ
栴檀木橋　淀屋橋　肥後橋　筑前橋　常安橋　越中橋　湊橋
江戸堀川東ゟ
撞木橋　犬斎橋　阿波橋　大目橋　西北橋
京町堀
東上橋—壱丁目橋—羽子板橋

六丁目橋―千秋橋―両国橋
　同川并海部堀川落合
茂左衛門橋
　海部堀河南東ゟ
門樋橋　永代橋　上海部橋　中海部橋　下海部橋　剣先橋
　阿波堀川東ゟ
幸橋　新橋　下奈良屋橋　太郎助橋　是嶋橋　豊橋
　さつま堀川　北ゟ南へ
　　東ゟ西へ
嶋ツ橋　さつま上之橋
同中筋橋　さつま橋

　立売堀川東ゟ
新一橋―立売橋―阿波橋
中橋―宍喰屋橋―西二橋
高橋
　長堀橋東ゟ
安綿橋―新橋―長堀橋
中橋―三休橋―心斎橋
さのや橋―炭屋橋東（四ツ橋之内）―吉野や橋西（四ツはし之内）

宇和嶋橋―富田屋橋―問屋橋
下白髪橋―鰹座橋―親玉造橋
高橋
　堀江川　東ゟ
堀江橋　隆平橋　高台橋　瓶橋　鉄橋　水分橋
　道頓堀川東より
下大和橋―日本橋―相合橋
太左衛門橋―戎橋―大里橋
住吉橋―幸橋―汐見橋―
―日吉橋
　東横堀橋北ゟ
今橋―高麗橋―平野橋
思案橋―農人橋―久宝寺橋
安堂寺橋―末吉橋―九之助橋
瓦屋橋―上大和橋
　西横堀川北ゟ
西国橋―舟町橋―斎藤橋
筋違橋―呉服橋―京町橋
瓦町橋―相生橋―安土橋

信濃橋―奈良屋橋―江達橋
篠橋―助右衛門橋　新町橋
上繫橋（四つ橋北ノはし）　下繫橋（同断南ノはし）　御也橋
木綿橋　金屋橋
　天満堀川南ゟ
泰平橋―樋上橋―樽屋橋
天神橋―堀河橋―寺町橋
　蜆川筋　南ゟ北へ
　　東ゟ西へ
難波北橋―堂嶋橋―桜橋
緑橋―梅田橋―汐津橋
　雑喉場川北ゟ
江子嶋上之橋―同下之橋
　戎嶋前川
亀井橋

　摂河両国御朱印寺社

摂州

摂州川辺郡真言律
和州西大寺末寺
御朱印地五百石　高尾山　多田院

同郡尼崎城州　愛宕郡
龍宝山大徳寺末寺
同　五十石　胡崇山　栖賢寺

同所同末寺
同　三十石　瑞雲山　広徳寺

同郡丹生山田真言
城州醍醐院三宝院末寺
除地高拾四石余　丹生山　明要寺
但御当家御朱印無之
秀吉公極印計有之

同郡沢戸村真言宗
高野山連寿三昧院末寺

御朱印地高　　高野山　福祥寺
拾六石四斗余

同郡板宿村禅宗
瑞龍山南禅寺末寺

同　山林境内　　神撫山　帝釈禅昌寺

同嶋下郡惣持寺真言宗
高野山谷上宝城院新法末寺

同　廿五石三斗余　　補陀落山　惣持寺

同嶋上郡　富田庄禅宗
城州京大雲山龍安寺末寺

同　百七十四石　　慈雲山　普門寺
四斗四升六合

同郡天台宗江州比叡山
延暦寺末寺

同　拾六石五斗余　　根本山　神峯山寺

同嶋下郡真言宗
釈迦文院末寺
　応頂山　勝尾寺

摂丹境青野禅宗
曹洞派能登国持
　永沢寺

摂州住吉郡
　住吉社領

同東成郡
　荒陵山　四天王寺

同郡
　生玉明神社領

同豊嶋郡古儀真言宗
高野山谷上西禅寺末寺

同　山林境内

同　山林境内

同　弐千六十石

同　千七十石余

同　三百石

同　除地山林竹木　　久安寺
境内拾八石四斗九合

同　弐反五畝三歩　　牛頭天皇宮　　同川辺郡瀬江村

同豊嶋郡

同　除地境内　　岡町　　原田明神
山林竹木

同郡天台宗
聖護院御支配所

同　同断　　箕面山　瀧安寺

河州

河州渋川郡亀井村
禅宗城州瑞龍山南禅寺支配

御朱印地高
拾九石八斗　　万松山真勒渡　国禅寺

同若江郡八尾村禅宗

右同断末寺初田山　常光寺

同拾七石弐斗余

同　山林境内　同河内郡出雲井村　平岡明神

同　五十石　同丹南郡真言宗城州仁和寺末寺葛井村　剛琳寺

同志紀郡道明寺村真言律宗　無本寺

同　百七十四石弐斗　道明寺

同古市郡誉田　八幡宮社領

同　弐百石

同郡壺井村　壺井八幡宮

同　八十石　壺井権現

同郡通法寺村
石丸山　通法寺
同　弐百石

同錦部郡真言宗
仁和寺末寺天野山
金剛寺
同　三百七石

同石河郡上太子真言宗
無本寺磯長山
叡福寺
同　七十石七斗余

同郡観心寺村真言宗
無本寺桧尾山
観心寺
同　弐十五石

同大錦郡茨田尾畑村
浄土宗京本願寺門下
松櫂山松谷　光値寺
同　除地境内
山林竹木

摂河合三十ヶ所

七十三

家賃銀利銀斗滞候趣、利請人を相手取、出訴之者有之、聞書覚

一、元銀ニ不構利銀斗を請人相手取、御願申上候所、対決之上被仰渡候ハ、先利銀滞候上ハ家屋敷を請取、本人身上限り之上ニて、其上ニも利銀不足之時ハ、請人を相手取可願出事ニ候趣被仰渡候段、承り及候

東

宝八寅十月　岡部様御月番

七十四

穢多

抑河原仁之氏神と申奉ハ、天竺毘舎国之大王縁太郎王子と申候、兄ハ判護天王之王子ニテ御座候、彼王子悪王人会食とシ、人間之命捕候所、釈尊舎利弗ヲ以テ食為御使と御尋有、彼縁太郎王子則参り、釈尊五百人仏弟子於御前ニ、懇ニ被申候様ハ、更我等依無食物人会食仕候と被申ケレハ、其時

仏弟子曰、其儀ナラハ御寺内之仏施餓鬼、又ハ堂塔供養、大法会之火物仏之供養、鐘之供養、千部万部経、橋之供養、此仏供取可続命、仍如件

一、釈尊類徳山霊寿山移給、御父上品大王・御母摩耶夫人孝養之ため、報恩経百日説せ給時、牛馬之皮ヲ取、大鼓鞨鼓張、釈尊へ参上候、御恩賞ニ霊寿山竹林将舎・祇園将舎其外天竺之内大加藍大鼓張申ニ依テ、則細工守護神と御定候ニ依テ、此謂三国共ニ此儀也、彼祇園将舎と申御寺ハ、殊達長者と申仁御弟子と也、当り乾原四方四十里也、又金辻門十方ニ有構、此内閻浮檀金金ヲ厚サ四寸、四方六寸ニ〆、地ニ敷、其上四十九院之内テ立学、極楽浄土給へり、四方ニ鐘ヲ下給、東ハ諸行無常ト鳴、南ハ是生滅法と響、西ハ生滅々己と鳴、北ハ寂滅為楽と鳴、四方人ニ無常を為知せ也、彼是天竺大唐我朝三国鐘下給り、彼門前ニ八万軒之在家ヲ立、月之八日ニ市ヲ立給、万八色ノ売草諸公事御免候也

一、彼縁太郎王子日本秋津嶋へ我手之指ヲ七つニ切テ投給ハ、近江国志賀之浦ニ留り人之形と成、其名ヲ粟舎利と申也、其時近江国古続長者と申此長者慳貪第一之者ニ而候程ニ、祇園牛頭天王、天竺ヨリ飛来給、彼長者ニ罰ヲ当給時、彼粟舎利蘇民将来ガ命斗ヲ助候、長者親一門弐百余人頓病ニテ死終テ候、其時頓病所へ蘇民持来ト言札ヲ立置給、其外之病平安ニ成事此謂也

一、牛頭天王御供粟之飯ヲ依奉備、播州弘嶺ノ天王ノ御百膳ニモ粟飯ヲ備申事此謂也、粟舎利蘇民将来と申親ハ志賀浦ニ住給、河原人之先祖ニ而候、粟舎利ハ志賀之明神ニ祝玉フ、弘嶺殿ニ而剰殿と倡仰奉也、蘇民将来ハ谷官者殿トアカメ給、近江国山王、京之祇園殿、播州之弘嶺殿、是ハ細工之氏神也、山王廿一社之内、唐崎之明神三条河原彦次郎祝玉フ、毎年御祭ニハ御幸有り、一夜御輿を居舞遊ひ給なり

一、垂仁天皇之御時、大内裏橋立成就不仕シテ御かと御のう候所ニ、彼蘇民将来柱を建申候、共覆(ママ)

日本六十六ヶ国内ニ国分寺同日之時、彼蘇民将来と云札を門門立給へは、其内之病気平安成事也

一、天照太(ママ)神之内宮・外宮之御宮移之祝給候、鐘之供養、鳥居之供養、橋之供養従国司被仰付給候

一、八幡宮九州四王寺之嶺ニ顕レ玉シヨリ、部之南男山ニ御幡八流候時、鹿之皮千枚、馬之皮千枚敷、七日七夜御神楽参候時、八幡宮と顕玉り、本地弥陀ニテ御座候、祭之時ハ先鞭ヲ振候

一、比叡山ハ伝教大師之建立、桓武天皇之御願也

一、高野山弘法大師御建立、大塔金堂之供養給り候

一、奈良之京之東大寺ハ聖武天皇之御願也、十六丈遮那仏之供養、其外七堂之内給ル

一、春日殿御前祝給、鳥居之供養、足堅給也

一、葬場之事、上下之水引、輿之まわり申給、輿之縄、タエマキ、エンシヤク、袋幕之石突、引馬アレハ左之鐙、蓑、笠、輿之水引、膳之綱皆給也

一、幡幕之役ハ二ツ引量桐之三ツトウ、又鹿子を芦葉ニ引りやうなり

一、春ハ箕田之実進退之者也

一、卯月八日石楠花ヲ売事、釈尊御誕生之時也

一、藺ト申物、牛之死タル頭ヨリ出タルニ依テ、進退之ものなり

一、染物と申事、染殿之后ゟ始ル也

一、御庭ト申事ハ、ムソウ国司より初ル也

一、弓始メ馬之乗初、都ゟ始也、其外伍山・拾山・公家・武家・社家・在家、皆御祝給事、都より初也

一、七道之者延喜之従御門始舞々猿楽傀儡子□家ニ成ものニより、酒を呑也

仍細工巻物状如件

于時大宝元庚子年二月八日

藤原頼兼

長吏周左衛門

座頭

舞々

猿楽

陰陽師

壁塗

土鍋師

鋳物師

辻目榜

非人

猿引

鉢拍

弦指

土器作

石切

放下師

笠縫

渡守

青屋坪立
山守
筆結
墨師
関守
鐘打
獅子舞
蓑作
傀儡師
傾城屋

右之通外道々之者数多雖是有、皆以長吏可為其上旨、但盗賊之輩は除也

一、頼朝公之御判有之湯屋・風呂屋ハ傾城屋之下ニ可付、人形舞浄瑠理語ハ傀儡師之下ニ付ケ、雪踏作・草細工膠を遣類ハ皆々弐十八番之可為下也、従　頼朝公御諱名字被下有指図、是鎌倉住人藤原頼兼周左衛門

寛文七丁未年三月二日

右二月廿二日於江戸金剛太夫勧進能有之候、則従廿三日天気悪敷、同廿八日ゟ始り、以上四日なり、諸大名之桟敷八十軒、舞台并楽屋已下讃岐守御取持ニて結構事也、初日ニハ子細なく能仕り候、太夫ゟ兼而周左衛門方へ案内不届申候ニ付、舞台打破と申、廿八日之朝諸大名衆丁人貴賤群集之所へ、能初り可申時分ニ周左衛門手之者五十人余引具、武具を帯、上下ニ而舞台へ登り、犬之皮廿枚積置、

楽屋へ使を立て言ク、金岡太夫是へ出候得、可申子細有之候、其上可相渡物有之、と申候得ハ、出合者無之間、従　御老中御使立、色々と御噯被成候ニ付、周左衛門退出仕、能果候而已後御尋如此ニ候なり

則御朱印指上申候、以上

一、私先祖摂州池田ヨリ相州鎌倉へ罷下り相勤候所、長吏以下之者依為強勢、私先祖ニ支配被為仰付、頼朝公御証文は鎌倉若宮八幡宮ニ奉納候、此書物之儀ニ付、則別当之御書付等も御座候、依之任先例今鎌倉八幡宮御祭礼御輿先立之供奉、長吏共為帽子素袍式上下着し相勤申候

一、寅御入国之御時、私先祖武州府中迄罷出、鎌倉ゟ段々相勤候由緒申上候得ハ、御役儀等長吏以下支配被為仰付候、其節小田原長吏太郎左衛門、小田原氏直公之御証文を以、長吏以下支配之儀奉願候得共、長吏以下無御取上、其御証文被為召上、先祖ニ被下候、其後元禄五申年上州下仁田村馬左衛門長吏之儀論ニ付、甲斐信玄公御証文を以論仕候所、其御証文御評定ニ而被為召上被下候

一、御入国之御時、御馬足痛踏榴致被仰付、御馬為御祈祷猿曳御尋之上、私先祖支配之猿曳召連罷出候得ハ、病馬快気仕候、御褒美ニ鳥目頂戴仕、為其御引例毎年正月十一日御城中様御台所ニ而頂戴仕候、中古ゟ西之御丸下従御厩御判頂戴仕、御納戸方ゟ御鳥目頂戴仕候

一、御入国之御時之格式ニ而、唯今迄年始之御礼元日御老中様へ罷上り、夫ゟ段々諸御役所様へ相勤申候

一、従先前言下之女、御関所通り候節ハ、私一判ニ而御留守居様方へ申上、御判頂戴仕通申候

一、私所持仕候印判は、濃州青野原御合戦之時、私先祖ニ首御預之節、集房と申文字之印判為割符被下候、此印判今用申候

一、九十年程以前、灯心挽候者御城様へ上、燈心細工御扶持頂戴仕候
一、灯心商ひ之儀、御仕置者御役仕候由緒ニ而、瀬戸物町・小田原町両辻ニおゐて役之者六十五人之内、毎日罷出無地代商仕来候、浅草観音市場何方ニ罷仕来候、都燈心細工并商之儀、従古来私一名之家業ニ御座候
一、御役目相勤候儀ハ、御厩へ御用次第御絆綱指上申候、并武州府中御厩下綱小金村御厩へ御絆綱指上申候、其外御陣太鼓・時之御太鼓、并御陣御用之草類御用次第差上申候

右之奥ニ餘多口上書有之候得とも、筆を留メ申候、右之書付之浅草弾左衛門、享保十巳九月ニ大岡越前守様御与力上坂亦左衛門様へ江戸ニて書上候記録之御帳面ニ御留被為遊候由ニ相見得申候

右河原仁書物一巻隣町経師細工人之所へ表紙を致させニ、大坂蔵屋敷方ゟ来り有之を、筆まめ成近所之者写取、是を見せ申ニより、無用之者ニ候得共、爰ニ記置候

七十五

虚無僧

総州小金一月寺・武州青梅鈴法寺門弟共相用ひ候ふかあみ笠、在々ニ而商売仕候もの共、以来両寺又ハ其最寄ニ而右末流之寺院ゟ、印鑑請取置合印持参不候ハゝ、虚無僧并商人たり共、堅売不申候様可致旨、御領ハ御代官、私領ハ領主地頭ゟ可申渡候

十月
右之通被相触候
右之通三郷町中可触知者也
宝暦九年卯三月

大坂虚無僧支配之寺
天満

宝暦十辰三月
一、綿延売場御免　小西町ニて立ル
同年同月
一、銭小貸会所御免　石町ニ而会所立

町年寄
御用聞之町人并丁代

七十六

一、年寄・用聞之者、御用之節不参仕候、難勤者ハ早々差替可申事、無拠代り之者出候時ハ、前日ニ其旨御断申上候様被仰渡候

是迄丁代共断出候品も有之候、以来ハ何事ニ不依丁人共罷出候て可申上之旨被仰渡候

宝暦十辰年　年寄用聞之事ハ二月

丁代之儀ハ四月